

公式

HAWAII Driver's Manual



問題&回答つき
ハワイ州交通局
運転免許試験
マニュアル

\$5.20

運転免許オフィス (ライセンスング・オフィス)

ホノルル統合市郡

ホノルル - 925 Dillingham Boulevard, Suite 101A、電話：768-9100

Downtown, Fort Street Mall (更新&再発行、8:00 a.m.-4:00 p.m.)、電話：768-4145。

ハワイカイ・タウンセンター 6600 Kalanianaʻole Highway #101

(更新&再発行、8:00 a.m.-4:00 p.m.)、電話：768-4800。

アイエア - パールリッジ・ショッピングセンター 98-1005 Moanalua Road

244B (更新&再発行、9:00 a.m.-5:00 p.m.)、電話：768-5200。

カネオヘ - コオラウ・センター 47-388 Hui Iwa Street、電話：239-6301。

ウィンドワード・シティ・ショッピングセンター 45-480 Kaneohe Bay Drive C06 (更

新&再発行、8:00 a.m.-4:00 p.m.)、電話：768-4100。

カポレイ - 1000 Uluohia Street、電話：768-3100

ワヒアワ - 330 North Cane Street、電話：768-4054。

ワイアナエ - 87-670 Farrington Highway (月曜日&水曜日)、電話：768-4222。

受付時間：月曜日～金曜日 (祝日を除く)、7:45 a.m.～4:00 p.m.

試験受付時間：7:45 a.m.～3:30 p.m.

ハワイ郡

ヒロ - 349 Kapiolani Street、電話：961-2222。

ウェストハワイ・シビックセンター 74-5044 Ane Keohokalole Highway、

電話：323-4800。 ナアレフ - 95-5355 Mamalahoa Highway、電話：854-7214

(火曜日&水曜日、予約制)。

パホア - 15-2615 Keaau-Pahoa Road、電話：965-2721

(月曜日～金曜日：8:00 a.m.～3:30 p.m.)。

ワイメア・センター 65-1158 Mamalahoa Highway Suite 1-A、電話：881-3488。

受付時間：月曜日～金曜日 (祝日を除く)、7:45 a.m.～4:00 p.m.

試験受付時間：8:00 a.m.～3:00 p.m.

マウイ郡

カフルイ・サービスセンター、Maui Mall, 70 E. Kaahumanu Avenue、

Suite A17、電話：270-7363。

ラハイナ - 900 Front Street, Unit I-17、電話：270-7363。

ハナ - 4610 Hana Highway (火曜日～木曜日、8:00-11:00 a.m.)、

電話：248-7280。

キヘイ - 303 Lipoa Street (月曜日～金曜日、8:00-10:45 a.m. & 12:00-3:00 p.m.)、

電話：270-7363。

モロカイ - ミッチェル・パウエル・センター 100 Ailoa Street、電話：553-3430。

ラナイ - 717 Fraser Avenue、電話：565-7878。

受付時間：月曜日～金曜日 (祝日を除く)、8:00 a.m.～4:00 p.m.。電話：

808.270.7363またはウェブサイト <http://co.maui.hi.us/2125/DMV-Wait-Times> を参照。

カウアイ郡

リフエ・シビックセンター Kapule Building, 4444 Rice Street Suite 480、

電話：241-4242。

受付時間：月曜日～金曜日 (祝日を除く)、7:45 a.m.～4:00 p.m.

(c) Copyright 1977, 2006 Director of Transportation, State of Hawaii

本マニュアルのいかなる部分も、ハワイ州交通局長官の書面による許可なしにはいかなる形であれ複製することを禁じます。

Printed and published by Hagadone Printing Company, Inc. 274

Puuahale Road, Honolulu, Hawaii 96819, Phone 847-5310



ハワイ州知事室
HONOLULU

デヴィッド・イグ
ハワイ州知事



アロハ、

皆様は、これからハワイの道路で車を運転するための技能を学び、その責任を担おうとされています。道路では州が定める交通法規に従い、どうぞ安全な運転習慣を身につけてください。運転者として、皆様には他の人々の安全に対する法的な責任と倫理的な責任があることをどうぞいつも心に留めておいてください。

運転するときには、いつも「アロハ・スピリット」を発揮していただきたいと思います。忍耐と礼儀を持ち、道路の状況にいつも目を配ってください。本マニュアルの情報は、皆様に安全で法規を守る礼儀正しいドライバーとなる方法を示しています。注意深く読み、その知識を毎日に活かしてください。あなたが良きドライバーとなれば、他の人もあなたの後に続くことでしょう。

どうぞ安全運転で、私たちの美しいハワイ州でのドライブを楽しんでください。

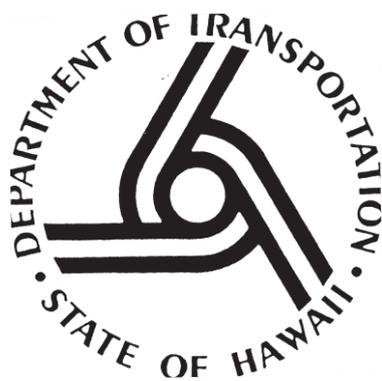
敬具、

デヴィッド・イグ
ハワイ州知事

所轄機関およびウェブサイト

1. ハワイ州交通局 モータービークル・セーフティ・オフィス
<http://hidot.hawaii.gov/highways/library/motor-vehicle-safety-office/> (プログラム統括)
2. ホノルル統合市郡 カスタマーサービス局
www.co.honolulu.hi.us/csd/vehicle
3. マウイ郡 財務局
www.mauicounty.gov
4. ハワイ郡 財務局
車両登録およびライセンス課
[/http://www.hawaiicounty.gov/finance-vrl](http://www.hawaiicounty.gov/finance-vrl)
5. カウアイ郡 財務局
<http://kauai.gov/DriversLicense>

注：詳細は、表紙および裏表紙の裏面をご覧ください。



ハワイ州交通局

はじめに

本マニュアルは、皆様がより安全な運転者となるため、またハワイ州の運転免許証取得の資格を得るために役立つガイドとして作られています。本マニュアルに収められている内容は、州の法律や郡の条例、および正規に採択された規則や規定に代わるものではありません。

運転免許オフィスでは、追加のマニュアルが販売されています。

また、「**Motorcycle Operator Manual**」(DOTH2053)には、オートバイの運転についての法規や運転技術についてのより詳細な情報が記載されています。

さらに「**Driver's Manual for Commercial Vehicle Driver Licensing**」(DOTH2044)では、事業用自動車の運転免許取得に必要な知識とスキルを紹介しています。

しばしば、本マニュアルの発行後に法規や条例が変更されることがあります。4ページに記載されているウェブサイトで、最新の情報をご確認ください。これらのウェブサイトには、身分証明、および生年月日、ソーシャルセキュリティー番号、米国居住権、住所などの証明に必要な書類の詳細が記載されています。書類によっては、複数の用途を果たす証明となります。例えば、出生証明書は、法律上の氏名、生年月日、米国居住権または市民権の証明となります。主たる住所の証明には2通の文書が必要です。身分証明、生年月日、ソーシャルセキュリティー番号、米国居住権および主たる住所の証明として有効な書類についての詳細は、ウェブサイト <http://hidot.hawaii.gov/hawaiiis-legal-presence-law/> をご覧ください。追加の情報は、ウェブサイト <http://hidot.hawaii.gov/highways/home/doing-business/hawaii-administrative-rules/> に掲載されているハワイ州条例 19-122 をご覧ください。

ハワイ州運転者マニュアル

知事からのメッセージ	3
所轄機関	4
はじめに	6
目次	7
用語の定義	8
第I章 運転免許について	10
第II章 車両の装備と検査	20
第III章 車両の登録	23
第IV章 運転者	26
第V章 交通法規、条例、規則と規制	28
第VI章 信号、標識、車線標示	35
第VII章 事故時の対処	54
第VIII章 ノーフォルト保険-賠償資力証明	55
第IX章 アルコールとその他の薬物	57
第X章 安全運転の技術	59
第XI章 トラック、バス、オートバイ	87
第XII章 歩行者の安全	97
第XIII章 自転車の安全	99
付録	
運転免許試験問題	101
運転免許関連事務所および施設の住所および 電話番号	表紙および裏表紙の 見返し

定義

放置車両	主要道路（ハイウェイ）上に24時間以上無人で放置されている車両。
緊急車両	警察、消防、または連邦政府の類似機関の車両、並びに連邦、州、郡の救急車、および条例により指定された民間車両で、適切な赤または青の点滅灯と警告音システムを有する車両。
自転車	直径が16インチ以上の車輪を2つまたは3つ備え、人力で推進する装置。
バス	10名以上の乗客を運ぶように設計されており、人の移動に使われるすべての原動機つき車両。
ビジネス地区	主要道路（ハイウェイ）から600フィート以内に事業または工業目的に使用される建物があり、その建物の主要道路に面している長さが少なくとも300フィートあるか、または主要道路の両側にそうした建物があり、道路両側の建物が道路に面している長さの合計が300フィート以上ある地区で、主要道路を含む。
事業用自動車	<p>運転免許上の定義においては、事業用自動車とは乗客または物資を事業目的で運搬する車両または連結した車両の組合せで以下に当てはまるものを指します：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 車両の組合せ総重量評価が牽引部分を含め26,001ポンド以上で、車両の総重量評価(GVWR) が10,000ポンド以上のもの。(2) 単独の車両で総重量評価が26,001ポンド以上のもの。(3) 総重量評価にかかわらず、運転者を含め16名以上の人員を運ぶように設計されている車両。(4) 総重量評価にかかわらず、標識の掲示が義務づけられている危険物を運搬する車両。 <p>運輸法における定義では、事業用自動車とは主要道路で乗客または物資の運搬のために使われる自走式または被牽引式の車両で、以下に当てはまるものを指します：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 車両総重量評価または組合せ後の車両総重量評価、または車両総重量または組合せ後の車両総重量のいずれかが10,001ポンド以上の車両。(2) 運転者を含め8名以上の人員を対価を得て運ぶ目的で設計された車両。

- (3) 運転者を含め15名以上の人員を対価を得ずに運ぶ目的で設計された車両。
- (4) 標識の掲示が義務づけられている量の危険物を運搬する用途に使われる車両。

事業用運転免許 「49 CFR Part 383」の基準に基づき、州またはその他の法域により事業用自動車を運転する資格を有する個人に対して発行される免許。

横断歩道 歩道の縁石、縁石がない場合は道路の縁、または交差点内で横断が開始されるその他の位置を起点として、主要道路を横切り、道路の両側に位置する歩道をつなぐ部分。または、交差点内またはその他の道路の中で路面にラインその他により歩行者の横断用であることが明確に示されているすべての部分。

運転者（ドライバー） 車両を運転または物理的に制御する人物。

車両総重量評価 車両の重量に、車両が積載できる重量を加えた重さ。

主要道路（ハイウェイ） 公共の機関により管理維持されており、一般に車両の通行を目的として利用されている道路の全域。

安全地帯（セーフティゾーン）

歩行者の使用のため、道路の中に特別に設けられ、はっきりと目につくように明示され、保護されている部分。

注：さらに詳しい用語定義は、ハワイ州条例改正(HRS)291C号「The Statewide Traffic Code」および同286-2号をご覧ください。ウェブサイト <http://capitol.hawaii.gov/>でご覧いただけます。

第1章 運転免許について

免許取得の免除

以下に当てはまる場合は、ハワイ州の運転免許証取得を免除されます。

1. 連邦政府に雇用されており、連邦政府機関が発行する有効な運転免許証を有する方が連邦政府所有の車両で事業用自動車の定義に当てはまらない車両を運転する場合（連邦の消防士および現役軍人は免除対象）。
2. 13歳以上の運転者が、整地用グレーダー、農場用トラクター、または農業機械を一時的に主要道路で運転する場合。
3. 少なくとも18歳以上であり、アメリカ合衆国のいずれかの州、コロンビア特別区（ワシントンDC）、プエルトリコ自治連邦区、米国領ヴァージン諸島、米国領サモア、グアム、カナダ、または北マリアナ諸島で発行された、ハワイ州のクラス1、2、または3の運転免許証と同等の有効な運転免許証を所持している場合。外国で発行された運転免許証を国際運転免許証と合わせて携行する場合は1年間有効です。
4. 21歳以上の非居住者で、アメリカ合衆国のいずれかの州、コロンビア特別区、カナダ、またはメキシコで発行された事業用運転免許を有している場合。

注：外国で発行された運転免許証を国際運転免許証と合わせて携行する場合は、到着日（米国に入国した日）から数えて1年間有効です。

運転免許証の取得資格

以下に当てはまる場合、ハワイ州の運転免許証は取得できません。

1. 法廷により運転免許証を停止または取り消された後の免許停止期間中である場合。
2. 無免許で飲酒運転をして有罪となった後2年間は、免許が取得できません。
3. 免許取得のための試験に合格しない場合。
4. 賠償資力証明に関して要求されている法令上の要件が遵守できない場合。
5. 身体的または精神的・知的障害のために免許申請者は主要道路で車両を安全に運転することができないと判断する正当な理由を審査官が有する場合。
6. 申請者が16歳から18歳の間で、両親または文書に記録された法的監護権限を持つ保護者の同意がない場合。
7. 16歳未満の場合。
8. 身体上または精神上の理由で法律により欠格と定められている場合。
9. 未払いの交通違反反則金がある場合。

身分証明と居住権証明

2012年3月5日以降、運転免許証取得について、身分証明と米国居住権に関する新しいセキュリティ条項が追加されました。運転免許の新規取得や更新を申請する方は、米国での身分と合法的な居住権の証明として、以下の文書のうち少なくとも一つの文書の原本または謄本の提示を求められます。身分証明および居住権証明となる一般的な文書の種類は以下に示されています。さらに詳しい情報はウェブサイトをご覧ください：

<http://hidot.hawaii.gov/hawaiis-legal-presence-law/>

下線で示した文書は、身分証明と居住権の証明の両方に使用できます。

- (1) 有効期限内の米国のパスポート。
- (2) 出生した州の証明書課 (office of vital statistic) または同等の機関が発行した出生証明書の謄本 (certified copy)。
- (3) 米国国務省発行の海外出生届 (Consular report of birth abroad) 、 (フォームFS-240、DS-1350、またはFS-545)。
- (4) 米国国土安全保障省(DHS) または移民局 (INS) 発行の有効期限内の永住者カード (フォームI-551)。
- (5) 米国国土安全保障省(DHS) 発行の有効期限内の就労許可証 (フォームI-766またはI-688B)。
- (6) 以下の文書のうちいずれか一つと組合せた有効期限内の外国発行のパスポート：有効期限内の米国ビザ、または申請者の米国への直近の入国日を記録しているかもしくはDHSにより入国許可のスタンプを押されたI-94フォーム。
- (7) 米国国土安全保障省(DHS) 発行の帰化証明書 (フォームN-550またはN-570)。
- (8) 米国籍証明書 (DHS発行のフォームN-560またはフォームN-561)
- (9) 証明書類と異なる氏名を使用している申請者 (結婚、養子縁組、裁判所命令、または州法もしくは条例で許可されたその他の理由により) は、氏名の変更を証明するため、裁判所、政府機関、またはその他の機関発行の書類を提出しなければなりません。
- (10) 提出された文書に問題がある場合、追加の文書提出が求められることがあります。

主たる住所を示す文書には、申請者の氏名とハワイ州内の主たる住所が明記されていなければなりません。主たる住所とは、一時的であっても申請者が現在居住している住所を示します。住所の証明に使用される文書には、運転免許証、車両登録証または所有証書、選挙人登録証、2か月以内の公共料金請求書などがあります。証明として使用できる文書の完全な一覧は、ハワイ州条例19-122-302(2) (D)に示されています。(ウェブサイト

<http://hidot.hawaii.gov/highways/home/doing-business/hawaii-administrative-rules/>で
ご覧いただけます)

ソーシャルセキュリティー番号を提示しない選択をした申請者、またはソーシャルセキュリティー番号を取得できない申請者は、運転目的のみの運転免許証を取得できる場合があります。この免許証は運転目的のみに有効とされ、空港での搭乗手続きなどを含む連邦政府機関での身分証明としては使用できません。

免許証の種類

路上練習許可証（インストラクション・パーミット） - この許可証は、取得しようとしている免許証を所持する他の運転者（少なくとも21歳以上）の監督下で車両を運転することを許可するものです。オートバイを除くすべての種類の車両で、すでに免許証を持つ運転者が右側の座席に座らなければなりません。路上練習許可証を取得するには15歳以上でなければなりません。18歳未満の場合、「未成年者の運転」のセクションを確認してください。

仮免許（プロビジョナル・ライセンス） - 18歳未満の場合、クラス3の免許証を取得する前に少なくとも6か月間は仮免許で運転しなければなりません。詳細は「未成年者の運転」をご覧ください。

原付自転車運転免許証（クラス1） - ハワイ州の主要道路で原付バイクを運転するには、クラス1の運転免許証が必要です。取得するには学科試験と試験場での技能試験に合格しなければなりません。詳細は「Motorcycle Operator Manual」をご覧ください。どの運転免許オフィスでも入手できます。

オートバイ運転免許証（クラス2） - ハワイ州の主要道路でオートバイを運転するには、クラス2の運転免許証が必要です。取得するには学科試験と試験場での技能試験に合格しなければなりません。詳細は「Motorcycle Operator Manual」をご覧ください。どの運転免許オフィスでも入手できます。

運転免許証（クラス3） - クラス3の免許証を取得するには、少なくとも17歳以上でなければなりません。18歳未満の場合は、時間をかけて経験を積み、成熟度を挙げて運転技能を段階的に身につけていくため、段階的免許プログラムを完了しなければなりません。詳細は「未成年者の運転」の項をご覧ください。

その他のクラスの免許証 - その他のクラスの免許証は、特定の種類の車両を運転するために必要となります。その他のクラスの免許を申請するには、21歳以上でなければなりません。各クラスの免許証または裏書事項を取得するためには、試験に合格する必要があります。「カテゴリー4免許証」のセクションを参照してください。事業用運転免許の取得については、「Hawaii Commercial Driver's License manual」を参照してください。

目的限定免許証 - 申請者がソーシャルセキュリティー番号の提示を拒否する場合、または提示できない場合で、その他の条件をすべて満たした場合、その申請者は限定付きの路上練習許可証、限定付きの運転免許証、または限定付きの仮免許を取得することができます。

運転免許証、または路上練習許可証取得のための試験

運転免許証または路上練習許可証取得の申請をした方は、以下の試験を受けなければなりません。

1. 視力検査

2. 道路交通法規と交通機器に関する知識についての学科試験

3. 路上試験

クラス1～クラス3の運転免許取得のための学科試験および路上試験は、申請者が18歳以上で、かつ、以下のいずれかの運転免許証を所持している場合に免除されます：

アメリカ合衆国のいずれかの州、コロンビア特別区、プエルトリコ自治連邦区、米国領サモア、グアム、カナダ、または北マリアナ諸島、またはハワイ州と運転免許の相互承認を行っている国で交付された運転免許証。免許の更新時にも試験が免除されることがあります。

ハワイの運転免許

手続きをすべて完了すると、申請者には以下のような運転免許証が交付されます。

運転免許証には、運転者の免許証番号、生年月日、交付日、有効期限、髪の色や性別などの身体的特徴、運転が許可されている車両の種類を示す免許証のクラスと裏書事項、および免許証の条件事項(視力矯正眼鏡の使用など)が記載されています。

免許証には、運転者が21歳未満であるかどうか、事業用車両を運転するかどうか、また申請者が臓器提供者となることに同意しているかどうか、そして医療に関する事前指示を有しているかどうかも表示されます。



21歳以上の免許証



21歳以上の免許証

未成年者の運転

ハワイ州の段階的免許プログラムについては以下をご覧ください：

hidot.hawaii.gov/highways/files/2013/01/Hawaii-Graduated-Licensing-Brochure.pdf

- 18歳未満の方は、本人が既婚の場合、または親権から解放されている場合を除き、（両）親、または法的な保護者の同意書を提示しなければなりません。
- 路上練習許可証が取得できる最小年齢は15 1/2歳です。
- 視力検査、および道路交通法規に関する試験に合格しなければなりません。
- 路上練習許可証を取得すると、運転免許証を所持する21歳以上の運転者が同乗しているときに限り、どの主要道路でも車両を運転することができます。午後11時から午前5時の間に車両を運転する場合は、両親または保護者のいずれかが同乗していなければなりません。
- 車内の乗員は全員シートベルトを装着またはチャイルドシートを使用せねばなりません。
- 仮免許を申請する前に有効な路上練習許可証を180日間保持しなければなりません。
- 仮免許証が取得できる最小年齢は16歳です。
- 申請者はハワイ州公認の運転教育コースを完了し、学科と実技の修了証を取得しなければなりません。
- 申請者は路上試験に合格しなければなりません。
- 仮免許証で運転する期間中に同乗させて良い18歳未満の乗員は、同居家族を除き1名のみです。
 - 仮免許所持者は、午後11時から午前5時の間は両親または保護者のいずれかが同乗している場合のみ運転できます。ただし、仕事への通勤または運転者の学校が認めるアクティビティへの往復はこの限りではありません。上記時間帯に運転する際は、運転者の両親または保護者のいずれかが同乗する場合を除き、同乗できる18歳未満の未成年者は1名のみです。
- 車内の乗員は全員シートベルトを装着またはチャイルドシートを使用せねばなりません。
- 仮免許を6か月間保持すると、本免許の申請ができます。
- 運転免許証が取得できる最小年齢は17歳です。

運転免許のカテゴリー

クラス

車両の種類

- | | |
|---------|--|
| 1 | 原付バイク。 |
| 2 | オートバイおよびスクーター。 |
| 3 | 車両総重量評価(GVWR)が18,000ポンド未満で、運転者を含め15名以下の乗員を運搬するよう設計されている車両。事業用自動車ではないすべての車両。 |
| 4 | 同上。 |
| A (CDL) | 組合せ時のGVWRが26,001ポンド以上の車両。牽引される車両のGVWRが10,000ポンドを超える場合。 |
| B (CDL) | GVWRが単独で26,001ポンド以上の車両、または牽引される車両のGVWRが10,000ポンドを超えない場合。 |
| C (CDL) | 定義AにもBにも当てはまらない単独の車両または組合せ車両、16名以上の乗員を運ぶために設計された車両、または標識の掲示が義務づけられている危険物を運搬する車両。 |

裏書事項

- | | |
|---------|--------------------------------|
| H (CDL) | 標識の掲示が義務づけられている量の危険物を運搬する車両。 |
| T (CDL) | 2連または3連のトレーラーを牽引する車両。 |
| P (CDL) | 運転者を含め16名以上の乗員を運ぶよう設計されている車両。 |
| N (CDL) | タンク車。 |
| X (CDL) | 標識の掲示が義務づけられている量の危険物を運搬するタンク車。 |
| S (CDL) | スクールバス。 |

CDL裏書事項および制限は、以下のウェブサイトで詳細をご覧ください。

www.fmcsa.dot.gov/regulations/title491/section/383.153

運転技能試験

試験会場には、免許を所持する運転者を同伴し、最新の保安検査の適合証明とノーフォルト保険カードを備えた、安全に走行できる車両を用意しなければなりません。車両に安全上の問題がある場合は試験前に修理しておかねばなりません。

試験中はいかなる交通法規にも違反する指示を出されることはありません。試験に「トリック」「ひっかけ」はありません。試験中は他の人は同乗できません。

オートバイ、スクーター、原付バイクの試験

カテゴリー1&2)

オートバイ／スクーターの免許のための学科試験と、試験場内での実技試験に合格しなければなりません。試験には、道路交通法規、主要道路の標識、オートバイの扱い方についての問題が含まれます。詳細は

<http://hidot.hawaii.gov/highways/library/motor-vehicle-safety-office/>

「Motorcycle Operator Manual」をご覧ください。どのオフィスでも、ウェブサイトでも入手できます。

普通車両の試験（カテゴリー3の運転免許）

カテゴリー3（普通車両、GVWRが18,000ポンド以下の軽量なトラック、および定員15名以下のバス）の運転免許取得申請者に対しては、以下の試験が実施されます。

試験では、以下について実技を示します。

- 車両を始動させ、ビジネス地区を運転する
- 縦列駐車をする
- 運転中を通して、右折・左折、始動、停止を適切な手順で行い、適切な方向指示を行う
- ゆるやかな勾配の坂で発進する
- 交通法規や条例に従い、安全運転を実施する

カテゴリー4の免許

この免許の申請者は、「Hawaii Commercial Driver's License Manual」に説明されている技能試験（保安検査試験、基本制御技能、路上実技試験）に合格しなければなりません。このマニュアルは、どの運転免許オフィスでも、また下記ウェブサイトでも入手できます：

<http://hidot.hawaii.gov/highways/library/motor-vehicle-safety-office>

免許の更新

運転免許証の更新は、ハワイ州内の運転免許オフィスならどこでも受け付けています。免許証は、有効期限の6か月前から更新することができます。ハワイ州のすべての**運転免許証は、有効期限を過ぎると失効**します。失効後の猶予期間はありません。免許証は、有効期限が過ぎて失効した後1年以内は更新が可能です。更新可能期間に更新しなかった場合は、新規に運転免許証を取得し直さなければなりません。更新の前には視力検査に合格する必要があります。また、場合により路上試験が求められることもあります。更新は、連続2回までは郵送で手続きできますが、3回目の更新は試験官に対面する必要があります。免許証の再発行

免許証を紛失・損傷した時、または盗難にあった時は、再発行を申請できます。申請には適切な身分証明が必要です。

運転免許証に記載されている住所または氏名の変更

住所を変更した時は、30日以内に郡の運転免許試験官宛てに書面で通知しなければなりません。通知には、旧住所、新住所、氏名、免許証番号を明記してください。

免許証に記載されている氏名の変更には、氏名変更後30日以内に運転免許試験官のオフィスへ直接出向いての手続きが必要です。

制限付き免許証

障がいを持つ方、または、身体上などの制約のためあらゆる交通状況下で安全に運転することができない方も、運転免許証を取得することができます。つまり、大きな手術を受けた方、手足を切断した方、または重い疾患を持つ方など、健康上の問題を持つ方も必ずしも運転をあきらめる必要はありません。さらに、反射が低下している方や視覚障害のある方も、それらが必ずしも運転の権利喪失につながるわけではないことをご理解ください。

運転免許オフィスは、運転者の医療プロバイダーから提供された診断書を審査し、視力および技能検査を行って、その運転者が車両を安全に運転する力があるかどうかを測定することができます。このアセスメント完了後、運転者の能力に応じた安全な範囲内で引き続き車を運転できる、制限付きの運転免許証が交付されることがあります。

運転者がどのような条件下でも安全に車両を運転できないと判断された場合にのみ、運転免許証が取り消されます。一般的には制限は不要ですが、制限付きの場合、以下の条件のうち1つ以上が運転免許証に記載されます。

運転免許証の制限

コード	説明	コード	説明
B	視力矯正眼鏡着用	P	事業用（CMV）バス乗員同乗不可
C	機械的補助	V	医療特例
D	人工装具補助	W	農作業除外規定
E	AT車限定	X	事業用タンク車の積荷積載不可
F	外付けミラー	Z	フルエアブレーキ装備の事業用自動車不可
G	日中のみに限定	2	フルハンド補助装置
H	就労目的に限定	3	機械式シグナル
I	限定 -- その他	4	パワーステアリング
J	その他	5	パワーブレーキ
K	州内限定	6	ステアリングノブ
L	エアブレーキ装備の事業用自動車不可	7	クッション
M	クラスAの乗用車不可	8	医療
N	クラスA/Bの乗用車不可	9	三輪オートバイ
O	事業用の牽引式大型車不可		

全国運転者登録サービス

ハワイ州の運転免許を新規申請または更新申請した方の情報は、ワシントンD.C.の全国運転者登録プログラム（National Driver Register Program、「NDR」）に送られます。申請者が米国の他の州またはワシントンD.C.で免許証を停止または取り消された記録がNDR上に見つかった場合には、ハワイ州の運転免許証は交付されません。

臓器ドナープログラム

ハワイ州で運転免許証の新規取得または更新の申請をする時には、「統一献体法（Uniform Anatomical Gift Act）」に基づき、死亡時に臓器のすべてまたは一部を提供するドナーになる選択ができます。この選択をした場合、ご家族にその意志を伝えてください。臓器の使用にはご家族の許可が必要となります。

医療に関する事前指示

医療に関する事前指示を用意している場合、それを免許証に記載することができます。重病または事故により、自分の意志を口頭で表明することができなくなった場合、こうした事前指示によって自分の受ける医療についての要望を表明できます。免許証には「AHCD」と記載され、運転者が特定の指示を有することが医療従事者に示されます。医療に関する事前指示を作成したら、ご家族およびかかりつけの医師にその旨を伝え、写しを持ってもらいましょう。

退役軍人ステータス

2014年10月1日より、申請者が希望する場合には、米国の軍隊に所属し、不名誉除隊以外の形態で除隊した退役軍人はすべて、免許証の前面に「veteran（退役軍人）」と表記できるようになりました。2016年4月26日より、朝鮮戦争に従軍した方、朝鮮戦争中に大韓民国の軍隊に所属、または米国指揮下の国連軍に従軍した方で現在米国市民権を取得している方も、免許証に退役軍人を示す表記ができるようになりました。

原付バイクのための運転免許証

原付バイク（モペッド）とは、二輪または三輪の原動機付推進装置で、エンジンが2馬力を超えないものを指します。

原付バイクを公道および主要道路で運転するには、運転免許証（どのカテゴリーでも可）が必要です。

運転免許証を持っていない場合は、カテゴリー1の免許証（原付バイク用）を取得できます。カテゴリー1免許取得に必要な手順に従ってください。技能試験には自分の原付バイクを使用します。

その他の重要な情報

免許書の提示

運転者は、車両または原付バイクを運転する際には常に有効な免許証を携帯し、警官の求めに応じてそれを提示しなければなりません。

交通違反通知

ハワイ州交通法規に違反し取り締まりを受けると、ほとんどの場合は違反通知を交付されます。違反通知には、比較的軽い「交通違反（traffic infraction）」と重い「交通犯罪（traffic crime）」の2種類があります。比較

的軽い交通違反は、刑事犯罪としてではなく行政上の手続きとされ、罰金、運転者の免許や車両登録の停止などが課されます。交通違反の通知を受け取ったら、罰金を支払うか、文書による申し開きをするか、または出頭します。交通犯罪で検挙された場合は刑務所に服役しなければならない可能性があるため、必ず法廷に出頭しなければなりません。

交通違反通知について質問がある場合は、交通違反の場合も交通犯罪の場合も、通知に記載されている電話番号へ、または各島の地方裁判所（District Court）にお問い合わせください。カウアイ島 482-2355、マウイ島 244-2800、ハワイ島 961-7470、オアフ島 538-5500。

第II章 車両の装備と点検

車両に必要な装備

ハワイ州の主要道路を走行する車両はすべて、基準を満たすためにはブレーキ、ステアリング、警告器、ドアハンドル、タイヤ、排気システム、ライト、ガラス、ワイパー、オドメーター、速度計、バンパー、車輪、車輪用のナット、フェンダー、フロアパン、エンジンフード、フードキャッチ、燃料タンクを備えていなければなりません。

違法な装備

車両に以下の装備をすることは禁じられています。

1. 緊急車両を除き、車両前面から見える赤色灯、または車外から見える青色灯。
2. 認可された緊急車両を除き、ベル、排気ホイッスル、およびサイレン。
3. カットアウトマフラー、バイパスマフラー、または純正品よりも騒音が大きくなるマフラー。

車両の保安検査

公共の主要道路を走行するすべての車両は、少なくとも1年に1度、定期的な車両保安検査（Periodic Motor Vehicle Inspection、PMVI）を受けなければなりません。救急車は6か月ごとに検査を受ける必要があります。新車の場合は、最初に販売された日の検査後2年間は検査不要です。

多くの整備工場や修理工場が公認のPMVI（「セーフティ・インスペクション」とも呼ばれています）を実施し、保安検査の適合証明と認証ステッカーを発行しています。保安検査プログラムの規定に関しては、ウェブサイトをご覧ください：<http://hidot.hawaii.gov/dot/highways/home/doing-business/hawaii-administrative-rules/> 項目19-133.2をクリックしてください。

保安検査を受けるには、ハワイ州の自動車保険IDカードが必要です。検査に適合すると車両にステッカーが貼られ、検査適合証明2通が発行されます。この証明書は車内に保管してください。検査の結果は車両登録ファイルに電子的に送信されます。

改造車

改造、再建、または一部を変造した車両は、郡の改造車検査の要件に従わねばなりません。車両に追加したすべての部品について、売渡證書または領収書が必要です。検査は、資格を有する改造車検査官が行います。検査の終了後、適合していることを示す識別証が交付されます。行政規則19-134は以下で閲覧できます。<http://hidot.hawaii.gov/highways/home/doing-business/hawaii-administrative-rules/> 項目19-134をクリックしてください（検査場の場所については、裏表紙の見返しをご覧ください）。

車両の状態とメンテナンス

運転者は、自分が所有するか否かにかかわらず、自分が運転する車両の状態に責任を有します。一般的な手入れとメンテナンスは運転者自身または経験を積んだ整備士により、定期的に行う必要があります。車両の重要な各部分についてより理解を深めるため、以下の情報を役立ててください。

ステアリング：ハンドルは、最も右に切ったポジションから最も左に切ったポジションまで、なめらかかつ簡単に動かすことができなければなりません。ハンドルの遊びはパワーステアリングの場合2インチ以上（エンジンをかけた状態で確認してください）、パワーステアリングでない場合は3インチ以上あってはなりません。車両は、ハンドル操作の小さな動きにも迅速に反応しなければなりません。車が左右のどちらかに寄って行ったり、車輪がガタガタ揺れてはなりません。

タイヤ：タイヤの状態を過信せず、少なくとも月に1度は点検しましょう。ドア開口部の下に、メーカーが推薦するタイヤの空気圧とサイズが示されています。適切な空気圧を保っていると、タイヤが長持ちし、操作性も向上します。タイヤのトレッドが1/16インチ未満に減っていたら、交換しましょう。ペニー硬貨を使うとタイヤのトレッドの減り具合を簡単にチェックできます。ペニー硬貨を

リンカーンの頭が逆さまになるようにトレッドにはさみます。リンカーンの頭頂部が見えるようなら、そのタイヤは交換が必要です。また、タイヤに傷や膨らみがないか、トレッドが剥がれたり片減りしていないかもチェックしましょう。スペアタイヤも点検が必要です。ハンドルに微細な振動を感じたり、異常な騒音がする時は、タイヤに問題がないかどうか点検してみましょう。タイヤについての役立つ情報は以下のウェブサイトでご覧いただけます：

<http://www.nhtsa.dot.gov/cars/problems/Equipment/Tires/index.html>

ブレーキ：ブレーキが利かない車両は運転してはなりません。一般によく行われているブレーキの点検法は、時速4マイルか8マイルで強くブレーキをかけてみることです。この時、車両が左右のどちらかに寄ってはなりません。このテストは、他の人が急ブレーキを踏まなくても済むような安全な場所で行いましょう。アンチロックブレーキを備えた車両の場合は、駐車場の中の車が停められていない場所など、広い場所でブレーキをテストし、緊急の場合に車がどのように反応するかを確かめておきましょう。ABSを作動させるには、通常10マイル以上の速度で走行する必要があります。また、濡れていて滑りやすい路面ではABSが作動しやすくなります。**ポンピングをせず**、ブレーキペダルを踏み続けるよう練習してください。ブレーキについてのより詳しい情報はウェブサイト www.nhtsa.gov で「Brakes」を検索してください。

方向指示器 方向指示器（ウィンカー）は、他のドライバーとのコミュニケーション手段ですので、常に正しく作動しなくてはなりません。ダッシュボードの警告灯が点灯していれば、正常に作動していないことを示します。方向指示器が作動しない時は、修理するまで手で合図します。

ブレーキランプ：ブレーキランプまたはストップランプは、減速または停止す

ることを他の車のドライバーに警告するためのものです。ブレーキを踏んだ時にきちんと点灯するよう、ブレーキランプはこまめに点検しましょう。

テールランプとサイドマーカーランプ：テールランプとサイドマーカーランプは、他のドライバーに車両の存在が見えるようにするものです。正常に作動するよう、こまめに点検しましょう。

警音器：すべての車両は、正常に作動し、警告音を発する警音器を備えていなければなりません。

ヘッドライト：ヘッドライトは、夜間、雨天時、霧の中、トンネル内の走行などにはなくてはならない重要な装備です。常に正常に作動するよう、きちんと調整しておかねばなりません。**フロントガラス**：フロントガラスには、視界を妨げるひび割れや欠けがあってはなりません。ワイパーは、ガラスに跡を残さず均等にフロントガラスをきれいにできなければなりません。ウォッシャー液を使うと、運転しながらフロントガラスを洗うことができます。ウォッシャータンクには常にウォッシャー液を補給し、こまめに点検しましょう。

バックミラー：バックミラーは、後方の視界を最大限に得るため、きちんと調整して使いましょう。車両のすべてのミラーが、汚れのない状態でしっかりと車体に取り付けられていることを確認してください。

フードラッチ：エンジンフード（ボンネット）は、プライマリーのラッチとセカンダリーのキャッチを備えていなければなりません。走行中にフードが開いて運転者の視界を妨げることのないよう、ラッチは正常にフードを保持しなければなりません。

シートベルト：シートベルトは、運転車を負傷から守り、生命を救うこともあります。あなた自身と同乗者、そして他の人を守るためにも、走行中はシートベルトを常に着用してください。法令により、前部座席の乗員は全員にシートベルト着用が義務づけられています（HRS291-11.6）。4歳未満の幼児はチャイルドシートに乗せ、4歳から17歳の子どもはシートベルトを装着して後部座席に座らせてください。エアバッグは、事故の最初の衝撃から乗員を守る補助的な防護措置です。エアバッグは膨らんだ後すぐにしぼむため、衝突の後に起きる衝撃に備えるには、乗員はシートベルトを着用していなければなりません。エアバッグが動作して開いた後は、乗員のための安全措置を最大限に維持するため、エアバッグの交換が推奨されます。

ドアラッチ：ドアのラッチとロックは、安全とセキュリティを提供します。すべてのドアがしっかりと締まり、ロックがかかっていることを確認してください。

排気システム：排気システムは、排気ガスを車外へ排出し、車内へのガスの侵入を軽減するほか、騒音を許容レベルに抑えます。一酸化炭素中毒を防ぐため、排気ガスが漏れないように点検しましょう。欠陥のある部品はただちに交換しましょう。交換したマフラーは、メーカー純正品のマフラーよりも音が大きくてはなりません。

第III章

車両登録、所有権の証明、および所有証書の申請

ハワイ州の法令では、州の公道を走行する車両は、**その車両が走行する郡で車両登録をするよう定められています**

。また同様に、車両は毎年、その車両が走行する郡からライセンスを取得しなければなりません。州法で定められています。車両登録には、最新の有効な保安検査適合証が必要です。乗用車、バス、トラックは、保安検査の際に自動車保険の証書を、オートバイは保安検査の際に賠償責任保険の証書を提示せねばなりません。

初回の車両登録

車両登録は、その車両の所有権の公式な記録となります。ハワイ州で最初に車両を登録する際には特別な要件があります。(a) 車両識別番号、および(b) 車重を正確に記録するため、車両の検査と重量の測定が必要となります。

車両登録と所有証書 (タイトル)

車両登録と所有証書 (タイトル) は、各郡の管轄部署から交付されます。(詳細は裏表紙の一覧をご覧ください) ハワイ州の交付する所有証書は、法的な所有者が保持、または車両のローンが完済されるまでの間は先取特権者が保持します。車両登録は購入者に対して交付されます。登録証は車内に保管しておかねばなりません。車両登録証は、発行された月から12か月目の月末まで有効です。

更新の申請

車両登録の更新申請書は、最後に車両が登録された住所に郵送されます。申請書の記載に誤りがあった場合には、ただちに郡の管轄部署に通知してください。

郵送による更新

申請書に記載されている合計額 (TOTAL FEE) の小切手またはマネーオーダーと共に申請書を郵送すると、免許オフィスで列に並ばなくても更新ができます。郵送の場合は、郡の管轄部署宛てに、登録証の有効期限の10営業日前までに送ってください。更新申請書は2部から成りますが、どちらの部分も送付してください。申請書は切り離さないでください。

オンラインでの更新

ホノルル統合市郡に現在車両が登録されている場合は、以下のウェブサイトで登録が更新できます：

www.co.honolulu.hi.us。マウイ郡の場合は以下のサイトで更新できます：www.mauicounty.gov/mvrenewal。詳細は各サイトをご覧ください。

車両登録証に記載されている住所または氏名の変更

登録されている車両の所有者の住所が車両登録申請書に記載のものから変

更された場合は、登録車両の所有者は、住所変更後30日以内に、管轄の郡に対し旧住所と新住所、車両のライセンス番号（ナンバープレート番号）、メーカー名を書面で届け出なければなりません。

登録されている車両の所有者の氏名が所有証書の申請書に記載のものから変更された場合は、登録されている所有者は、住所変更後30日以内に、郡の管轄部署の窓口へ直接出向き、氏名変更を証明する書類、裏書された所有証書、およびその年の車両登録証を提示する必要があります。

米国軍人の例外規定

アメリカ合衆国の軍人で、ハワイ州内の米軍施設に勤務しており、法律上認められた他州の居住者である場合は、その居住州に車両を登録することができ、ハワイ州に車両を持ち込む際の物品税支払いを免除されます。

100パーセントの障害を持ち、それを証明する書類を有する退役軍人は、車両登録の費用支払いを免除されます。

車両登録と所有権登録を他州で行った車両がハワイで車両登録の対象となる場合、駐屯先の郡の管轄部署に申請書を提出します。他州で交付された所有証書と車両登録証、有効なハワイ州の保安検査適合証、車両輸送の領収書、車両識別番号の証明書も併せて提出してください。車両登録した州が所有証書を交付していない場合、登録申請時には車両登録証と共に、公証人の署名があり所有権変更を示す売渡証書1通または複数、有効な最新のハワイ州保安検査適合証、および車両識別番号の証明を提出してください。

ハワイでの新車購入

ハワイ州で新車を購入する時は、認可を受けた新車ディーラーが署名し、車両の販売を証明する申請書を入手しなければなりません。

ハワイ以外の司法区域で新車を購入した場合

車の所有権を証明する書類は、各州により異なります。ハワイ州では製造業者の原産地証明書、または公証人の署名つきの売渡証書を受け付けています。

国外で新車を購入した場合

国外で車を購入した場合は、その国のディーラーに、購入者の名前で売渡証書を発行してもらう必要があります。車両は、米国の基準に適合していることを示す製造業者による認証と、17桁の車両識別番号（Vehicle Identification Number、VIN）を伴っていなければなりません（ハワイ州条例改正286-42(a)号を参照してください）。

国外で中古車を購入した場合

国外で中古車を購入した場合は、車両登録証と、所有権を示す売渡証書を有していなければなりません。ハワイ州条例改正286-42(a)号を参照してください。

ハワイ以外の司法区域で中古車を購入した場合

ハワイ州以外の司法区域（州）で車を購入した場合、売り主の名前の記載されている州外所有証書、所有証書、車両登録証、公証人の署名のある売渡証書を売主から入手してください。車を購入した州が所有証書を交付していない場合、売主から最新の車両登録証またはその州が交付した車両登録証明と、公証人の署名付きの売渡証書2通（売主から申請者への売渡証書と、前所有者から売主への売渡証書）を入手する必要があります。

申請者の名義で中古車が他州からハワイ州へ持ち込まれた場合

所有する車両が他州で登録されている場合、暫定登録の許可証を申請することができます。この許可証があると、その期限内はハワイ州の公道を正式登録なしで走行することができます。しかし、どのような事情がある場合でも、この許可証が12か月を超えて交付されることはありません。許可証申請には車両登録証、輸送の領収書、最新のハワイ州保安検査適合証を提出しなければなりません。

許可証（暫定登録）の有効期限以降は、米国軍人を除き、居住する郡に車両を登録せねばなりません。

ライセンス（ナンバー）プレートの掲示

オートバイ、トレーラー、セミトレーラーは、ライセンスプレートを後部に掲示します。その他の車両はすべて、車両の前部と後部にそれぞれ掲示しなければなりません。

原付バイクのライセンス

原付バイクは、検査を受け、登録し、ライセンスの交付を受けねばなりません。
モーターサイクルまたはスクーターは、後部のフェンダーに取り付けてください。
保安検査適合ステッカーは、原付バイクの後部に掲示します。

第IV章

運転者

運転には3つの要素が関わっています。環境（道路と交通状況）、車両、そして運転者の3つです。この3つの要素のうち、運転者であるあなただけが、そこに存在する状況について情報を収集し、運転スキルと知識、経験と判断を駆使して、安全な運転を遂行するために必要な力を持っています。スキルや知識、経験が足りない部分は良い判断によってカバーすることができますが、逆にどれほど高いスキルや経験があっても、間違った判断をすればすべてが無に帰してしまいます。そうした判断に大きな影響を及ぼすのは、運転に対するあなたの態度です。

運転と心理的要素

心配していたり、気が散っていたり、他の事柄に気を取られていると、集中して安全運転に取り組むことができなくなります。家庭内の問題、言い争い、行き違い、お金についての心配事、家族の重病、個人的な恐れ、または自分の運転への過信などは、一時的に事故を招きやすい状態を作ることがあります。強い感情も、同じように作用します。激しい口論の後や、怒っているとき、悲嘆にくれているときには、運転をする前に心を落ち着かせ、気持ちを整える時間を持ちましょう。フラストレーションや怒りのはげ口を運転に持ち込むのはきわめて悪い選択であり、非常に高くつくことになる可能性があります。心配事は安全運転の妨げとなります。大きな不安、病気、恐れ、怒りを感じているときやうつ状態のときには、誰かに運転を代わってもらいましょう。

心が落ち着いていれば、良い運転ができる確率が上がります。自分の視点だけでなく、常に道路を共に使っている他の人たちへの思いやりと心配りを持って行動しましょう。

車両は完全に運転者としてのあなたのコントロール下にあるのですから、ハンドルを握っているときには誰もが一定の力を持っていることを忘れないようにしましょう。ハンドルを握っているときの態度とその力の使い方には、その運転者がどのようなタイプの人であるかが現れます。力を振り回して脅す人、考えなしに規則を破る人、身勝手に割り込みをかける人もあります。あなたは、信頼でき、礼儀正しく、精神的にも感情面でも落ち着いた運転者でしょうか？安全を第一に、道を譲りあっていますか？

運転と健康的要素

運転者の健康状態は、安全運転を遂行する能力に非常に大きく作用します。アルコール、薬物、病気、障害などは、事故の原因となったり事故につながる要因となることがあります。

運転者の年齢と事故

交通事故の統計データのうち非常に重要なものの一つに、事故数と、それらの事故に関わった運転者の年齢の相関関係を示すデータがあります。これらの統計によると、もっとも若年の運転者（20歳未満）では、そのグループに通常予想される事故数の2倍も事故が起きていることがわかっています。50歳～54歳達するまでの間は、運転者の年齢が上がるにつれ事故の数は減ります。他の年齢グループに比べてもっとも事故数が少ないのは50歳～54歳の運転者です。55歳を過ぎると、年齢が上がるにつれ事故の数が増えていきます。76歳以上の運転者の関わる事故数は増えていますが、それでも25歳未満の運転者の関わる事故数よりは少ない数です。

若年運転者の問題

青年は、他の人に認められたいという願望を強く抱いているので、運転しているときにも自分の能力を誇示しなければと感じることがあります。そのためしばしば、車の性能、路面状況の限界、そして最も経験を積んだ運転者のスキルでさえも大きく超えるようなことをしてみせようとしがちです。そうした行動は多くの場合、若年運転者の能力不足を証明する結果となり、大きな惨事につながります。このような状況に陥らないようにするため、以下を心がけましょう。

1. 競争したり能力を誇示したいという願望に抵抗する。そのような行動は、未経験と未成熟の兆候でしかありません。
2. あなたの能力やあなたの車の性能に対するあらゆる挑戦を拒絶する。きっぱり拒否することはあなたが責任ある大人であることを示しています。

高齢運転者の問題

運転の経験が増すと、たいていの場合、運転技術や能力も上がっていきます。統計データによると、運転者は年を重ね、経験を積むごとにより安全運転になっていきますが、いずれは加齢により次のような状況が生じてきます。

1. 聴覚、視覚の低下。
2. 身体的敏捷性の低下、および反応時間の低下。
3. 運転中、判断に要する時間の増加。
4. 集中力の低下、および運転に集中する力の低下。

高齢運転者は、運転に要する力が徐々に低下していることに自分では気づかないことが非常に多く、自分自身にも周囲にも危険を及ぼすことがあります。

高齢で経験を積んだ運転者も含め、すべての運転者は次の点に注意しなければなりません。

1. 健康を維持すること。
2. 年一回の健康診断を受診すること。
3. 薬が運転能力に及ぼす影響について認識しておくこと。
4. 自分の能力を知り、その範囲で運転すること。
5. 自分の運転能力について医師のアドバイスを求め、従うこと。

第V章 交通法規と規制

一般

運転者は、一般の道路や自動車道で車両を運転するときにはすべての交通法規に従わねばなりません。

警察官

警察官による法律上正当な指示にはすべて従わねばなりません。

交通信号と標識

車両を運転するときは、交通信号、標識、道路の標示などに従わねばなりません。

道路の右側を走行する

道路の右半分を走行しなければなりません。対面通行の車両は、互いの右側を通行せねばなりません。狭い道路では、対向車のために少なくとも道路の通行部分のうち少なくとも半分の幅を残して通行しなければなりません。他の車よりも遅い速度で走行する場合は、一番右の車線を走行しましょう。

道路の左側を走行する

以下のような場合には道路の左半分を走行できます。

- 走行車線が2車線または3車線ある道路で、反対方向から来る車がない場合に、同じ方向を走行している車を追い抜く、または追い越すとき。
- 路上に障害物があり、対向車が道路の左側を走行していないとき。
- 一方通行の道路を走行するとき。

次のような場合には道路の左半分を走行してはなりません。

- 走行車線が4車線以上ある道路。ただし、標識により指示されている場合を除く。
- 坂道の頂上近く、またはカーブの途中。
- 交差点または踏切の手前100フィート（30.5メートル）以内。
- 橋またはトンネルの手前100フィート（30.5メートル）以内で、接近する対向車を目視できない区間。

右側からの追い越し

以下のような場合には、他の車を右側から追越すことができます。

- 追越そうとしている車両が左折しようとしているときで、右側から追い越しても舗装面または道路の主な車両走行用の部分からはみださない場合。
- 舗装されている道路や自動車道で、双方向に2車線以上の走行車線がある場合。
- 2車線以上ある一方通行の道路。

一方通行の道路

交通標識の指示する方向にのみ走行できます。

車線が標示されている道路での走行

道路に車両通行帯（車線）が示されている場合には、以下に従わねばなりません。

- 走行車線の内側で走行し、安全が確認できるまでは車線を変更しない。
- 道路標識または路面の標示により示された適切な車線を走行する。

短すぎる車間距離

他の車の後ろを走行するときは、以下に従わねばなりません。

- 速度、道路状況、天候を慎重に考慮し、適切な車間距離よりも近づいてはなりません。詳細は第X章の67ページを参照してください。
- 他の車両をけん引するときは、けん引する車両とけん引される車両の間に充分安全な距離を保ちましょう。

中央分離帯のある自動車道（ハイウェイ）の走行

中央分離帯の境界または舗装されていない分離帯がある自動車道を走行するときは、その境界または分離帯を越えて反対側の車線を横切ってはなりません。ただし、入り口または舗装された車線により横断可能となっており、標識により禁じられていない場合を除きます。

必要な合図

減速する際、右折・左折時、車線変更時には、必ず合図をして他の車にあなたがしようとしている行動を知らせなければなりません。

- 見える範囲に他の車がない場合でも、必ず合図をしなければなりません。



- 車線変更、右左折、停止をするときは、その100フィート（30.5メートル）手前で合図をします。これは、およそ車両5台分の距離です。速度が速い場合には、さらに手前で合図を出すことが推奨されます。
- 方向指示器が動かない場合には、手で合図をしなければなりません。
- 方向指示器で合図をしたからといって、意図した通りに車両を動かす権利を得られるわけではありません。他の車両の通行を妨げないよう、安全を確認しなければなりません。
- 後続の車にあなたが停止しようとしているという誤った合図を送らないよう、ブレーキを踏むとき以外はブレーキペダルに足をのせないようにしましょう。

踏切

以下の場合、踏切から15フィート（4.6メートル）以上離れて停車しなければなりません。

- 電気式または機械式の信号により、列車接近の警報が発せられているとき。
- 遮断器が下りているか、信号手が列車の接近を合図しているとき。
- 列車が1,500フィート（460メートル）以内に接近し、警笛を鳴らしているとき。
- 接近中の列車が目視でき、距離が近いと判断できると判断できるとき。

速度の規制

交通事故の多くは、道路状況に対して速すぎる速度で運転することにより起きています。

基本事項：慎重な判断にもとづき、適切だと思われる以上の速度で走行してはなりません。

走行する区間、道路状況、歩行者の有無、天候、視界の状況などにより、適切で安全な速度で走行しましょう。

速度制限：

- 標示されている最高速度を超える速度で走行してはなりません。
- 標示されている最低速度に満たない速度で走行してはなりません。
- 他の車両の走行を妨げるような低速で走行してはなりません。他の車両と同じ速度で走行できない場合は、他の車両が追い越せるように路肩に寄るか、別のルートを通りましょう。複数の車線がある道路で他の車よりも遅い速度で走行するときは、他の車が左側から追い抜けるよう、右側の車線を走行しましょう。
- 公道または自動車道（ハイウェイ）では、いかなる形であれ、競争、スピードコンテスト、速度の誇示を行ってはなりません。

制限速度は標識で示されています。以下の区域では、他の場所よりも遅い制限速度が定められています。

- 学校や児童遊園の周辺および「School Crossing（学童横断歩道）」の標識があるエリアで、子どもが周辺にいるとき。
- 住宅地区またはビジネス地区。

駐車

駐車できるスペースを探すのは、しばしば難しいことがあります。車を駐車するときには、他の人にも配慮しましょう。禁じられている場所に駐車すると迷惑になり、高くつくこととなります。以下の場所では駐車が禁じられています。

- 駐車すると他の車の通行の障害になる道路上のあらゆる場所（レッカー移動されます）。
- 歩道または歩行用のスペース。
- 私有または公共のドライブウェイの前、またはドライブウェイの使用に差し支えるほど近い場所。
- 交差点の中、またはすぐ近くで、交通の妨げとなる場所。
- 消火栓の前、またはその使用に差し支えるほど近い場所。
- 横断歩道の上、または他の車の運転者から歩行者が見えなくなるほど横断歩道に近い場所。
- その他、公的な標識または標示で該当する時間内に駐車や停車が禁じられているすべての場所。
- 橋の上、路面よりも高くなっている構造物の上、トンネル内。
- 道路上ですでに路肩に駐車している他の車の横（二重駐車）。車両内にとどまる場合も、二重駐車は禁止されています。
- 路肩から12インチ（30センチ）以上離れた道路上。
- 乗降ゾーン、または積み下ろしゾーン。
- 駐車すると道路の残りの通行可能な幅が10フィート（3メートル）未満になるすべての場所。
- 公道上のいかなる場所でも、車両の修理（緊急時を除く）、洗車、および販売用の展示をしてはなりません。

- 車両が標示されている駐車用スペースよりも大きい場合を除き、駐車用スペースからはみ出して駐車してはなりません。
- 公道または自動車道に24時間以上連続して駐車はできません。

禁じられている場所の駐車は迷惑になり、高くつくこととなります。
以下の場所では駐車が禁じられています。

- アクセシビリティを示す国際シンボルマーク（車椅子のマーク）が標示されているスペース。障がいを持つ人が使用する車両であることを示すブラカードまたはナンバープレートを表示していない限り、駐車できません。
- 障がい者用駐車スペースの隣に設けられたアクセス用通路。アクセス用通路は、車椅子用の昇降リフトやスロープ、その他の機器が使用できるように空けておかねばなりません。



レッカー移動ゾーン

公式な標識でレッカー移動対象の規制が表示されている場所では、その規制時間内には、交通状況により一時的に運行を妨げられているときを除き、短時間でも駐車をしてはなりません。規制時間内に駐車すると警察によりレッカー移動されます。車両が移動された場合は、すぐに警察に連絡して引き取りに必要な情報を得ましょう。

運転者への干渉

車両の前部座席に4人以上の人を乗せて走行すると、運転者への干渉とみなされることがあります。そのような干渉は禁じられています。

無人の車両

車両を離れる時には、以下に従ってください。

- エンジンを切る。
- イグニッションをロックの位置にしてキーを抜き取る。
- パーキングブレーキをかける。
- 下り坂の途中で駐車するときは、車輪を縁石に向けて曲げます。

緊急車両

緊急車両の警報（サイレン、ベル、または警笛）を聞いたとき、または警光灯（赤色または青色の回転灯）が見えたときは、緊急車両が通行できるよう道路を空け、停車しなければなりません。パニックになって急ブレーキを踏まないようにしましょう。以下の手順に従ってください。

- 減速する。
- 緊急車両がどの方向から接近しているのかを確認する。
- 路肩に車両を寄せて停止し、緊急車両のために道を空ける。
- 渋滞中で、緊急車両がすぐ後ろにいる場合は、緊急車両が通行できるスペースが空けられるまで、ゆっくりと車を動かし続ける。

葬儀の車列

葬儀の車列は、交差点で優先権を有します。葬列の車は通常、葬列の一部であることを示すためハザードランプを点灯しています。先頭と最後尾の車両は、通常、葬列であることを明示しています。葬儀の車列の間に割り込んで運転してはなりません。

低速車用マーク

時速25マイル（40km）以下で走行するよう設計されている車両には、反射率の良い18インチ（46cm）の三角形の標識を車両後部に取り付けなければなりません。このマークをつけた車両が見えたら、減速して注意しながら接近しましょう。



追い越し禁止

以下に示す図には、走行中に遭遇する可能性がある、追い越しが禁止されている状況が説明されています。図に示されている状況で赤い車が他の車両を追い抜くことは禁じられています。

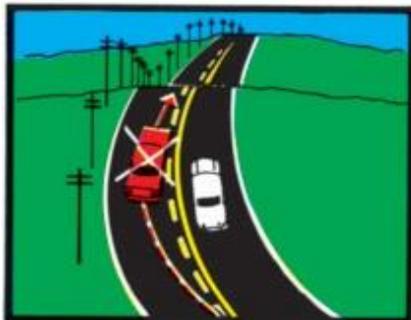
以下の状況では追い越し・追い抜きをしてはなりません。

1. 自動車道の右側車線。



路肩

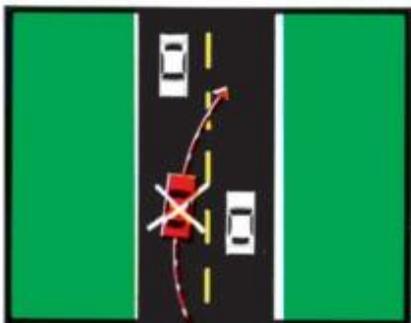
2. 進行方向が700～1000フィート（213～305メートル）先まではっきり見通せない丘やカーブの途中。



坂

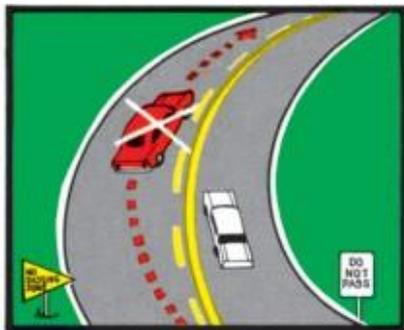
3. 対向車があり安全に追い越しが完了できない場所、およびセンターラインが黄色の実線になる手前で追い越しが完了できない場合。

注：他の車が追い抜こうとしているときに速度を上げることは法により禁じられています。



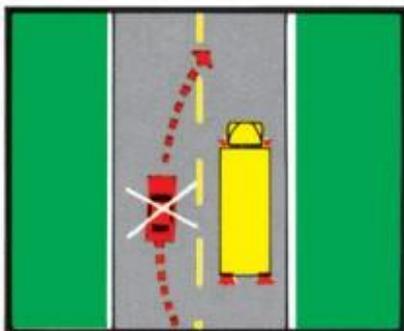
対向車

4. センターラインが黄色の実線の箇所。
(道路の左側に「NO PASSING ZONE
(追い越し禁止ゾーン)」の標識がある
ので確認しましょう)



カーブ

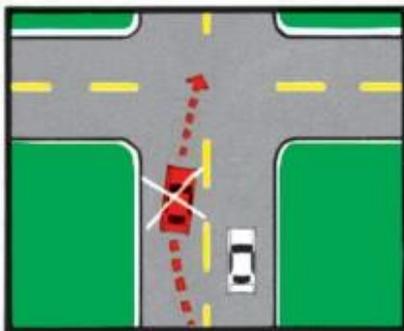
5. 同じ車線にスクールバスがあり、ライトを点滅させているとき。



スクールバス

6. あらゆる交差点または踏切の手前100フィート (30メートル) 以内、および標識で示されている狭い橋、高架橋、トンネルの手前100フィート (30メートル) 以内の地点。

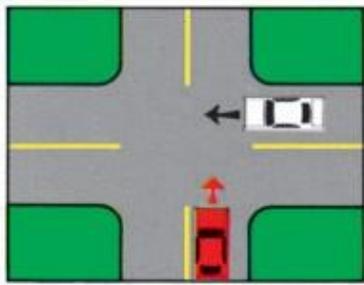
注: 「追い越し禁止ゾーン」が終わったからといって、安全に追い越しができるとは限らず、進行方向の見通しが良くなったということを示しているにすぎません。



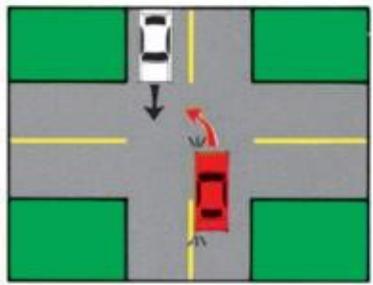
交差点

優先権のルール

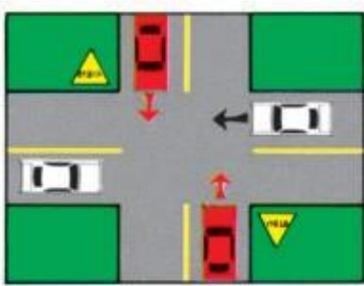
以下に示す図には、交差点で遭遇する、基本的な優先権のルールが説明されています。以下の図では、赤い車は、優先権のある車に道を譲る必要があります。



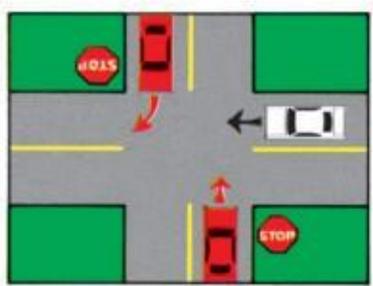
交差点に同時に進入する場合、右側の車両に道を譲ります。



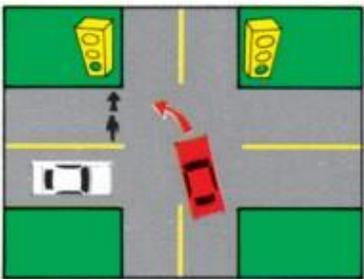
左折時は、交差点に接近しているすべての対向車が優先です。



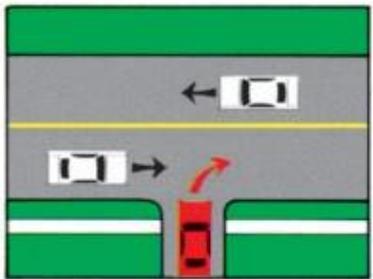
優先道路の車に道を譲ります。



停止し、優先道路のすべての車に道を譲ります。



信号が青に変わったときは、歩行者と、交差点の途中で停まっている車を優先させます。



路地、ドライブウェイ、または農地から公道に進入するときは、一時停止して他の車を優先させます。

第VI章 交通標識、信号、標示

交通の流れは、道路上の**標示**、緩衝帯、信号、標識を使用することによりコントロールされています。こうした設備は、交通に関する決まりについての情報を伝え、安全に目的地に到着するための助力となります。

交通制御設備には、3つの種類があります。

規制標識・設備は、停止、進行できる方向、制限速度などを表示します。規制標識・設備は、運転者に対して要求される行動を示しています。これに従わないと罰則が課されます。

警戒標識・設備は、危険な状況または危険になり得る状況を表示します。安全のため、警戒標識に従ってください。警戒標識や設備の情報を無視すると、運転者の過失による事故につながります。

案内標識および**情報標識**は、安全に走行する支援となったり、ドライブをより快適にするための情報を提供します。

路面標示

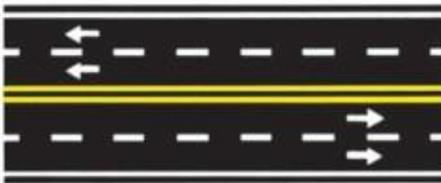
路面標示は、道路に塗装や反射板その他で表示されているライン、文字、記号から成ります。

センターライン：

黄色のセンターラインは、対面通行の交通を隔てます。



黄色の単独破線は、2車線のみの道路でセンターラインとして使われています。車両はこのセンターラインの右側を走行しなければなりません、安全な場合には、ラインを越えて先行車を追越すことができます。



黄色の二重実線は、どちらの車線からも追い越しが禁じられている区間を示すセンターラインです。このラインを越しても良いのは、左折して側道やドライブウェイへ入るとき、または側道やドライブウェイから道路に進入するときのみです。

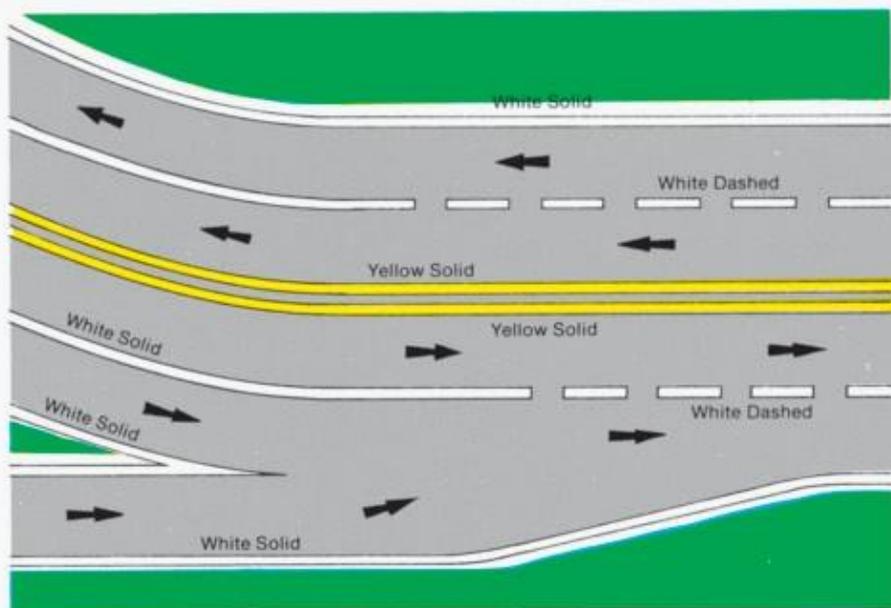
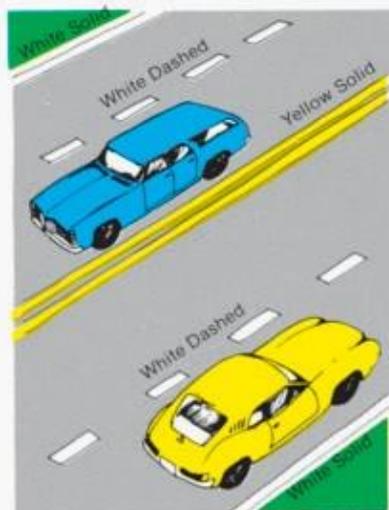


黄色の単独実線は追い越し禁止ラインで、2車線の道路で追い越しができない区間を示しています。このラインを越しても良いのは、左折して側道やドライブウェイへ入るとき、または側道やドライブウェイから道路に進入するときのみです。

車線標示：

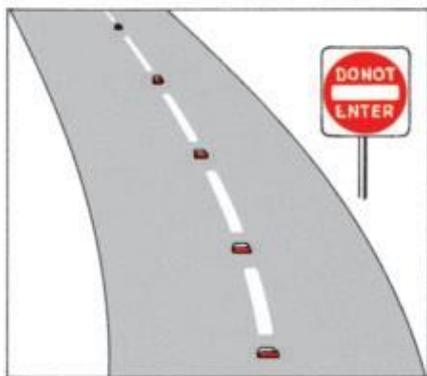
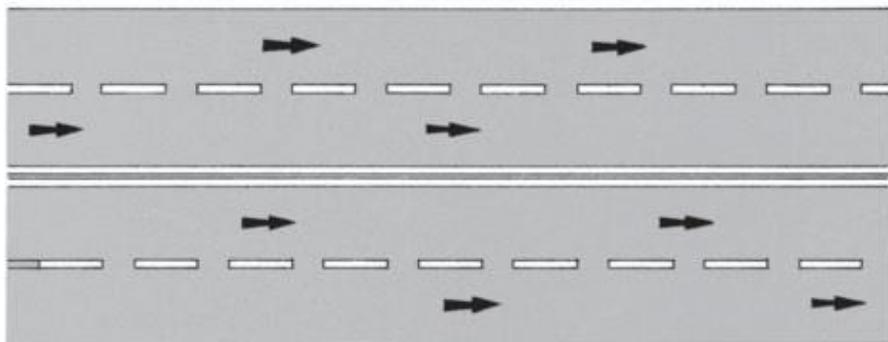
白線は、同じ方向に進行する車線を区切ります。白線の内側を走行しなければなりません。

白色の単独破線は、安全が確認できれば越えることができます。

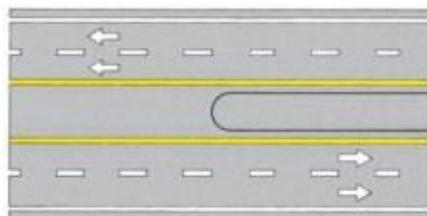


白色の単独実線は、車線変更が危険であることを示しています。ラインが太くなればなるほど、危険度が増します。白色の実線を越えて車線を変更するのは、例外的な状況のみに限り、最大の注意を払って慎重に行ってください。

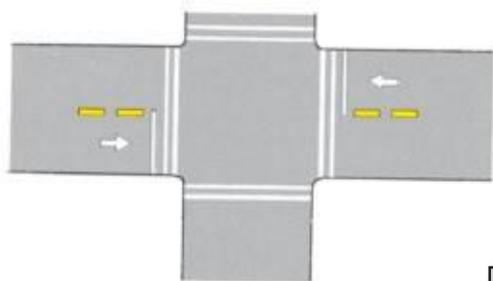
白色の二重線は、車線の変更が禁止されていることを示しています。
二重の白線を越えて走行してはなりません。



赤色の路面標示または反射板による標示は、その道路が進入禁止であることを示します。

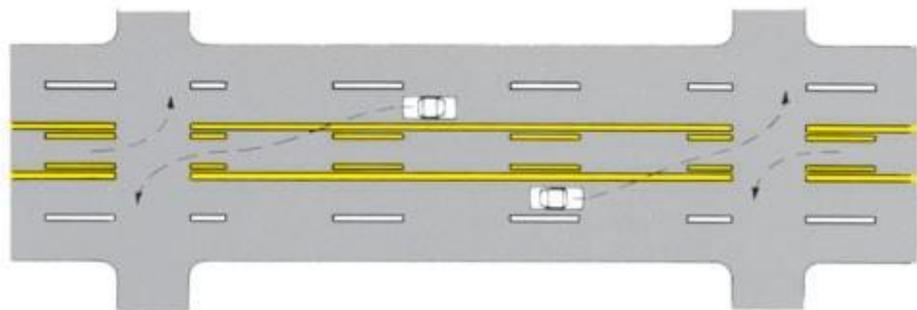
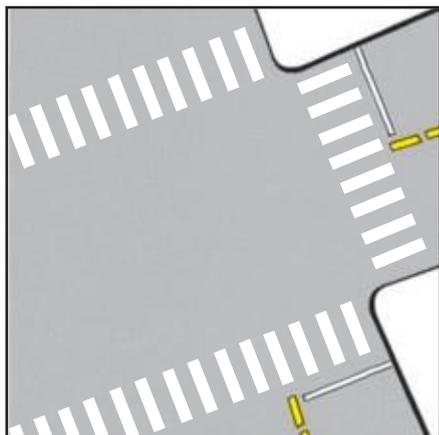


車道外側線は、道路の端に引かれている白色または黄色の実線で、安全のために設けられています。白色の線は車道の右側に引かれ、黄色の線は分離帯のある道路や自動車道で車道の左側に引かれていることがあります。



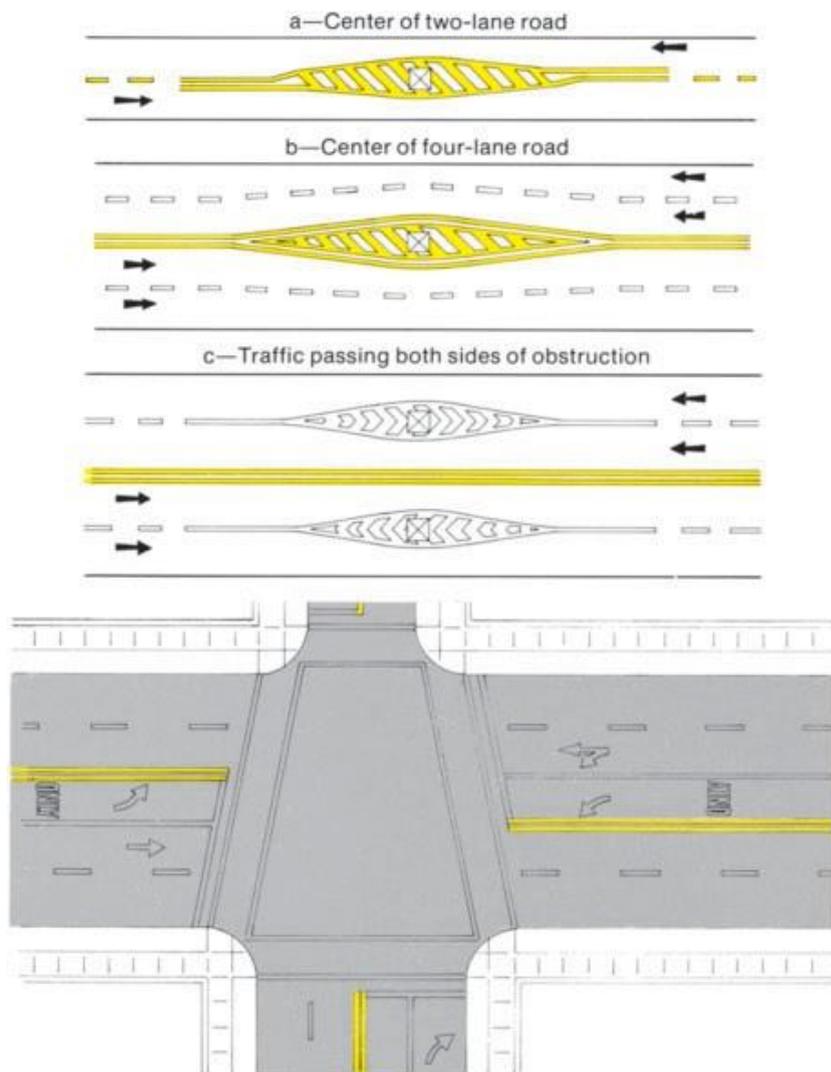
停止線は白色の実線で、交差点および横断歩道で車線を横断して引かれ、車両が停止すべき地点を明確に示しています。

横断歩道は、安全に道路を横断できる場所を歩行者に示し、運転者には標識に加えて、特定の場所で歩行者が道路を横断することを示します。歩行者が横断歩道を渡っているときは車両は停止しなければなりません。



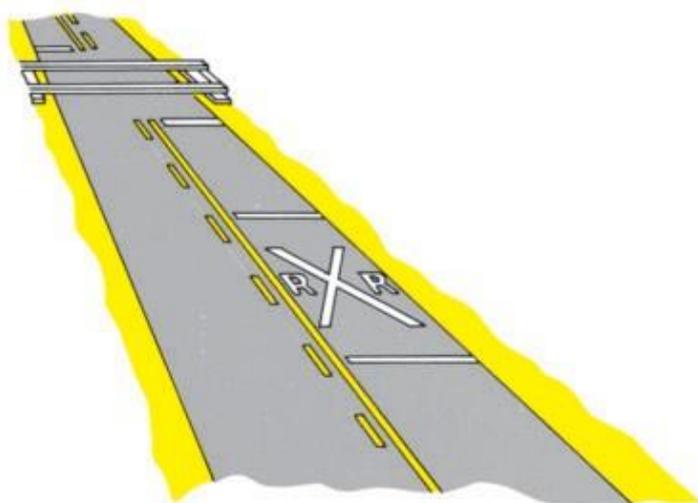
双方向左折用車線分離標示は、双方向の車線を走行する車両が左折目的のみに使用できるレーンとして、黄色の実線と破線の組合せで車道の中央に示されています。この車線は、決して追い越しに使ってはなりません。

障害物標示は、車線の中に実線で示され、道路の中にある橋脚などの障害物を避けて通行するよう誘導します。この標示は白色または黄色です。白色の障害物標示は左右どちらの側からでも通過することができますが、黄色の障害物標示は右側からしか通過できません。

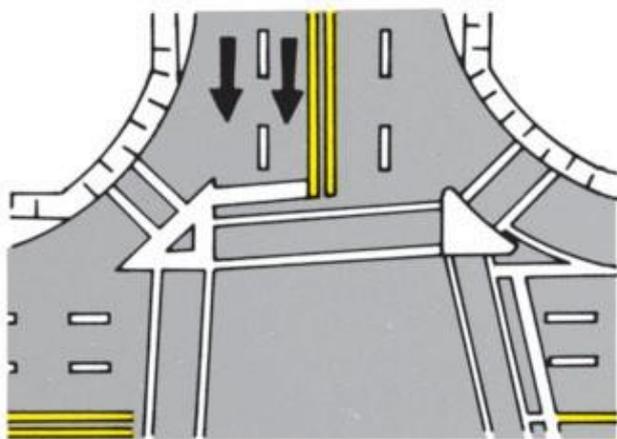


進行方向標示は、白色の矢印または文字で車線に示され、その車線から進むことのできる方向を標示します。この標示が示す方向にのみ通行することができます。矢印が2つ以上の方向を示しているときは、示された方向のいずれにも進むことができます。

踏切標示は、白色の塗料により、線路手前の車線路面に示されます。路面には大きな「X」と共に2つの「R」が標示されます。黄色の実線のセンターラインが追い越し禁止の区間を示し、車線を横切って白色の停止線が標示されています。



緩衝帯標示には、さまざまな形態があります。車線上に塗料で標示されているだけの場合もあり、縁石、舗装面、植栽エリアを組合せていることもあります。緩衝帯は、区切られた車線に運転者を誘導するために用いられています。車道の一部を歩く歩行者を保護する目的で使われる緩衝帯は「安全地帯」と呼ばれます。決して緩衝帯に進入したり、緩衝帯を越えて通行してはなりません。

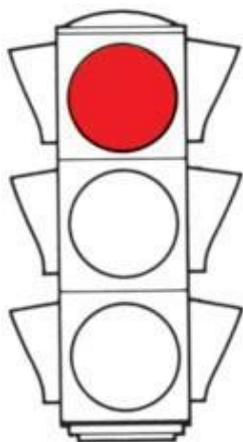


交通信号

交通信号は、第一に交通を整理し指示するものです。信号は、交差点その他の、交通の流れを遮る必要のある場所で使用されます。

標準の三色信号機：

これらの信号灯は、主に、交通の流れが互いの妨げとなるような場所で、各方向への進行に停止を命じたり通行を許可するために使われています。

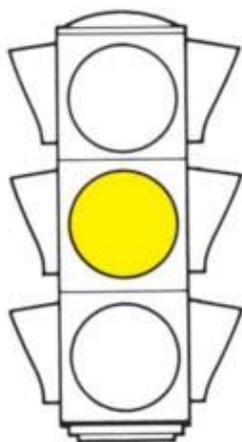


赤色の信号は、停止を意味します。以下のいずれかで停止しなければなりません

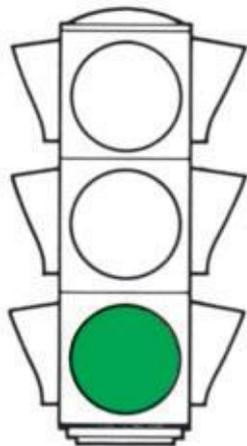
1. 停止線。
2. 停止線がない場合、横断歩道の手前。
3. 停止線も横断歩道もない場合は交差点の手前。
4. 信号機が青になるまで停止していなければなりません。

一旦停止した後、右折することができます。ただし、禁止の標示がある場合を除きます。右折する際は、すべての歩行者および車両に注意を払わねばなりません。

一方通行の道路から別の一方通行の道路へ進入する場合、進入する道路が左方向への一方通行である場合には、停止した後、赤信号でも左折できます。ただし、禁止の標示がある場合を除きます。



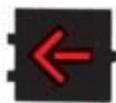
黄色の信号は、まもなく赤信号が点灯することを示します。黄色の信号が点灯していたら、交差点に進入しないようにしましょう。赤信号が点灯した後で交差点に進入してはなりません。



青信号は、直進または標識で禁じられている場合を除き左折と右折ができることを示します。歩行者、およびすでに交差点に入っている車両に道を譲らなければなりません。

矢印式信号

矢印式信号は、特定の車線からの右左折を制御するためにしばしば使用されます。



赤色の矢印は、その車線の交通にとって赤色の信号灯と同様です。



黄色の矢印は、その車線の交通にとって黄色の信号灯と同様です。



青色の矢印は、その車線の交通にとって青色の信号灯と同様です。ただし、その矢印の示す方向に右左折または直進しなければなりません。

信号の組合せ

矢印式信号と標準の信号機を組合せて、すべての車線の車両の交通を制御します。



点灯している信号および矢印は、上記に示したのと同じ意味を示しています。青の矢印が点灯しているときは、その矢印が示す方向にのみ通行することができます。

点滅信号

点滅信号は、危険を警告するためにしばしば使用されます。



赤色の点滅信号は、一時停止（STOP）の標識と同じ意味を示しています。この点滅信号が設置されている場所には、一時停止標識も設置されています。



黄色の点滅信号は、注意した上で進行できることを示しています。

通常の信号が点滅している場合も、上記の赤色または黄色の点滅信号と同様の意味を示しています。

車線制御信号

ときに、特定の車線の進行方向を時間によって逆向きにすることが望ましい場合もあります。車線制御信号は、その車線の進行方向を指示するために使用されます。この信号は、制御される車線の上に設置されています。



赤い「X」の信号は、その車線の進行方向が運転者から見て反対方向であるため、進入が禁止されていることを示しています。



青の矢印は、その車線が使用可能であることを示しています。



黄色の「X」は、その車線が間もなく反対方向からの通行となるため、その車線から出なければならないことを示します。黄色の「X」が点滅しているときには、その車線は左折のためにのみ使用できます。

歩行者用信号

歩行者用信号は、歩行者の通行を制御するためのみに使用される特別な信号です。歩行者用信号は「WALK (すすめ)」および「DON' T WALK (止まれ)」という文字、または歩く人と手のひらのシンボルから成ります。



「DON' T WALK (止まれ)」または手のひらのシンボル：この信号が点灯している場合は、歩行者が信号に面した道路に立ち入ってはいけないことを示します。

「DON' T WALK (止まれ)」または手のひらのシンボルが点滅している場合は、歩行者は道路の横断を開始してはなりません、すでに横断を開始している歩行者は、最も近い歩道、緩衝帯、または安全地帯まで渡れることを示します。



「WALK (すすめ)」または歩く人のシンボル：この信号が点灯している場合は、歩行者は信号に面した道路を横断できることを示します。「WALK (すすめ)」または歩く人のシンボルの点滅は、歩行者と車両の間に交錯が生じる場合があることを示すために使われることがあります。

交通標識

交通標識は、運転者が取るべき行動についての情報を提供し、潜在的な危険について警告し、道路や地域についての情報を提供します。交通標識の意味する内容は標識の色と形により表され、文字や数字、記号で説明が付されています。

色と形

赤色は、禁止されている行為を示します。赤色の標識にはさまざまな形があります。

黄色は危険物や危険な状況についての警告を示します。黄色の標識は、ほとんどすべて斜方形をしています。



オレンジ色の標識は、道路工事についての警告を示します。オレンジ色の標識は、長方形または斜方形をしています。

白と黒の標識は、運転者が取るべき行動を示しています。白と黒の標識は、ほとんどすべてが長方形です。

緑、青、茶色の標識は、情報を提供するために用いられます。これらの標識はほとんどの場合長方形です。



一時停止 (STOP) 標識は八角形で、赤地に白で標示され、他の道路の方に優先権があることを示します。車を完全に停止させ、接近しているほかの車や人に道を譲ってから発進しなければなりません。車は「停止線」で停止しなければなりません。「停止線」がない場合は、横断歩道や標示のない横断箇所の手前で停止します。停止した後、接近する車や人が見えなければゆっくり前進し、接近する車や人が見えたら再度停止します。



徐行 (YIELD) 標識は三角形で、赤地に白で標示され、他の道路の方に優先権があることを示します。徐行 (YIELD) 標識に近づいたら、停止する準備をしてください。優先権のある道路に車や人がいる場合のみ、停止する必要があります。



速度制限標識は、長方形の白と黒の標識で、法で定められた最大速度と最低速度を標示します。特定の時間や特定の状況下、または特定の種類の車両にのみ適用される制限速度を示す場合もあります。標示されている最大速度より速く、または最低速度より遅く走行してはなりません。



前方で減速 (REDUCED SPEED AHEAD) 標識は、速度制限標識と同じ色と形で、前方に制限速度が遅い区域が接近しているのを減速するよう運転者に知らせるものです。この標識は、運転者が減速を開始すべきであることを標示しています。制限速度の変更は、次の速度制限標識がある地点から開始されます。



通行区分標識は、長方形の白と黒の標識で、交差点内の各車線に定められた左右折の進行方向を示すか、特定の車線で例外的に許可されている左右折を示します。自分の車線について標識が示している通りの方向に走行しなければなりません。



追い越し禁止 (DO NOT PASS) の標識は長方形で、2車線または3車線の道路で追い越しが禁じられている区間を示します。この標識が掲示されている区間では、ほかの車を追い越してはいけません。

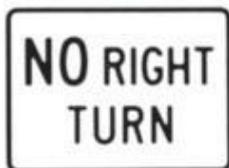


追い越し禁止ゾーン (NO PASSING ZONE) の標識は横向きの三角形で黄色に黒で標示され、追い越し禁止標識を補います。この標識は道路の左側に掲示され、追い越し禁止の区間がそこから始まっていることを示します。

追い越し注意 (PASS WITH CARE) の標識は白と黒の長方形で、追い越し禁止区間の終わりを示します。



その他の通行に関する標識は、白と黒の長方形で、安全かつ円滑な交通のために従わねばならない指示を示しています。



禁止標識は、長方形で、白地に赤い円または白と黒の上に赤い円と斜線を組合せています。これらの標識は、車両の進行またはその他の動作が制限または禁止されていることを示します。

その他の規制標識：この他にも多くの規制標識があり、すべて長方形で、白地に黒または赤字で標示されています。これらの標識は、人や車両の通行、車両の重量や種類、駐車などについて制限を示すものです。



警戒標識

警戒標識は、道路上または周辺にある危険やあり得る危険について警告するものです。これらの標識を見たら、安全で適切な対応をする必要があります。警戒標識は通常斜方形で、黄色の地に黒の縁取りと記号が標示されています。



中央分離帯あり



中央分離帯終了



勾配あり



すべりやすい



歩行者横断注意



車線数減少または幅員減少



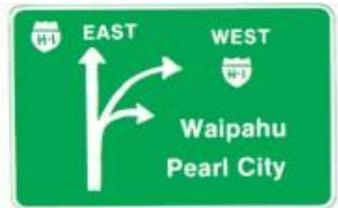
学校前の横断歩道
またはスクールゾーン



信号機あり

案内または情報標識

これらの標識は、運転者に現在地や特定の場所やサービスについての情報を提供します。よくある標識には、道路の番号、方向と距離、公園、レクリエーション施設、サービス施設情報の標識があります。



道路工事および補修についての標示設備

道路工事や補修が行われている現場では、交通を整理するためのさまざまな設備を使用して、現場周辺で運転者や歩行者を安全に誘導すると共に、作業員に安全を提供しています。

こうした設備のうち最も一般的なものは、道路標識、バリケード、ドラム、ロードコーン、チューブ、点滅する矢印のパネル、誘導員などです。これらの設備では主にオレンジ色が用いられます。

道路工事および補修についての道路標識：

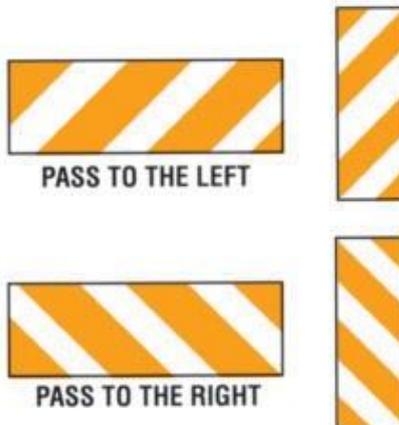
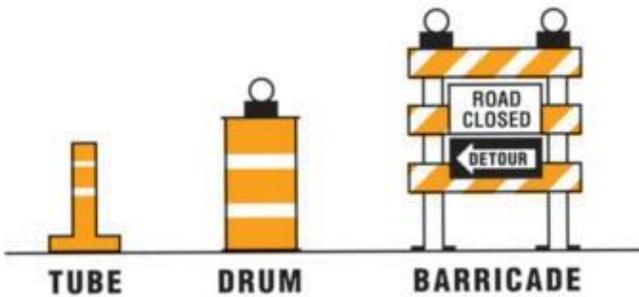
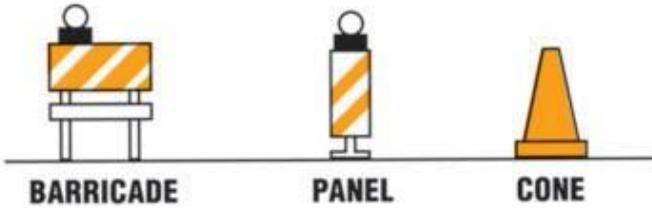
道路工事および補修の標識は、運転者に、作業現場内またはその付近での、通常とは違うまたは潜在的に危険な道路状況を知らせます。作業現場の標識はほとんどの場合、斜方形ですが、長方形のものも少数あります。



誘導設備：

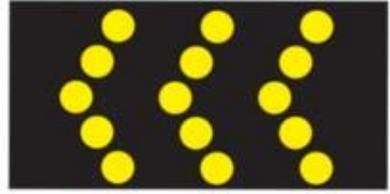
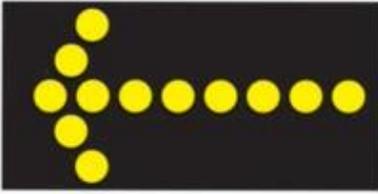
バリケード、縦型パネル、ドラム、ロードコーン、チューブは、自動車道や道路の作業現場を安全に通り返られるよう、現場付近で運転者に通常とは異なる状況、または潜在的に危険な状況を知らせるものです。夜間には、多くの場合ライトが点滅または点灯するようになっています。

バリケードや縦型パネルに表示されている斜めの線は、運転者がどちら側を通行すれば良いかを示しています。斜め線が右下に向いているときは、右側に迂回すべきことを示します。反対に、斜め線が左下に向かっているときは、左側に迂回してください。



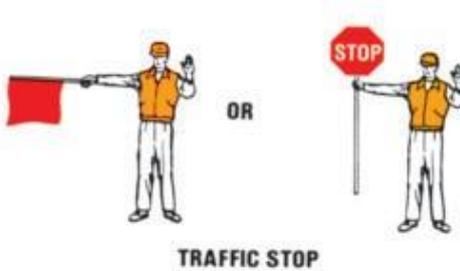
矢印点滅パネル：

矢印が点滅またはアニメーションで表示される大型のパネルは、工事現場で昼夜いずれも使われることがあり、運転者に特定の車線を走行するよう指示し、前方で道路の一部が閉鎖されていることを示します。



誘導員：

誘導員は、自動車道や道路の工事現場にしばしば配置され、交通を停止させた後、現場内を安全に誘導します。誘導員はオレンジ色のベスト、シャツ、またはジャケットを着用し、赤色の旗または「STOP/SLOW」と書かれた標識を使用して、現場内で交通を誘導します。



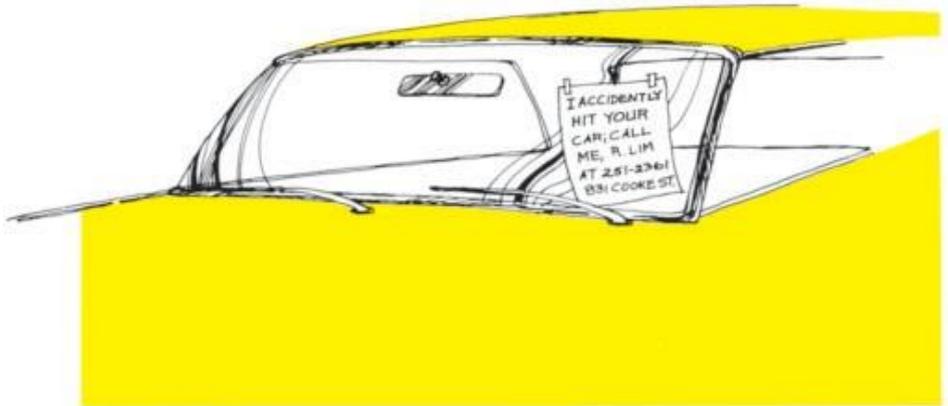
第VII章 事故時の対処

万が一事故に遭遇した場合にしなければならない事柄です。

程度を問わず人身に傷害が生じた事故、死亡事故、または\$3,000以上の物損が生じた事故は、ただちに最も速い手段で警察に届けなければなりません。

事故に関与した場合は以下を行ってください：

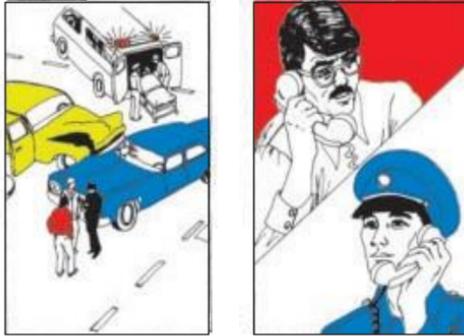
1. ただちに停止します。可能な場合は、車を走行車線の外に出します。自分の身元を示し、救護や援助をします。これらをせずに現場を去ってはなりません。
2. 負傷者を救護してください。
 - a. 最も近い警察機関に連絡します。必要な場合は救急車を要請します。
 - b. 迅速に、ただし慎重に行動してください。必要な場合を除き、負傷者は移動させないでください。経験がない人が扱うことで、軽症が重大な負傷になってしまうこともあります。熟練した医療関係者が到着するまで、負傷者の体を温かく保ちましょう。大量に出血している場合は、傷口を直接圧迫して止血を試みましょう。負傷者を通行する他の車から守ります。
3. 通過する車に注意を喚起します。進入した車が二次的な事故を起こさないよう、接近する車に警告する人を立ててください。緊急用に、懐中電灯や発炎筒を車に常備しておきましょう。
4. 情報を交換します。各運転者は、負傷したすべての人、または事故で損害を受けた車両の運転者もしくは同乗者、またはその他の損害を受けた物を管理している人に対し、名前、住所、車両登録番号を知らせ、要求された場合は運転免許証を提示しなければなりません。
5. 無人の車両に衝突した場合は、停止して車両の所有者を探るか、自分の名前と住所、事故の状況を記したメモを残していきましょう。自動車道に面したその他の物に損害を与えた場合は、その所有者に通知します。



第VIII章 車両安全責任に関する法律

この法律が適用される対象：

死亡事故、負傷事故、または\$3,000を超える物損事故に関わったすべての運転者、および裁判所により車両に関わる特定の違法行為において有罪とされたすべての人。



事故の後にしなければならないこと：（第VII章、52ページを参照してください）
警察署と保険会社に事故を報告する。保険のための証明（フォームSR-21）を作成提出する。

車両に関する違反行為で有罪とされた場合にしなければならないこと：



有罪が確定した日から3年間、賠償資力証明を作成提出する。
保険のための証明（フォームSR-22）を作成提出する。

不遵守の場合の罰則：



運転免許証が停止されます。

自動車保険に関する法律

自動車保険が必要な人は？

乗用車、バス、トラックの所有者は、ハワイ州でその車両を登録して使用するためには自動車保険に加入しなければなりません。

強制加入保険の最低補償額は？

基本補償額は、1名につき\$10,000の医療およびリハビリテーション費用。

1名につき\$20,000の支払い責任を含みますが、限度額総額は事故1件について人身傷害で\$40,000、物的損害で\$10,000が上限です。（注：自分の車に与えた損害は、追加の保険に加入しない限り、補償されません）。

訴えられるのはどんなとき？

物的損害に対してはいつでも相手を訴えたり、相手があなたを訴えることができますが、人身傷害事故については、以下の場合を除き訴えることができません。

医療費が\$5,000を超える場合、または

身体の一部または身体機能の一部が失われた場合、またはその形状が恒久的に深刻に損なわれた場合。

負傷者が負傷により死亡した場合。

罰則は？

自動車保険に関する法律のうち適用されるいかなる条項に対しても違反をした人は、その違反により召喚の対象となり、各違反は独立した犯罪行為とみなされて、\$5,000以下の罰金または30日以下の拘留、または車両運用免許証の停止、または車両登録証の没収、またはそのいずれかの組合せが科されます。

第IX章 アルコールとその他の薬物

大きな問題：

運転に関する最も深刻な問題の一つは、運転する人のうち非常に多くがアルコールの影響下にあるということです。毎年米国で起きる死亡事故のうち、1万8,000件以上（約40パーセント）は、アルコールの使用が要因となっています。これは、あなたがお酒を飲むかどうかにかかわらず、運転者としてのあなた自身の問題です。

この問題は、アルコール中毒の人や、常習的に酔った状態で運転する人だけの問題ではありません。より少量のアルコールを飲んで運転する人すべてに関わる問題です。家庭ではいつも法を守り、責任ある態度で生活をしていながら、ときに少し羽目を外してしまう人も含まれています。ランチタイムにマティーニを数杯飲んだ後、給料日に友人たちと少し飲んだ後、またはパーティーから帰宅するときに運転することが問題なのです。

解決方法：

この問題を解決する責任の大部分は、運転者であるあなたが負っています。

- まず、アルコールの影響を理解する必要があります。
- 自分の飲める量を知り、それ以上は飲まないようにします。
- そして、お酒を飲んだら運転しないようにしなければなりません。

アルコール：

アルコールについて、以下を知っておきましょう。

- アルコールは興奮剤ではなく、弛緩剤です。通常の反応速度を遅くし、判断を妨げ、機敏さを減少させ、視覚を妨げます。お酒を飲むと刺激され鼓舞されるように感じるのは、単に抑制力が減少し、注意力と自己抑制力が働かなくなるからです。
- ビール、ワイン、ウィスキーなど、どんなアルコール飲料を飲むかにかかわらず、血中のアルコール濃度の高さが問題を引き起こします。
- アルコールの影響は状況により異なります。たくさん食べた後に比べ、空腹時には少量のアルコールでもあつという間に影響が表れます。
- アルコールが血中に入ってしまうと、何をしてもその影響を軽減することはできません。ブラックコーヒーや冷たいシャワーは目を覚ますためには役立つかもしれませんが、酔いを覚ますことはできません。アルコールは肝臓で処理され、その後腎臓や肺を通して体外に排出されます。排出のプロセスには時間がかかります。

法律

酩酊を生じさせる物質の影響下での車両の運転。 ハワイ州では、酩酊を生じさせる物質の影響下で車両を運転することは禁じられています。

黙示の合意。 ハワイ州の公道で車両を運転するすべての人は、血中アルコール濃度を測定する検査を受けることに同意するものとみなされます。

免許取り消しの行政処分。 血中アルコール濃度が0.08以上と測定されるか、または検査を拒否した場合は、運転免許が没収され、30日間有効の仮免許証が交付されます。免許取り消し処分を受けたすべての人は、ヒアリング（審理）を請求することができます。

ゼロ・トレランス。21歳未満の運転者が0.02を超える血中アルコール濃度の状態で車両を運転することは禁じられています。

運転者がアルコールの影響下にあると警官が考える場合、運転者に検査を受けるよう要請することがあります。検査を拒否した場合、1年間の免許取り消しとされることがあります。運転者がそれ以前に受けたことのあるアルコール検査の結果によっては、2年間から4年間の取り消しとなる場合もあります。また、運転者は、たとえ検査を拒否しても、酒酔い運転の罪に問われることがあります。アルコール検査により、あなたがアルコールの影響下でないことを証明することもできます。

血中にアルコールが含まれると測定されると、運転者は以下の状態であると判断されます。

- **酒気帯び運転 (Impaired)** : 血中アルコール濃度が0.05パーセント以上0.08パーセント未満の場合。
- **酒酔い運転 (Under the influence of alcohol)** : 血中アルコール濃度が0.08パーセント以上の場合。

公道や公共の歩道では、いかなるアルコール飲料を飲むことも、所持することも禁じられています。

いかなる公道上でも、車両中で運転者や同乗者が通常乗車する室内に開封済みのアルコール飲料を置くことは禁じられています。

その他の薬物

アルコール以外にも、安全に運転する能力の妨げとなる薬物が数多く存在します。医師が処方した薬の中にも、処方箋を必要とせず購入できる薬の中にも、そのような薬物があります。

次の事柄を覚えておいてください：

- 薬をのむ前に、その薬が運転能力に影響しないかどうかを医師に尋ねることが非常に重要です。
- 処方箋なしで購入できるアレルギー治療薬や風邪薬の一部には、運転能力に影響する成分が含まれていることがあります。
- 覚醒剤として、またダイエット用にも使われるアンフェタミンは「ペップ・ピル」や「スピード」という名で違法に売買されています。これらの薬物、またトランキライザーや鎮静剤（「ダウンナー」とも呼ばれます）など他の薬物を大量に摂取すると、運転に大きな支障をきたすだけではなく、それだけで死亡の原因にもなります。
- アルコールと薬物の組合せにより、単独で摂取するよりもはるかに大きな影響が生じることもあります。アルコールと薬物は決して同時に摂取しないようにしましょう。
- 最も危険な種類の薬物は、違法な手段でしか入手できません。LSD、ヘロイン、コカインなどがその例です。これらの薬物を使用すると、使用者は周囲の状況を全く注意しなくなるか、気にしなくなります。こうした薬物の影響下にある人は、どのような場合でも車両を運転してはなりません。
- 違法な市場で売買されるあらゆる種類の薬物は、その薬物の効き目の強さや純度を確実に知る手立てがないため、危険です。

第X章 安全運転の技術

通常の運転

運転上の習慣

習慣とは、同じことを何度も繰り返しているうちにそれが簡単になり、意識することのない自動的な行動となって身につくものです。

運転も同様で、同じ身体の動作を何度も繰り返す必要があるために、運転上の習慣が形作られていきます。一般的に見られる傾向は、必要な動作をできる限り少なくしようとするものです。このような省略は自分でも気づかずに行っていて、知らず知らずのうちに「悪い」運転習慣を形作ることがあります。

「悪い」運転習慣は、(1)怠惰、(2)短気、(3)不注意、(4)傲慢、そして(5)無知から生まれます。こうした良くない習慣がどのように形作られるかという典型的な例を以下にご紹介します。

怠惰

- 初めて運転を学んだときには、車線を変更する前や路肩から発進する前、または車から車線側に降りるときなどに他の車を確認するのが正しい手順だと教わったはずですが、いつも必ず振り返って後方を見、後続車がないかどうかを確認してから行動を起こすのが正しい手順です。運転に熟練してくると、この手順を無意識に簡略化して、バックミラーで見るだけにしまったり、ついには時々確認するだけになってしまうことがあります。
- これに関連したもう一つの「悪い」習慣は、車線変更や路肩からの発進の前に常に方向指示器で知らせるのを怠ることです。この二つの「悪い」習慣を両方とも身につけてしまうと、事故につながる可能性があります。

短気

- 交通量にかかわらず、「止まれ（STOP）」の標識や赤信号では完全に停止しなくてはならないことは、誰もが知っています。停止後に右折する場合も同様です。後続車からのプレッシャーを感じているときや交差する道路の車がないときには、停止すべきところを「気持ちだけ」停まったつもりにしたくなるかもしれません。この悪い習慣が身につくと、いつの間にか一時停止すべきところを減速するだけで済ませるようになってしまうかもしれません。
- 短気な運転者は、すぐに目につきます。信号から信号までの間でスピードを上げたり、車線を何度も変えながら走ったり、追い越せないと車間距離を詰めてあおったりします。こうした運転者は自分の運転に注意を払ってはいるかもしれませんが、自分が交通を乱していることにも、事故に遭う確率を高めていることにも気づいていません。このような「悪い」習慣を身につけないようにしましょう。

不注意

- 運転初心者は、まっすぐに座り、しっかりとハンドルを握って、自分の周囲に目を配り、問題が起きそうな車の流れにも注意を払っています。経験を積んでくると、よりリラックスして座席にもたれ、ハンドルも軽く握るようになり、注意もそれがちになることがあります。注意がそれると、車もふらつきます。こうした運転者は、すぐに目につきます。片手を窓の外に出して

運転し、もう片方の手で手ぶりを交えて同乗者と話していて、交通にはあまり注意を払っていません。運転者が車両を完全にコントロールしていないので、同乗者はしばしば不安を感じています。こうした運転者が一人で運転しているときには、ぼんやり考えごとをしていたり、道端の何かに気を取られていたりします。こうした不注意は、安全を脅かします。

傲慢

- 短気な運転者が単にせかせかしているのに比べ、傲慢な運転者は故意に急ぎ立てます。こうした運転者は、車で競争をしようとし、車を自我の延長のように感じています。交通法規や、他の運転者や歩行者の優先権にはほとんど従わなかったり、無視します。決してこのような傲慢な運転者になつたり、こうした運転者との競争に巻き込まれないようにしましょう。何も得るものはなく、失うものはあまりにも大きいのです。

無知

- 運転者が交通標識や道路標示、優先権、安全運転の手順を知らないこともあります。間違った車線から左右折しようとしていたり、どうして良いかわからないために遅すぎる速度で走行していたり、高速道路の入り口で停まっていたり、越してはならない車線を越えて運転している人を見かけることがあるかもしれません。無知な運転者は自分が無知であることを知らないものです。他の運転者が皆自分を脅そうとしているかと思っているかもしれません。

ときに、こうした「悪い」運転習慣がいくつか組み合わさっていることもあります。そうした運転者は、事故に遭ったときには事故が自分の身の上に「起こった」と考え、避けようがなかったと考えることでしょう。

以下に挙げる悪い習慣は、これまでに見てきた5つの「悪い」運転カテゴリーのいずれか、または複数に当てはまるものです。

- 歩行者や、優先権のある他の車に道を譲らない。
- シートベルトを常に装着しない。同乗者にシートベルトを着けるよう強く指示しない。
- 車で帰宅する前にアルコール飲料を1杯以上飲み、いつも「渋滞の時間を避けるため」を言い訳にする。
- 後ろに何も無いことを確認せずに車をバックさせる。
- 同乗者の話や行動に気を取られる。
- 地図を見たり、タバコに火をつけるなどして道路から注意をそらす。

「良い」運転の習慣は、上記の「悪い」習慣と同じように身につけることができます。それが習慣になるまで、適切な行動を意図的に何度も繰り返すだけで良いのです。そうすることで、運転があなた自身にとってもより楽しいものになり、同乗者もより快適に感じることでしょう。

ながら運転

運転にすべての注意を注がなかったり、注意をそらされていると、深刻な結果を招くことがあります。どのようなものであれ、運転から注意をそらすものは、運転する上で不適切な選択を生じさせることがあります。

飲食、携帯電話での通話、書くこと、読むこと、喫煙、身づくろい、CDを入れ替えたりラジオ局を変えたりすること、車外の人や物を眺めること、車内で探しものをする、同乗者との会話、子どもやペットの世話、化粧、ひげそりなどは、運転中は避けましょう。前もって計画し、これらは運転を始める前に済ませておきましょう。地図や道順を見なければならぬときは、安全な路肩に停車しましょう。運転に完全に集中できる準備ができてから、運転を再開しましょう。

ステレオやラジオの音量は、車の外の音が充分聞こえる程度に絞りましょう。音量が大きすぎるとサイレンや警笛、急ブレーキのタイヤの音などが聞こえなくなり、緊急事態に対処したり、衝突の危険を避けたりすることができなくなるかもしれません。ヘッドフォンやイヤフォンを両耳に付けて運転するのは止めましょう。緊急車両の警笛やサイレンが聞きづらくなってしまいます。

携帯電話での通話は、運転よりも会話の内容に注意を向けてしまうため、集中の妨げとなります。走行中は電話や無線を操作するのは止めましょう。「ハンズフリー」の機器でも、電話や無線で会話をしていると、運転から注意がそれ、危険な状況に気づきにくくなる場合があります。携帯電話で通話する必要があるれば、話が終わるまで安全な路肩に停車しましょう。ペットも注意をそらす原因となるので、キャリーバッグかケージに入れておきましょう。

防衛運転

防衛運転とは、危険な状況をいち早く見つけて対処することにより、事故が起きる状況になる前に危険から身を守る運転技術のことをいいます。「防衛」的な対処をすることで、攻撃的な、粗野な、軽率な、不注意な、衝動的な、無知な、または酔っ払った人が運転する車や、そのような傾向のある歩行者を避けられます。あなた自身にこうした傾向があるなら、まずは**あなた自身から自分を守る**ことが必要です。防衛運転の基本的な考え方は、運転時に遭遇するさまざまな状況で生じる可能性がある危険に気づき、運転を調整して危険な状況に陥るのを避けることです。

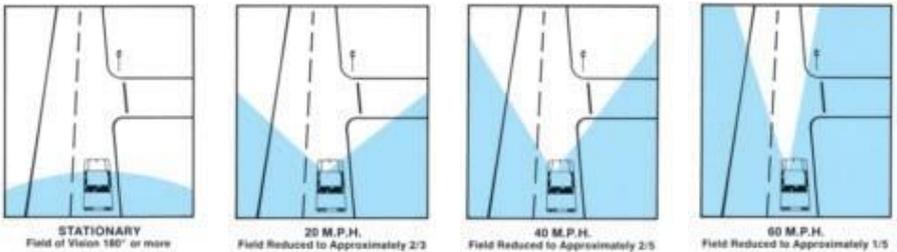
防衛運転で事故を避けるには、次の事柄を実行しましょう。

1. 常に注意を払い、周囲の道路状況の変化を見逃さないよう目を配る。
2. 走行中は自分の車よりもずっと先を見て、交通上に起こる可能性がある連鎖反応を予測する。
3. 予想外の事態が起きた場合に取れる代替行動を準備しておく（常に逃げ道を確保する）。
4. 常に適切な車間距離を保つ。
5. あらゆる道路状況に合わせて、常に適切な速度を保つ。

注意深さ

車を安全に運転するために必要な情報のほとんどすべては、注意深く見ることにより得られます。目の前に現れるあらゆる危険に目を配り、注意を払わねばなりません。自分の車の周囲の状況を常に把握している必要があります。特に、車の進行方向のかなり先がどのような状況であるかに細心の注意を払わねばなりません。

速度が上がると、視界が狭くなります



運転中は**見る**ことに注意のすべてを注ぐべきです。注意の大部分を前方の道路状況に注ぎながら、両側、バックミラー、計器類を定期的かつ頻繁にチェックする「精査」のパターンを身につけるようにしましょう。同乗者を見たり、車の中の何かを探したり、何かを読んだり、車外のものを見物したり、白昼夢にふけったりして注意をそらさないように気をつけてください。事故を起こした多くの運転者は、「……が見えなかった」と語ります。多くの場合、それは「注意を払っていなかった」ということなのです。

運転者の状態

身体的状態や精神状態は、運転能力に影響を及ぼします。病気の時、怪我をしているとき、情緒が安定していないとき、薬物の影響下にあるときには運転をしないようにしましょう。薬を服用しているときは、運転について医師に助言を求め、それに従いましょう。そうした状態で移動する必要があるときは、友人や隣人に運転してもらるか、公共交通機関を使いましょう。

緊急の場合は警察に連絡してください。

車両の状態

自分の車：安全な運行の妨げになる可能性のある不具合は、どんなものでもできる限り早く修理しておくべきです。エンジンの冷却水、エンジンオイル、バッテリー液、タイヤの状態や空気圧、ライトの状態は、前の週に点検を済ませていなければ、車を走らせる前に点検するか、サービスステーションで点検してもらいましょう。フロントガラスも他の窓も、すべてきれいにしておきましょう。**目的地に到着するのに十分なガソリンを入れておきましょう。**

慣れていない車：運転を開始する前に時間をとって、ハザードランプ、方向指示器、ヘッドライト、ハイビームとロービームの切り替え、ワイパーとウォッシャー、ブレーキ、シフトレバー、警笛などの場所や使い方を確認しましょう。不具合がある場合は、運転前に直しておきましょう。

運転の計画

不慣れた場所へ行くときは、前もって計画を立てましょう。

目的地：行こうとしている場所を正確に把握しておきましょう。漠然とした感じだけで運転を開始してはいけません。目的地になじみがない場合は、運転を始める前に地図で確認しましょう。

ルートのプラン：もっとも適切なルートを選びましょう。交通状況、道路状況、天候、視界（日中か夜間か）などの状況を考慮します。可能な限り、問題になりそうな状況は避けましょう。十分な移動時間を予定しておきましょう。天候により、好ましくない状況下でその道路を安全に運転できる自信がなければ、**その計画は延期またはキャンセル**しましょう。

エンジン点火前

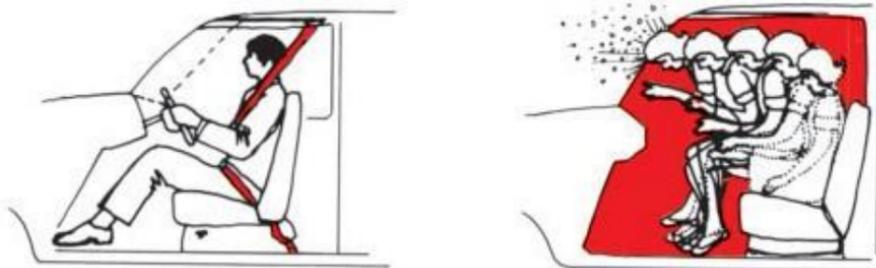
車のインストルメントパネルにある計器の警告灯は、イグニッションスイッチをオンにすると、すべて点灯するはずですが、この状態で点灯していない警告灯があれば、そのランプが機能していないことを示しています。

エンジン点火後

エンジンをかけて数秒後には、ブレーキとシートベルトの警告灯を除いてすべての警告灯が消灯しているはずですが、その他の警告灯が点灯していたら、修理が済むまではその車を運転すべきではありません。

ブレーキ警告灯は、パーキングブレーキを解除すると消灯するはずですが、ブレーキペダルを踏んだときにこの警告灯が点灯する場合はブレーキ系統に異常があるため、その車を運転するべきではありません。

シートベルト



シートベルトは生命を守るベルトであり、運転中は、同乗者も含め、常にシートベルトを着用しなければなりません。シートベルトは、以下の理由で、最も重要な安全装置です。

1. 車外に投げ出されるのを防ぐ。
 - 車外に投げ出されると、死亡の確率が5倍高くなります。
2. フロントガラスまたはその他の車内のパーツに衝突して負傷するのを防ぐ。
 - 腰と肩にシートベルトを着用していれば、最大時速60マイル（97km）での衝突にも耐えることができます。
 - シートベルトを着用していないと、時速12マイル（19km）での衝突事故でも死亡することがあります。
3. 衝突の衝撃で他の人と激突し、負傷させるのを防ぐ。
 - シートベルトを着用していない人に激突されて、小さな子どもや赤ちゃんが死亡することがあります。
4. 運転席に座り続けられるので、車をコントロールできる。
 - 事故の最初の衝撃で運転者が車外に投げ出され、車両をコントロールできなくなってしまうことがよくあります。

腰のベルトは、腰骨の上と下腹部に快適にフィットするように着用しましょう。肩のベルトは、きつすぎないように、胸とベルトの間に拳が入るくらいの余裕を持って着用しましょう。近年のモデルに装備されているシートベルトは、衝撃を受けたときのみロックされ、それ以外の際には自由に動けるよう設計されています。同乗者も忘れないようにしましょう。小さすぎてシートベルトが着用できない子ども用には特別にチャイルドシートがあります。どんなに力が強い人でも、事故のときや車が急停止したときに子どもを抱えてはいられません。たとえ小さな乳児であってもです。決して子どもをシートに立たせないようにしましょう。

シートベルトを着用しないでよい言い訳は、一つもありません。

シートベルトによる人体衝突からの保護 衝突時の衝撃

ベルト不着用



0.000秒 - 車が障壁に追突

衝撃により車体は変形しはじめ、減速しはじめます。車内の人は自分で減速することができないため、時速30マイルで車内を移動し続けます。



0.050秒 - 車体が押しつぶされる

車体の前部が押しつぶされ、衝撃の一部を吸収するので車は減速しはじめます。車内の人は引き続き時速30マイルで動いています。



0.100秒 - 車体が停止

0.120秒 - 車内の人は車の内部に激突

車が停止してから5分の1秒後、車内の人はダッシュボードとフロントガラスに激突します。これが「人体衝突」です。車体は衝突の10分の1秒後に停止しますが、人体衝突は100分の1秒で生じます。

ベルト着用



衝撃により車体は変形しはじめ、減速しはじめます。



車が減速しはじめる間も車内の人は引き続き前進し、シートベルトにより停止します。ベルトにより座席にとどまり、頭と胸を車内のパーツにぶつけずに済みます。



ベルトを着用している人は車体に身体が固定されているため、車の一部となって衝撃を「乗り切る」ことができます。車に変形して衝撃のエネルギーを吸収し、減速して停止する力を利用することができるのです。ベルトを着用していると、人体衝突は起きません。

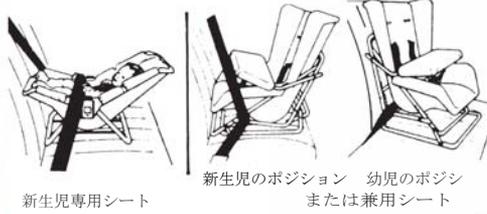
車内で赤ちゃんを安全に

1. 赤ちゃん誕生前

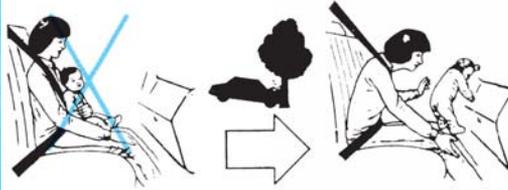


2. 誕生後

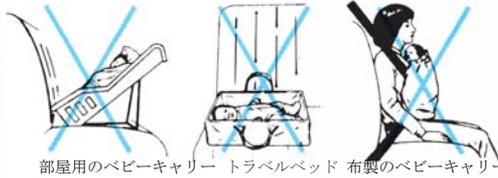
赤ちゃんはベビーシートに



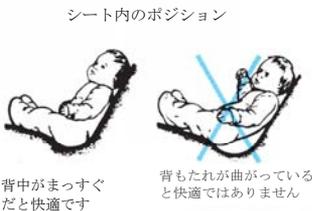
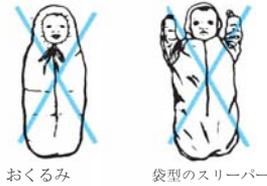
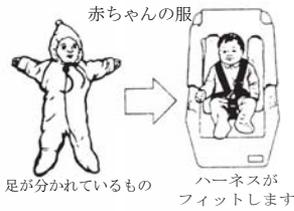
決して赤ちゃんを膝に抱いて車に乗ってはいけません



以下は使用しないでください



3. 赤ちゃんを快適に



4. よくある間違い



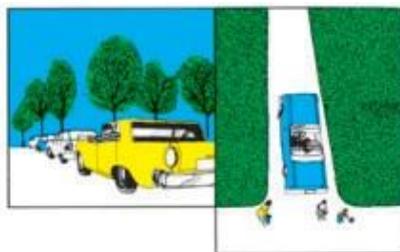
意！子どもを車内に放置してはいけません。

州の法律は、いかなる場合も、成人の同乗者が9歳未満の子どもを無人の車両以上放することを禁じています。子どもだけで車内に放置すると、熱中症、車が盗難にあつて負傷する、またはパーキングブレーキ、パワーウィンドウ、開閉ボタンなどを間違つて操作してしまうなどにより、惨事につながることを。

車をバックさせるとき

車を後退させるのは、視界が限られているため大変危険な作業です。最大限の注意を払って行いましょう。車を安全にバックさせるには、次の手順に従ってください。

- 乗り込む前に、車両の後ろを見て確認する。
- バックミラーに頼らず、首を回して後ろを視認する。バックミラーの視界は、後退の目的で使うには小さすぎます。
- 後ろが見えない場合には、誰かに車の外に出て誘導してもらいましょう。
- 後退を始めたら、確実に適切な操作ができるようにブレーキを軽く踏みます。
- 後退は必ずゆっくりした速度で行いましょう。
- バックしながら曲がるときは、車の前方にも気をつけましょう。
- 車の流れに向かってバックするのは避けましょう。前向きで出られる形で駐車するよう心がけましょう。バックで出る場合は必ず、車の流れが途絶えたときにもっとも近い車線に進入します。
- 可能な限り、バックで道路を横切ったりバックで道路に出ないようにしましょう。



路肩から発進する前に、後方を確認、シグナルを出し、徐行

します。

事故を避ける責任は、第一に、駐車場所から道路に出ていく運転者にあります。住宅地区でバックするときには、最大限の注意を払ってください。駐車している車の後ろで子どもが遊んでいることがあります。

道路への進入

ドライブウェイまたは路肩の駐車場所から道路に進入するときにも注意が必要です。安全に進入するには、次の手順に従ってください。

ドライブウェイからの進入：

- 道路に入る前に必ず停止しましょう。一時停止は歩道を横切る前に行います。一時停止しないと法律違反となります。
- ゆっくりした速度で前進します。歩行者と接近中の車に気をつけてください。
- 進入する車線に接近する車がないことを確認します。
- 可能なときに、最も近い車線に右折で進入します。
- 車線に入ってから加速して、車の流れに速度を合わせます。

路肩の駐車場所からの進入

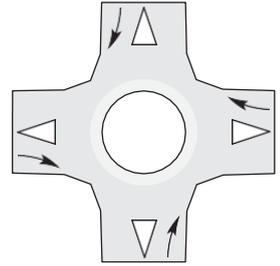
- 道路の進行方向に並行して駐車した場合は、接近する車との間に十分な距離が空いたときに、最も近い車線へ進入します。
- 斜めの駐車スペースに駐車した場合は、バックで車線に入らねばなりません。この場合はより危険度が高く、困難さも増すため、進入にはより多くの時間が必要です。

ラウンドアバウト

ラウンドアバウトは、運転者、歩行者、障がいを持つ歩行者、自転車など、すべての道路利用者の必要を満たすように設計されています。ラウンドアバウトは一方通行の環状交差点で、進入する車両は交差点内の優先権を持つ車両に道を譲らなければなりません。ラウンドアバウトにつながる各道路には徐行の標識があり、場合によっては路面にも徐行の標示があります。

ラウンドアバウトを走行する際の注意点：

- ラウンドアバウトに接近したら減速します。
- ラウンドアバウトへの進入時と退出時には歩行者や自転車に道を譲ります。
- すでにラウンドアバウト内にいる左方向からの交通に注意して道を譲りましょう。これには自転車を含みます。
- 中心にある分離島の右側を反時計回りに通行します。
- ラウンドアバウト内では低速を保ちます。
- 退出するときには右折のシグナルを出してください。
- 出口を通り過ぎてしまったら、ラウンドアバウトをもう一周してから退出します。



適切な車線の選択

同じ進行方向が1車線の道路：この場合は車線に選択の余地はありません。混雑している区域では、他の車両や歩行者に細心の注意を払ってください。

同じ進行方向が2車線の道路：交通が普通に流れているときには右側の車線を走行します。追い越しの際、また右車線から進入する交通があるときには左車線を走行しましょう。交通量が多い区間ではどちらの車線も使えますが、交通の流れに合わせましょう。一定の速度で走行しましょう。車線を何度も変えるのは避けましょう。

同じ進行方向に3車線以上ある道路：最も他の車との交錯が少ない中央の車線を選びます。右端と左端の車線は、道路に進入する車と退出する車のために空けておきます。交通の流れに沿って一定の速度を保ち、車線変更は最小限にとどめます。他の車よりも遅い速度で走行するときは、右の車線を使いましょう。

車線変更

車線の変更は他の車との交錯となるため、最小限にとどめるべきです。

車線変更が必要なときは、次の手順で行ってください。

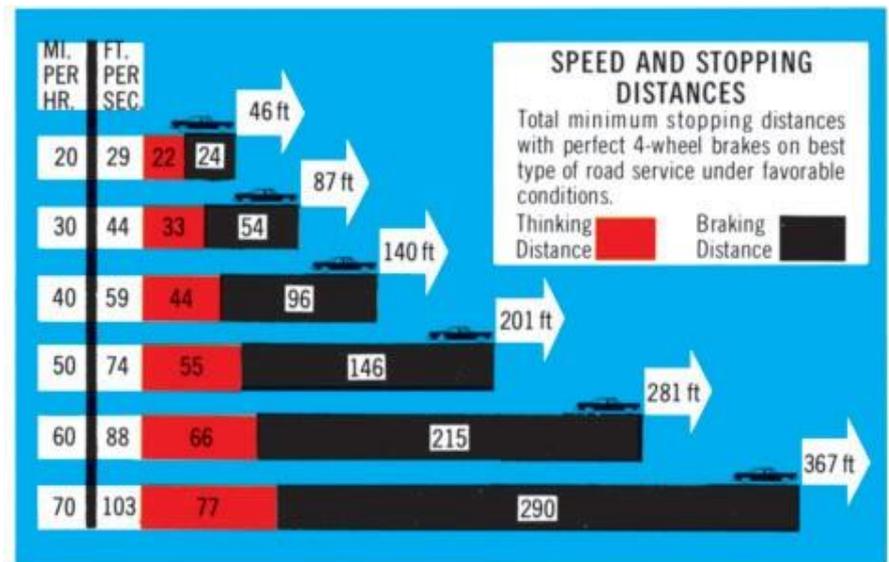
- 道路状況、進行方向、横の車線、後方の交通状況を確認します。バックミラーで確認後、目視して死角をチェックします（首を回して後ろを見て確認します）。
- 車線変更をする前に余裕を持ってシグナルを出します。交通法規により、車線変更を開始する少なくとも100フィート（30メートル）前にシグナルを出すよう定められています。

- 他の車線が十分に空いていたら、ゆっくりとその車線へ変更します。**急な車線変更は避けましょう。**ハンドルを切りすぎたり、車体のコントロールを失うことがあります。場合により、交通の妨げとならないよう、速度を若干調整する必要があることもあります。速度を上げて他の車の前に割り込むのではなく、速度をやや落として車の後ろに進入するのが最善です。他の車の後ろに進入すれば、その車を常に視界に入れることができる上、その車の運転者が不愉快な感情を持つ可能性も減ります。
- 最低限の安全な車間距離、またはそれ以下の車間距離を保って走行している車の間に割り込もうとしてはなりません。そのような割り込みはマナーに反している上、危険です。他の車の運転者はあなたに車線変更をさせないよう、車間距離を詰めなければなりません。十分な余裕を持って適切にシグナルを出せば、マナーの良い運転者は、あなたが車線を変更できるよう車間を空けてくれることが多いのです。
- 車線を変更するときは、常に他の車線の車に道を譲りましょう。**入りたい車線が混雑しているときは、車の列の一番後ろに進入します。加速して一番前に割り込んではいけません。入りたい場所でその車線に進入できなければ、不都合であっても、安全に変更できるまで自分の車線を走行しましょう。
- 交差点や横断歩道への接近中または通過中には、決して車線を変更してはなりません。**

走行速度

事故の原因でもっとも多いのが「状況に対して過剰な速度」です。過剰な速度の原因が特定されることはほとんどありませんが、酒酔いによるものであれ、不注意や競争心からであれ、車の速度が運転者の直接的なコントロール下にあることに変わりはありません。残念なことにほとんどの車は、運転者の力量や道路状況、そして車そのものの能力をはるかに超える速度を出すことができます。

走行速度は、交通の流れ、天候、道路の状況に合わせて適切かつ安全に調整し、常に標示されている制限速度内でなければなりません。



安全な走行速度を維持するには、以下を守ってください。

- 交通の流れに合わせましょう。同じ方向に同じ速度で走行する車同士は、決して衝突することはありません。他の車よりも速い速度で走行していると、他の車との間により多くの交錯が生じます。他の車よりも遅い速度で走行するときは、できる限り一番右の車線を走行しましょう。
- 安全な車間距離を保ちましょう。交通事故でもっとも多いケースの一つが先行車への追突ですが、これは通常、車間距離が短すぎるために起きます。適切な距離を確認するには、まず先行車が木や電信柱などの目印を通り過ぎたときから「0、1、0、2（ゼロ、イチ、ゼロ、ニ）…」と普通の速さで数え始めます。自分の車その目印を通過する前に「2」と数え終われば、少なくとも2秒間の車間距離があります。車間距離を2秒未満にははいけません。車間距離を詰めすぎると、前方の道路状況を視認しにくくなり、問題のある状況避けることができなくなります。
- 一定の速度を維持しましょう。速度を変え続けると、他の運転者にあなたが何をしようとしているのかがわからなくなります。急にスピードを上げるのもブレーキを何度も強く踏むのも、無駄であり、危険です。
- 道路や天候の状況が良くないときには速度を落としましょう。速度が低ければ車をよりコントロールしやすくなり、危険な状況を回避するための時間も長くなります。
- 決して感情にまかせて車の速度を決めないようにしましょう。慌てて運転してはいけません。目的地に着くことができなくなるかもしれません。

右左折とカーブ

右左折は、交差点やドライブウェイで方向を変えることを指します。カーブは、道路や車線そのものが方向を変える箇所です。ときに、安全な曲がり方は右左折もカーブもよく似ていることがあります。

- 右左折をしたい箇所のずっと手前で適切な車線に進入しましょう。右折または左折したい方向に一番近い車線から、右折または左折先で一番手前の車線に進入しましょう。右左折したいときに自分が適切な車線を走行していない場合は、そのまま直進して、他の場所で右左折をします。右左折できる車線に無理やり割り込んだり、すぐ手前で唐突な車線変更をしてはいけません。
- 大きく回りすぎたり、小回りになりすぎたりせず、正確に曲がりましょう。
- カーブに進入する前、または右左折をする前に適切な速度に減速しましょう。カーブや右左折の途中では一定の速度を保ちます。カーブや右左折の途中でブレーキを踏んだり急に速度を変えると車のコントロールを失うことがあります。
- 可能な場合には、左折やUターンは避けましょう。他の車に交錯することが多く、右折よりもずっと危険度が高い上、交通の妨げになります。
- 交差点の赤信号で左折を待っている間も、信号が青に変わってゆっくと交差点に入った後も、タイヤはまっすぐにしておき、対向車がなくなって安全になってから左折を開始します。
- 右左折の際は歩行者、自転車、オートバイに細心の注意を払ってください。
- 歩行者や自転車、オートバイは他の車のかげになっていたり、夜間や悪天候の日には見えないことがあります。
- 赤信号で右折する前には、必ず一旦完全に停止しましょう。
- 悪天候や砂利、砂、ぬかるみの未舗装道路では、カーブや右左折にいつもの注意を払ってください。
- 交差点で右折するときは、自転車レーンを走行してはいけません。

追い越しと追い抜き

対向車線を使わなければ追い越しができない2車線または3車線の道路での追い越しまたは追い抜きは、とても危険です。不適切な追い越しは正面衝突の原因となります。適切に追い抜くには、以下の手順に従ってください。

- 前方の車が制限速度以下で走っているときにのみ、追い越しましょう。
- 前に車がいるというだけの理由で追い越しをかけてはいけません。
- 中程度または大渋滞の中で、数台分前に出るために追い越すのは止めましょう。
- 何台もの列になって走行している場合、追い越しをかけるのは、先行車が車列の先頭の車を追い抜いてからにしましょう。
- 常に左側から追い越しをしましょう。ただし、追い越そうとしている車が左折をしようとしている、または左折中である場合を除きます。左折中の車は、右側から注意して追い抜きます。決して、左折中の車を追い抜くために路肩を走行してはいけません。
- 追い越しを制限または禁止するあらゆる交通標識と車線標示に従ってください。
- あなたの車と追い越す車の間に十分な車間距離を確保してください。そうすれば、対向車や交錯する車を視認することができます。
- 対向車や交錯する車がないことを前もって確認し、方向指示器でシグナルを出して左に寄る意図を示します。
- 首を回して後方を目視し、後ろから追い抜こうとしている車がないことを確認します。
- 前の車の運転者に追い越そうとしていることを知らせるため警笛を鳴らします。
- 自分の走行車線で追い越しのできる速度に加速して、左の車線に進入し、追い越しを開始します。
- 追い越しを完了する前に交錯する車が現れたら、ブレーキを強く踏み、追い越そうとした車の後ろに戻ります。追い越しを完了しようと加速してはいけません。ブレーキを踏んで減速するのにかかる時間の方が、アクセルを踏んで加速するのに必要な時間よりも短いのです。
- 追い越しが完了し、追い越した車がバックミラーで見えるようになったら、走行車線に戻ります。

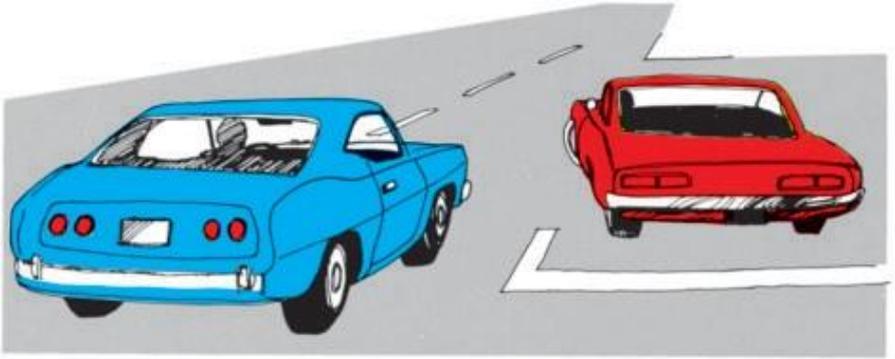
同じ進行方向に2車線以上ある道路では、追い越しのために対向車線に入ってはいけません。適切な車線変更の手順を踏めば、左右どちらからでも追い越しができます。右側から追越すときには、追い越す車の運転者の死角から接近することになるため、特に注意してください。



どのような状況で追い越しをする場合も、交差点や横断歩道に接近中、または通過中に他の車を追い越そうとはなりません。

駐車車両の追い越し

路肩に駐車している車を追越すときも注意が必要です。駐車車両により視界が限られ、進行方向にいるかもしれない他の車や自転車、歩行者などが確認できないことがあります。駐車車両が急に動き出し、あなたの走行している車線に入ってきたり、あなたの車の前でドアが急に開いたりする可能性もあるので注意しましょう。



以下に注意してください。

- 駐車車両の中や周辺に人の動きがないかどうか。
- ストップランプ、バックランプが点灯していたり、方向指示器のシグナルが出ていないか。
- マフラーから煙や蒸気が出ていないか。
- 前輪が動いていないか。

駐車したばかりの車両に接近するときは、その車の運転者がドアを開けて出てくるものと予期しておきましょう。

車道での停止

車道上で不必要に停止することは危険であり、マナーにも反し、配慮を欠き、法律に違反しています。人や積荷を乗せたり下ろしたり、他の運転者や歩行者と会話をしたりするのは、定められた駐車スペース、乗降・積み下ろしゾーン、その他の車線から外れた指定の場所で行いましょう。

交差点や横断歩道で車を停めてはいけません。交差点または横断歩道を渡った反対側の道路に自分の車のはみ出さずに入れるスペースが空いていない限り、交差点や横断歩道に進入してはいけません。

ブレーキの使用

ブレーキは、車両を停止させ、静止した状態に保っておくための装置です。ブレーキは、車の運動エネルギーを熱に変換し、放出することで車を減速させます。つまり、ブレーキを踏むたびに、燃料にかけたお金を浪費し、ブレーキやタイヤを摩耗させるわけです。ブレーキを慎重に使うと、燃料、ブレーキ、タイヤに使うエネルギーとお金が大きく節約できます。大きく加速して強くブレーキを踏むのは止めましょう。

強く踏みすぎると、一つ以上のタイヤが路面でスリップする原因となります。車輪、特に前輪がスリップし続けた場合は、車両をコントロールしなければなりません。他の車や人、ものに衝突する危険がある場合、

ブレーキを踏み続けて車輪を滑走させてはいけません。ほぼ間違いなく、避けようとした対象に衝突する結果になってしまいます。代わりにブレーキを速く小刻みに踏んでは離し、ハンドルを切って、車をひらけた場所に向けましょう。必要な場合は道路から出ましょう。その際に人や木、電柱、大きなものや構造物にぶつからないようにしましょう。

カーブや右左折の途中でブレーキを踏まず、曲がる前に減速しましょう。路面に水、氷、雪、霜、砂、砂利などがあるときは特に細心の注意を払ってブレーキを使用してください。

水たまりなどの中を通った後には、必ずブレーキの効き具合をテストしましょう。ブレーキの効きが悪くなっていたら、効きが回復するまで、ブレーキペダルを軽く何度も踏みます。

走行中に足をブレーキペダルの上に置くのは止めましょう。こうすると、ブレーキ（ストップ）ランプが点灯し、後続の運転者に間違った合図を送ってしまうこととなります。また、多くの車では、足を置いておくとブレーキが一部効いてしまうことになり、ブレーキの摩耗が激しくなります。

ブレーキを踏んだときにインストルメントパネルのブレーキ警告灯が点灯したら、ブレーキ系統の一部に不具合があることを示していますので、ただちに修理が必要です。

ブレーキを踏み必要があることが明らかになった時点で、すぐに減速を開始しましょう。ブレーキは一定の強さでなめらかに効かせます。走行中に交差点などで停止するときは、車間距離を空け、先行車の後輪と道路の接点が見える位置で停止します。

ブレーキを長時間踏み続けるのは止めましょう。ブレーキが過熱して効きが悪くなってしまうます。ギアを低速に入れ、エンジンプレーキを効かせて車を減速することで、ブレーキの踏みすぎを防ぐことができます。

シフトダウン

「シフトダウン」とは、車の走行中にトランスミッションのより低いギアを選択することを指します。シフトダウンはマニュアル車でもAT車でも実行できます。シフトダウンをする目的は2つあります。(1) 減速時や下り坂で減速したままにしたいときにエンジンプレーキを効かせるため、そして(2) 加速のパフォーマンスを上げるためです。

1. シフトダウンは、急な下り坂でエンジンプレーキを効かせるための適切な方法です。速度が出てから低速ギアに入れるのはより難しくなるので、坂を下り始める前にシフトダウンしましょう。

マニュアルトランスミッション (MT) : 現代のマニュアルトランスミッション乗用車は「シンクロメッシュ」機構を搭載しています。このため、走行中にクラッチペダルを踏むと、前進ギアならどれにでもシフトすることができます。シフトダウンの手順は簡単です。クラッチペダルを踏み、シフトレバーを一つ低いギアに動かして、**ゆっくりとクラッチペダルを離す**だけです。

シンクロメッシュ機構のないマニュアルトランスミッション車の場合は、シフトするには車の速度が低速ギアの範囲のエンジン回転数に合っていなければならないため、手順がより難しくなります。この手順は「ダブルクラッチ」と呼ばれます。練習をして身につけるまではこれを実行すべきではありません。

オートマチックトランスミッション (AT) : ほとんどのAT車では、普通で速度で走行しながらシフトレバーを「ドライブ (D)」から一つ下のギアのポジションに動かすだけで、

シフトダウンが完了します。AT車は高速（時速60マイル/97km以上）ではほとんどの場合、シフトダウンできません。この場合は、シフトダウンができるよう車の速度を落とす必要があります。シフトダウンを通常のルーティンとして使うのは、ブレーキランプ（ストップランプ）で後続の車に減速を知らせることなく急激に速度が落ちるため、**推奨されません**。シフトダウンによる減速は、あくまでも補助的なブレーキとして使用すべきです。

2. マニュアル車でシフトダウンして加速パフォーマンスを上げる方法は、上記に述べたのと同様の手順で実行できます。上記との違いは、ギアを変更した後でエンジンの回転が上がり、希望した通りの加速が得られる点です。

自動車道を走行する通常速度でアクセルを踏んでいると、どのAT乗用車も自動的にシフトダウンします。**注意：高速で走行中にシフトダウンをすると、実際には車の加速性能が下がることがあります。**シフトダウンのテクニックをむやみに使うと、エンジンやトランスミッションに大きな負荷をかけ、修理費が高価になる場合があります。

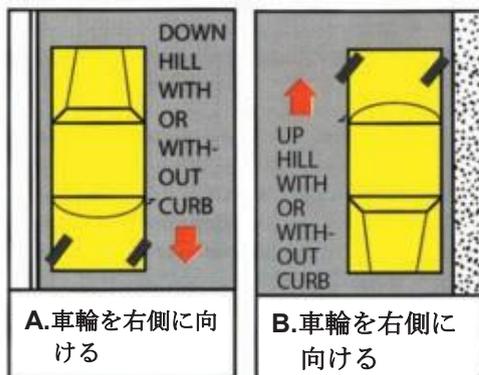
シフトダウンは、ブレーキが一部または完全に故障したときに車を減速させる緊急措置としても適切に使用することができます。

シフトダウン時は、滑りやすい路面では不均等にかかる力が車のコントロールに問題を生じさせることがありますので、細心の注意を払ってください。

駐車

駐車するときは、必ず、交通の流れから離れており、接近する車の運転者からよく見える場所を選びましょう。カーブのすぐ後、坂の上など、見えにくい場所に駐車するのは避けましょう。

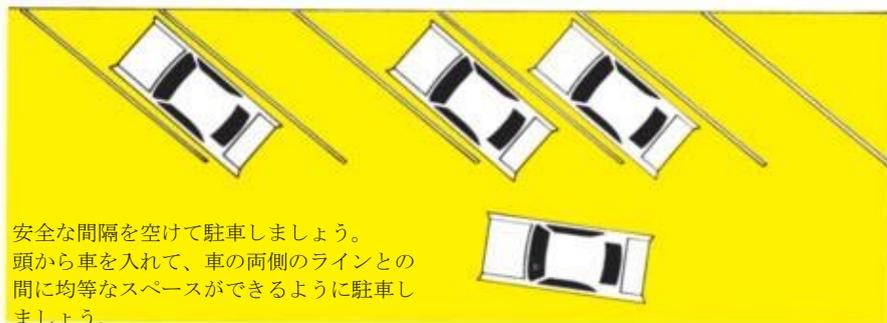
坂道での駐車



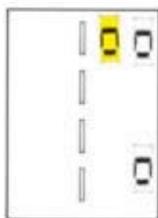
坂道に駐車するときは、パーキングブレーキが効かなかった場合に、車が道路にいる他の車の方へ転がっていかないようにしてください。パーキングブレーキは常にかけてください。シフトに「PARK」のポジションがあればそれを選択してください。「PARK」がなければ、「R」または低速ギアに入れます。前輪は常に路肩の方向に向けましょう。こうしておくと、車が自然に転がるのに必要な力を最大限にすることができます。車が勝手に転がり始めるには、車輪が4つとも路肩を越えなければならないからです。

上り坂でも下り坂でも、車輪を右向きに切って駐車してください。こうしておくと、車が万一勝手に転がってしまった場合に、車道から離れていきます。

斜めの駐車スペース

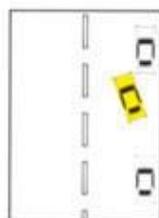


縦列駐車



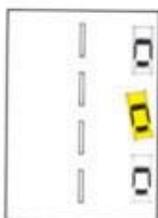
ステップ 1 :

シグナルを出し、前の車と平行に、その車から18インチ (46cm) ほどの間隔を空けて、リアバンパーが一列に並ぶように停めます。



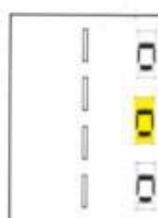
ステップ 2 :

ハンドルを右に一杯切りながらゆっくり後退し、道路に対して45度の角度にします。すばやく前輪を真つすぐにして、ゆっくりと後退します。



ステップ 3 :

フロントバンパーが他の車のリアバンパーと並んだら、ハンドルをすばやくできるだけ左へ切ります。後ろの車にぶつからないよう、ゆっくりと車を後退させます。



ステップ 4 :

ハンドルを右に一杯切って、ゆっくりと前進します。スペースの中央に車が入るようにします。

路面に標示がある場合を除き、駐車ポジションに入れたときに、フロントおよびリアバンパーが、前後の車から少なくとも2フィート (約61cm)は離れるようにしましょう。

駐車制限

斜めの駐車スペースが明示されている場合を除き、駐車は路肩に沿い、進行方向に向かって縦列で行いましょう。縦列駐車を行うときは、路肩の側の車輪の位置が路肩から12インチ（30cm）以内になるように、または標示された駐車箇所の中に完全に収まるように駐車します。

方向指示器、停止シグナル、ハザードシグナル

電気式シグナル：電気式ストップシグナルは50年以上前から乗用車の標準装備になっています。ほとんどのメーカーの自動車は、1950年代初期から電気式機器による方向指示器を装備していました。1968年以降、すべての車両は電気式方向指示器、ストップシグナル、ハザードランプ（4ウェイフラッシャー）を装備しています。現在のほとんどの車は、電気式シグナルをもれなく装備しています。

電気式シグナルのメリット

- 窓を閉めていても瞬時に使用できる。
- 暗い場所や悪天候でもよく目につく。
- その車両の真横を除き、どの角度からでも見ることができる。
- 他の動作とみなされたり混乱を招くことがない。
- 運転者はシグナルを出しながら両手を車両のコントロールに使用できる。

電気式シグナルのデメリット

- 方向指示シグナルの消し忘れが生じる。
- シグナルに機能上の不具合が生じる。

シグナルの消し忘れは、右左折や車線変更でハンドルの切り幅が浅いときに自動的にシグナルが消える仕組みが働かず、運転者がインストルメントパネルの表示灯をチェックするのを怠るために生じます。方向指示器の不具合は、運転者が表示灯を見ていればすぐに目につくはずですが、方向指示器の表示灯に異常がある場合は、シグナル系統に不具合があることを示しています。

手信号：運転者が道路の他の使用者に進行方向の意図を伝える手段として現在も使用されています。電気式シグナルに不具合が生じた場合、適切な手信号の知識が必須です。

手信号のメリット

- 通常、異常は生じない。

手信号のデメリット

- 運転者が手信号として意図していない手と腕の動作と見分けがつきにくい。
- 暗い場所や悪天候では見えにくい。
- 車の右側にいる運転者にはよく見えない。
- 運転者側の窓を開ける必要がある。
- 運転者がシグナルを出すとき、片手で車両をコントロールしなければならない。

ハザード警告シグナル

ハザード警告シグナル（ハザードランプ、4ウェイフラッシャー）は、他の車の運転者に、自分の車が道路上のハザード（危険物）となる場所に停車していることを知らせるためのものです。**車が動いているときには、決してハザードランプを点灯してはいけません。**このシグナルをオンにすると、すべての方向指示器が点滅します。このシグナルに代わる手信号は定められていません。

ストップシグナル

電気式のストップランプは、サービスブレーキ（フットブレーキ）を踏むと自動的に点灯します。夜間には、ブレーキペダルを踏みながら車体の後方を見ると、このブレーキが点灯しているのが見えるはずですが、ブレーキを踏んでいる、または減速しているという合図は手信号を使って送ることもできます。

方向指示器の使用

方向指示器（ターンシグナル）は、他の運転者にあなたの意図を知らせるために使用します。シグナルを出したからといって、意図した通りに動く権利を得られるわけではありません。意図した動作を安全に、道路を利用している他の人々の妨げにならない方法で行う責任は、すべてあなたにあります。

交通法規では、右左折や車線変更を開始する少なくとも100フィート（30メートル）前にシグナルを出すよう定められています。道路を利用する他の人々がシグナルを見てあなたの意図を理解できるよう、常に十分な余裕を持ってシグナルを出しましょう。

意図する右左折または車線変更のために減速する必要がある場合は、減速を開始する前にシグナルを出し始めるのが非常に重要です。これにより、他の運転者に、あなたの車が減速する可能性があるという警告を送ることになります。

方向指示器の使用法によくある誤りには次のような例があります。

- 交差点で停止した後、信号が変わるまで、右左折の意図を示すシグナルを出さない。
- シグナルを出さない、十分にシグナルを出さない、または右左折や車線変更を開始してからシグナルを出す。（通常、急な右左折や急な車線変更、車線への割り込みなどを伴います）。
- 右折の意図を示すシグナルを出さない。
- 右左折が義務づけられている専用車線でシグナルを出さない。
- 誰も見ていない場所でシグナルを出さない。

方向指示器を適切に使用しないのは、運転者によくある誤りです。こうしたシグナルの不使用は、運転者の無知、傲慢、または不安定さと、道路の他の利用者に対する配慮のなさを示しています。または、運転者自身、自分が次にどんな行動をとるかが分かっておらず、従って他の人にも意図を示すことができないことを意味しているかもしれません。

方向指示器に関する3つの重要なルール：

- 右左折または車線変更時には常にその意図をシグナルで示しましょう。
- 意図する右左折または車線変更を開始するよりも前に余裕を持ってシグナルを出し、他の人がそれを見て意図を理解できるようにしましょう。
- シグナルは意図を示すにすぎず、意図した動作をする権利をもたらすものではありません。

方向指示器の適切な使用法は、簡単に身につく良い運転習慣の一つです。

道路の共有

運転時には、トラック、バス、乗用車、オートバイ、自転車などあらゆる大きさの車両、そして歩行者と共に道路を共有しなければなりません。より大型の車両は、乗員への保護性も高く、他からも見えやすい一方で、運転者にとってはより操作が難しいものです。小型の車両は、乗員への保護性はより低く、他からも見にくくなりますが、

より機敏に簡単に操作できます。運転時には、自分だけでなく、他の車の性能や制限も理解しておかねばなりません。

運転者は、より小型の車両、特にオートバイと自転車に対しては細心の注意を払い、より大型のトラックやバスなどから自分の車が見えていることを確実にしておかねばなりません。

道路上では、オートバイ、自転車、歩行者との間に十分な間隔を取り、右左折や車線変更の際には特に注意を払いましょう。オートバイは、走行する車線の横幅全体をフルに専有する権利を有しています。

特殊な状況下の運転技術

悪天候時の運転

ハワイでは、他の地域に比べて気候にあまり大きな変化はありません。ハワイの天候で運転上問題となるのは、主に雨、標高が高い地域での局所的な霧、そして強風です。

雨：雨により、運転する上で2つの問題が生じます。運転者の視界が悪くなることと、路面の状況が変化することです。



防衛運転を行う運転者にとって、雨の降り始めの数滴は危険のサインです。雨の降り始めは、車が落とした油がまだ洗い流されていないため、路面がもっとも滑りやすくなっています。油と水で覆われた路面の上を運転するのは、氷の上を運転するのに似た状態になることもあります。速度を落とし、細心の注意を払って、少なくとも通常の2倍の車間距離を取りましょう。長時間の雨や豪雨の際には、路面に何層もの水の層が形成されます。時速35マイル（56km）で走行時、自動車道での走行に適したタイヤのトレッドは、ちょうどワイパーが窓を拭くように路面の水を排除します。車の速度が上がると、排水の速度が追いつかないために、タイヤはちょうどサーフボードのように水の層に乗ってしまいます。これが「ハイドロプレーニング」と呼ばれる現象です。部分的なハイドロプレーニング現象は時速35マイル（56km）で走行時にも起こることがあります。速度と路面にたまった水の量により、ハイドロプレーニング現象の程度は変化します。激しい雨の中、時速55マイル（89km）で走行すると、タイヤは路面との接触を完全に失うことがあります。その場合、ブレーキもアクセルもハンドルも効かなくなり、車両のコントロールは全くできなくなります。

ハイドロプレーニング現象を防ぐには：

- ・ タイヤのトレッドの溝に十分な深さがあるか確認しておく。摩耗してすり減ったタイヤでは、低速でもハイドロプレーニング現象が起きます。
- ・ タイヤの空気圧が適切かどうか確認しておく。空気圧が少ないと、低速でもハイドロプレーニング現象が起きます。
- ・ 減速しましょう。ハイドロプレーニングは高速で起きやすい現象です。

深い水たまりを通過したり、激しい雨の中を走行した後ではブレーキが濡れ、その結果、ブレーキをかけたときに片側に寄ったり、まったく効かなくなることがあります。その場合は減速して、ブレーキの効きが戻るまでブレーキペダルを軽く踏みます。

雨天時は視界が悪くなります。雨があまりにも激しいと、ワイパーを動かしていてもよく見えないことがあります。豪雨で視界が悪いときには、減速し、ヘッドライト（ロービーム）を点灯し、他の人から車を見えやすくします。雨があまりにも激しくて先がよく見えないときは、路肩またはひらけた場所に車を寄せて止め、雨が上がるまで待ちましょう。

洪水が起きている地域へ車で行くのは止めましょう。立ち往生する可能性があります。1フィート（30cm）以上の水が急流になっている箇所には決して進入してはいけません。車両が押し流されることがあります。

霧：ハワイでは、低地で霧が発生することはほとんどありません。低い雲が地面に接触しているような標高の高い道路では、霧に遭遇することがあります。小さな塊になった霧は、気づかないうちに突然現れるので、特に危険です。

霧の中の運転は避けるのが最善ですが、どうしても必要な場合には以下に注意しましょう*。

- ・ 速度をごく低速に落とし、ロービームでヘッドライトを点灯しましょう。霧の中では決してハイビームを使ってはいけません。特に夜間は光が反射して、あなた自身の視界が悪くなるだけでなく、対向車の運転者の視界も悪くなります。
- ・ 急停止できる態勢で走行しましょう。
- ・ 車2台分の距離（40フィートまたは12メートル）が見通せないときは、道路の舗装部分から完全に出て停止し、ハザード警告シグナルを点灯します。

冬季の運転：冬季には、ハワイでは遭遇することのない危険な道路状況が発生します。他の州で冬季に運転する場合には、以下のヒントが役立ちます。冬季の運転に経験がない限り、そうした道路状況での運転は避けるのが一番です。

- ・ スノータイヤを装備しましょう。
- ・ 路面の状態を確かめます。低速でスタートしましょう。車が走り出したら、ブレーキを軽く踏んでテストしましょう。
- ・ 車の窓から雪や氷、霜を取り除いておきましょう。
- ・ 先行車と安全な距離を保ちましょう。滑りやすい路面でトラブルに遭っている車がないかどうか注意して観察しましょう。
- ・ 通常よりも速度を下げて走行しましょう。可能な限り、乾いた路面を走行しましょう。

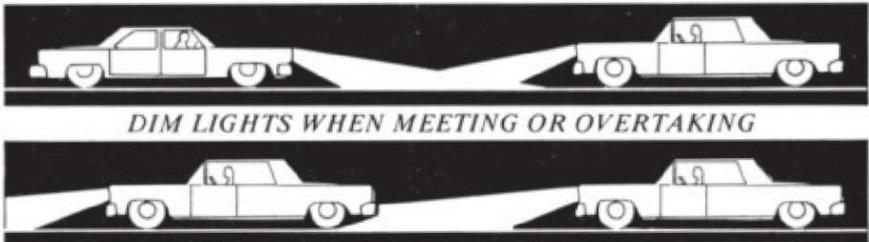
*これらの対処法は、視界が豪雨、煙、霧、雪などの理由で制限されている場合のみ適用できるものです。

- 危険箇所にご注意しましょう。道路の他の部分は乾いていても、橋の上や下には氷が層になっていることがあります。日陰では、他の場所よりも雪や氷が融けるのに時間がかかります。路面で光っている場所は氷かもしれないので、注意しましょう。
- 雪や氷の上で停止しなければならないときは、細心の注意を払って少しずつ断続的にブレーキを踏みます。車輪がロックしてしまうと、車のコントロールを失います。衝突しそうになったら、ひらけた方向に車を向けましょう。

夜明けと日没時の運転：まぶしい朝日や夕日の方向に向かって運転するときは、サンバイザーを下げ、サングラスをかけましょう。ギラつきを軽減し、視界を良くするために、フロントガラスとワイパーを完全にきれいに保っておきます。

日が昇る直前と日没直後は、十分な光量がなく、視界が悪くなります。曇天の日にはこの条件がさらに悪くなります。この時間帯には、他の車からあなたの車が見えるようにロービームのヘッドライトを点灯しましょう。光らない障害物や歩行者にご注意してください。

夜間の運転：夜間には、どんな人でも昼間ほどのものが良く見えません。運転者は光と暗がりを見互いに見るので、暗いところでの視力を最大に働かせることができません。



夜間の安全運転のため、以下の点にご注意しましょう。

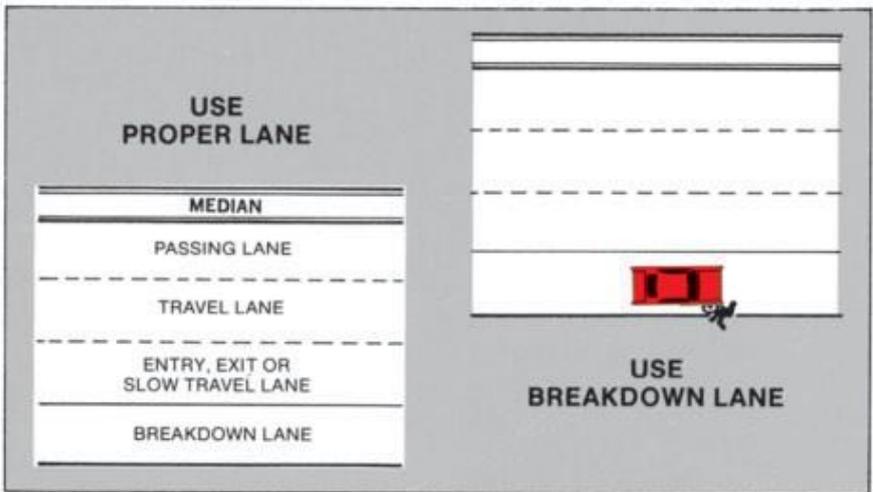
- 運転前の数時間は、眩しい光から目を守ってください。
- ワイパーとフロントガラスの内と外を徹底してきれいに保っておきましょう。
- 車のすべてのライトが不具合なく動作することを確認しておきます。
- 見える範囲の距離で停止できるよう、速度を下げた走行しましょう。
- 対向車や先行車があるときはヘッドライトのハイビームを使ってはいけません。
- 対向車のライトが眩しすぎる場合は、ハイビームを一度だけ点滅させ、車線のラインや反射板を手がかりとして、道路の右端を見るようにしましょう。
- 赤色の反射板が標示されている場合は、進入禁止の車線を示しています。

高速道路での運転

高速道路（フリーウェイ）は、高速で安全に走行できる道路です。視界をさえぎる勾配の急な坂や急カーブなどがなく、安全かつ効率よく走行できます。一時停止標識も信号も線路の踏切もなく、定められた出入口以外からは道路に出入りすることはできません。高速道路での運転は、他の自動車道とは異なります。以下の特別な手順やルールに従って、高速道路でのドライブを安全に行ってください。

高速道路での走行

- すべての標識に注意しましょう。
- 通常は左車線または中央の車線を、定められた速度またはそれに近い速度で走行します。
- 右車線は、交通の流れと同じ速度で走行できない低速の車両が使用します。
- 右車線は可能な限り、入り口から進入する車と出口を利用する車のために空けておきましょう。
- 右車線を走るときは、入り口から合流する車のためにスペースを空けましょう。
- 車線変更は避けましょう。
- 車線変更をするときには、余裕を持ってシグナルを出します。
- バックミラーを使って確認します。
- 車線を変更する前に視認しましょう。



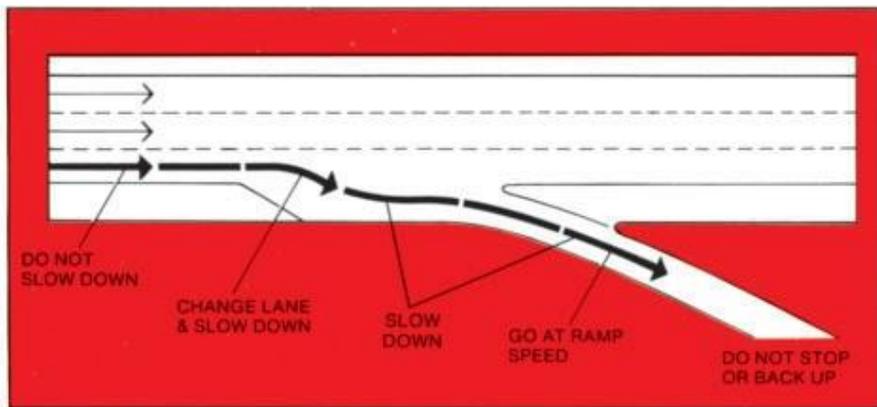
- どうしても避けることができない場合以外は、決して高速道路で停止してはいけません。
- 不必要に減速してはいけません。
- 前の車に近すぎる距離で追尾してはいけません。高速道路では後方からの追突事故が多く、通常、数台を巻き込んだ玉突き事故になります。
- 高速道路の中央分離帯は決して越えてはなりません。高速道路ではUターンや後退をしてはいけません。
- 反対方向へ行かねばならないときには、一旦次の出口で高速道路を下り、反対側の入り口から再度入り直します。

緊急時の停止

- 可能な場合は、次の出口で高速道路を下りましょう。
- どうしても停止しなければならない場合は、完全に車道から出て、交通の流れからできるだけ遠い場所に停めます。
- 高速道路に立ったり歩いたりしてはいけません。
- 他の運転者を支援するために停車することはせず、適切な当局に報告しましょう。

高速道路からの退出

- 正しい出口が選べるように出口の標識に注意します。
- 方向指示器でシグナルを出し、意図を示します。
- 出口車線に移動します。
- 出口ランプに入るまで速度を保ち、なめらかに減速します。
- 下りる予定だった出口を通り過ぎてしまっても、**停止したり後退してはいけません！** 次の出口へ進んでください。



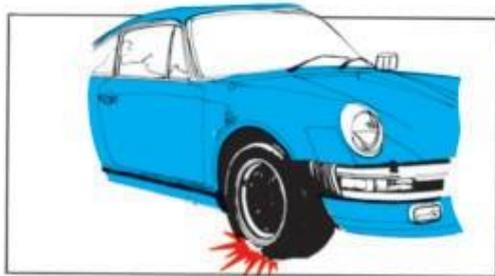
緊急時の運転手順

あらゆる緊急時に対応できる手順はもちろんありませんが、次の数ページでは、比較的よく生じやすい緊急事態の対処法について解説しています。運転時のあらゆる緊急事態に共通する基本要素は、ブレーキ、ハンドル、動力です。次の基本的なポイントを覚えておいてください。

- パニックにならないようにしましょう。
- 車輪がロックして滑るので、急ブレーキを踏まないようにしましょう。車輪が滑ると、車体のコントロールができなくなります。
- より安全な場所に車を向けましょう。車輪を滑らせることなく、ブレーキを最大に効かせましょう。いずれかの車輪が滑り始めたら、ブレーキから足を離し、車輪の滑りが止まってから再度ブレーキをかけます。
- 車両をコントロールできる位置を保てるよう、シートベルトを着用しましょう。
- 障害物に衝突した後も、車両をコントロールするように努めてください。

タイヤの破裂

タイヤの破裂は、タイヤから急激に空気が抜け、動かなくなってしまう現象で、車両のコントロールが失われます。タイヤの破裂は、多くの場合、メンテナンスの不備により起こります。



タイヤの破裂が起きたら、以下を実行してください：

- **ブレーキを踏んではいけません。**ブレーキを踏むと、車両がまったく制御できなくなります。
- ハンドルをしっかりと握り、走行車線にとどまります。（右側または左側に寄っていく力が強く働くことがあります。または、どちらかに強く寄った後、反対方向に寄ることもあります）。
- ブレーキを使わずにゆっくり減速し、ごく低速で走行する状態にします。
- それからブレーキを軽く踏み、道路を離れて安全な場所に乗り入れます。（タイヤが破裂しても、ホイールを損傷することなく、ごく低速でかなりの距離を走ることができます）。

車輪の脱落

これは比較的稀な緊急事態ですが、発生した場合にはタイヤの破裂と同様の手順で対処します。車輪が脱落した場合、ブレーキが一部または全面的に効かなくなることが考えられます。一旦停止したら、車両をそれ以上動かすことはできず、レッカー移動してもらうしかありません。

ブレーキの故障

現代の乗用車では、ブレーキが完全に故障することはほとんど考えられません。サービスブレーキ（フットブレーキ）系統は、ほとんどのような場合にもブレーキが一部は効くような構造になっています。ブレーキの一部が故障すると、ブレーキの効きが悪くなり、インストルメントパネルの警告灯で示されます。

ブレーキが完全に効かなくなってしまったら、

- ブレーキペダルをすばやく踏み、
- 低速ギアに切り替えます。
- 退避できるルートを確認します（側道や平らでひらけた場所など）。ライトと警笛で他の車に危険を知らせます。
- パーキングブレーキをゆっくりと引き、車両を停止させます。（パーキングブレーキを急激に引いたり強く引くと、車両のコントロールを失う可能性があります）。

ステアリングの故障

ステアリングの完全な故障は比較的稀であり、適切にメンテナンスをしている車に生じることはほぼありません。パワーステアリング車の場合には、ステアリングのコントロールが一部失われることがあります。この場合、通常よりも強い力を使ってハンドルを回し、車両が向かう方向をコントロールしなければなりません。

諦めてはいけません。ハンドルの操舵に必要なだけの力を入れて車両をコントロールしてください。

ステアリングが完全に故障してしまったら：

- ゆっくりと減速しましょう。
- 障害物との衝突を避けるためにブレーキを踏み、可能な限りなめらかに停止します。

脱輪

車が走行中に道路の縁の外、砂利道、泥道、または舗装の外に脱輪してしまうと、舗装面に容易に戻りにくいことがあります。脱輪してしまったら、以下に従いましょう。

- 車両を力づくで舗装面に戻そうと、急ハンドルを切ってはいけません。
- 脱輪したまま走行し、減速します。
- ブレーキを軽く踏みます。
- 安全な速度になってからハンドルを切り、舗装面に戻しましょう。車線に戻ったらすぐに速度を調節できるように準備しておきましょう。



追い越し車両が危険な状況にある場合

他の車があなたの車を追い越そうとしていて、対向車があるため追い越しが完了できない場合、以下の方法で衝突を防ぐことができます：

- 安全に寄せられる限り車を道路の右端に寄せます。可能であれば路肩に乗り入れましょう。
- 追い越し車両が引き続き追い越しをかけている場合は、追い越し車両が前に入るよう減速します。
- 追い越し車両が減速してあなたの後ろに戻ろうとしているように見える場合は、相手が元の車線に戻れるよう、あなたの車の速度を上げます。（いずれの場合も、相手の運転者の意図が明確になってから加速または減速してください）。

同じ走行車線で対向車が接近している場合

あなたの走行車線に対向車が接近しているのが見えたら、以下の手順に従ってください：

- ヘッドライトを点滅させ、警笛を鳴らします。
- すばやく減速して右に寄せ、車線を出て、空いているひらけた場所に車を向けます。**反対車線に進入してはいけません。**
- 必要な場合は、道路の外へ出ます。障害物や歩行者を避けてください。

アクセルが戻らないとき

アクセルが固着して開いたままになってしまうと、アクセルペダルから足を離しても、車両は同じ速度を保つか加速を続けます。この現象は、しばしばアクセルペダルを床まで踏み込んだ後に生じることが

あります。この場合、車両は急速に加速を続けます。いずれの場合も、以下に従ってください：

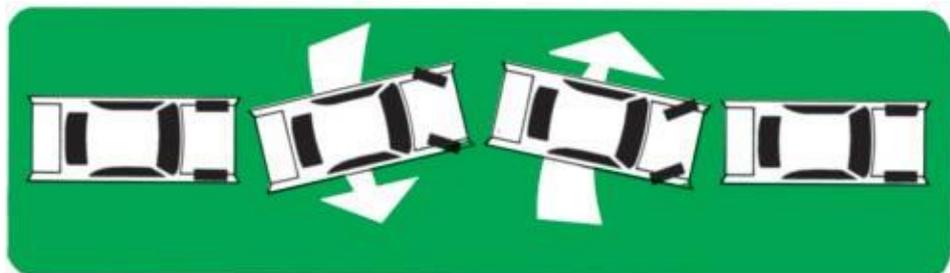
- 足でアクセルペダルを打ちます。
- イグニッションを切ります。（イグニッションスイッチはエンジンを止める位置まで戻すにとどめ、ハンドルロックをしないように気をつけてください。パワーステアリングとパワーブレーキを装備した車両の場合は、この操作により強い力を必要とします）。
- ブレーキを踏みます。
- 道路を出て、安全な場所に乗り入れます。

パワーステアリングの故障

この不具合は、通常、エンジンの故障、またはパワーユニットのベルトの損傷により起こります。いずれの場合も、ハンドル操作により強い力が必要となります。

- 速度を落としてください。
- 安全な場所に寄って停止してください。

スキッド



スキッド（横滑り）は、ほとんどの場合、方向や速度を急に变えることにより起こります。もっともよくある原因は、道路や交通の状況に対して速度が速すぎることです。濡れた路面、滑りやすい路面や、砂利で覆われた道路を走行するときは特に細心の注意を払いましょう。

車がスキッドし始めたら、コントロールを失う前にただちに適切に対処することが重要です。車両のスキッドに経験がない限り、適切な対処は自然に反しているように感じられるかもしれません。重要なのは、スキッド、または制御上の問題に遭遇したときには、問題が起きたときにしていた行動を止めるか軽減すべきだということです。スキッドからぬけだすには：

- ブレーキを使うのは避けましょう。スキッドし始めたときにブレーキを踏んでいたなら、ブレーキを離しましょう。
- アクセルペダルをゆるめます。こうすると、すぐにスキッドが止まることもあります。
- 後輪がスキッドしている方向にハンドルを切ります。しっかりとハンドルを切りますが、大きく急に切らないようにしましょう。右にスキッドしている場合は、ハンドルを右に切ります。左にスキッドしているときは左に切ります。スキッドが止まったら、ハンドルを進行方向に戻します。
- 修正幅が大きすぎると、車両が反対側にスキッドしてしまうことがあります。その場合はハンドルを軽くスキッドしている方向に戻します。車両の制御が戻るまで、これを繰り返します。

火災

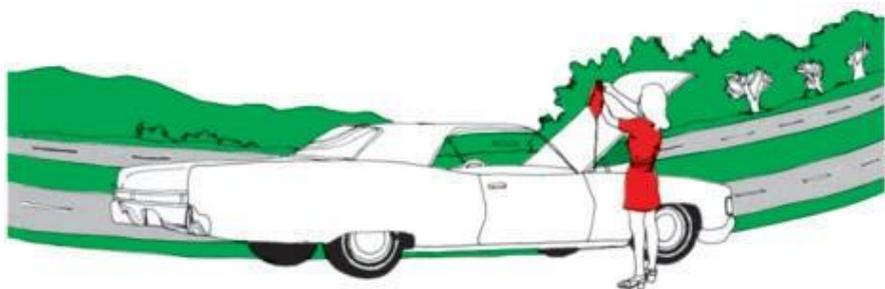
火災は、車両中の可燃物がある箇所で発生することがあります。火災は通常、エンジンのオーバーヒート、電気系統のショート、燃料漏れ、オイル漏れなどが原因となります。焦げるような匂いがしたら、ただちに点検しましょう。車両内で火災が発生、または火災の疑いがある場合は、次の手順に従ってください：

- 車の来ない安全な場所に寄って停止してください。
- エンジンを切り、その他の電気系統のスイッチもすべて切ります。
- 同乗者を全員車の外に出し、車から離れ、道路にも出ないようにします。有毒なガスがすぐに車内に充満するかもしれません。
- 火災が小規模の場合は、消化器、土、砂、毛布などを使って消火しましょう。**ガソリン、オイル、電気**の火災に水をかけてはいけません。
- ガソリンまたはオイルの火災が広がると、消火できない可能性があります。自力で試みず、支援を求めましょう。

故障またはエンジンの不具合

幸いなことに、車両の故障のほとんどは危険なものではありませんが、道路上に危険な状況を作り出してしまうことがあります。故障した車両は、しばしば交通の流れを妨げる危険な場所に立ち往生することがあります。

- 可能な場合は、車を安全な場所に移動しましょう。
- 同乗者が交通の流れに近づかないようにしましょう。危険な場所から車を動かすことができず、近くに同乗者が安全に待機できる場所があれば、同乗者をその安全な場所に移動させましょう。
- それ以外の場合では、同乗者は車両内にとどまってもらいます。
- ハザードマップを点灯し、発炎筒、反射板のついた警告標識、懐中電灯などを必要に応じて使用します。これらのツールは車内に常備しておきましょう。
- 援助を申し出る人には注意が必要です。相手の意図が明らかになるまで、鍵をかけて車内にとどまりましょう。疑わしい場合は、警察に通報を頼みましょう。
- ボンネットを空けて、助けが必要であることを示します。また、同様に、ある場合にはラジオのアンテナかドアのハンドルに白い布をつけましょう。
- 車を離れなければならない場合には、鍵をかけ、可能な限り早く戻りましょう。
- 高速道路を歩かなければならないときは、車の流れに向かって歩き、車道からは十分な距離を空けましょう。高速道路を歩かず、車にとどまって助けを待ちましょう。



第11章

トラック、トレーラー、バス、オートバイ

道路や高速道路を運転するときには、普通乗用車やトラックよりもずっと大型の車両と道路を共有しなければなりません。こうしたトラック、セミトレーラー、トレーラー、大型バスの運転には、特殊な技術に加え、注意深さと他の道路利用者に対する配慮が必要です。あなた自身と他の道路利用者の安全を期するために、これらの大型車両が持つ制約についても知っておく必要があります。

大型車両の運転者

運転免許証

大型車両の運転者は、運転する車両のカテゴリーに合った有効な免許証を保持していなければなりません。全種類の免許についての情報は第1章「運転免許について」をご覧ください。

職業運転者

大型車両運転者のうち、ほとんど全員とっていいほど多くが、それらの車両の運転を職業としています。職業運転者は他の運転者よりも運転時間がかかるに多いので、道路上でもっとも技術、知識、経験値の高い運転者であるはずですが、職業運転者は、真のプロフェッショナルとして、適切で安全な運転の模範を示すべきです。また、職業運転者は、普通の運転者よりもずっと多くの時間、運転に伴う危険にさらされています。

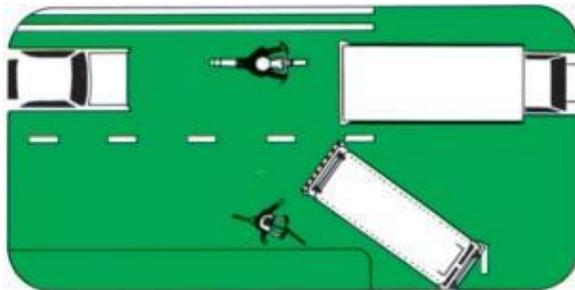
運転者の責任

大型車両が事故にかかると、その大きさと重量により、非常に大きな物的・人的被害が生じる可能性があります。これらの車両の運転者は、常に自分が運転する車両の制約と潜在的な力を意識し、他の道路利用者、同乗者、そして乗客と積荷に対して適切に配慮する責任を自覚していなければなりません。

大型車両の制約

視界

大型車両では運転者の席が他の車両よりも高い位置にあるため、一般に他の車両に比べて前方の視界は良くひらけています。しかし、車体の横や後方の視界はきわめて限られています。他の車はミラーでしか確認できず、車体のすぐ後方付近は、運転者からはまったく見ることはできません。



- 大型車両は横幅も全長も一般車両より長いため、右左折、車線変更、後退時には運転者はその大きさを考慮して操作しなければなりません。

- 道路を共有する他の車の運転者は、大型車両の運転者がそうした操作を安全に行えるよう、十分なスペースを空けなければなりません。

操作に必要なスペース

大型車両は、左右折の際に一般の車両よりも大きなスペースを必要とします。

- 大型車両の運転者は、右左折時または後退時に、他の道路利用者の妨げとならないよう、細心の注意を払わねばなりません。
- 大型車両の近くを走行する他の運転者や道路利用者は、大型車両の運転者から見える位置を保ち、さらに運転者が他の交通を確認できるよう、運転者の視界を遮らないようにすべきです。

停止距離

大型車両が停止するには、一般の車両よりも長い距離を必要とします。

- 大型車両の運転者は、停止するために十分な距離をみておかねばなりません。
- 他の運転者や道路利用者は、車線変更時や交差点において、大型車両が長い停止距離を必要とすることを考慮しなければなりません。

加速と敏捷さ

大型車両の加速はきわめて遅く、他の種類の車両のように敏捷に動くことはできません。

- 大型車両の運転者は、交通の流れの中で他の車両が自由に動けるよう、また、いくつもの車線をふさぐことのないように配慮する必要があります。
- 他の車の運転者は、大型車が制限速度よりも遅い速度で走行する場合もあることを念頭に入れ、接近や追い越しの際には注意を払わねばなりません。

下り坂の速度抑制

下り坂でブレーキを踏み続けると、ブレーキの不具合につながる場合があります。この状況は大型車両においてはさらに危険です。

- 大型車両の運転者は、低速ギアを適切に利用して、下り坂での速度を制御しなければなりません。ブレーキは車両を停止させるときのみに使用しましょう。
- 他の車両の運転者は、大型車両を追い越すときには注意し、進路を妨げないようにしましょう。

スリップストリーム

最高速度に近い速さで走行している大型車両は、より小さな車両を動かし、進行方向に影響するほど強い風を巻き起こすことがあります。より小さな車両の運転者が、最高速度に近い速さで走行している大型車両に接近または追い越しをするときには、適切なハンドル操作をする備えが必要です。

危険物

多くの大型車両は、人や環境にとって危険な物質を運んでいます。これらには、爆発性物質、引火性物質、放射性物質、毒性物質などが含まれます。これらの車両の運転者は、こうした物質が確実に梱包され、標示されていることに責任を有しています。また、万一事故が起きた際に適切な防護措置が取られるよう、運搬する物質の種類を車両に表示する責任を有します。

緊急用機器

ほとんどの大型車両は、消火器、発煙筒、緊急用反射板、救急用具などを装備するよう義務づけられています。これらの車両の運転者は、どのような機器の設置が義務づけられているかを知り、それらの使用方法と使うべきときを知っておかねばなりません。

けん引トレーラー

乗用車や小型トラックの運転者は、さまざまな種類のトレーラーをけん引することがあります。トレーラーをけん引するとき、特に大型のトレーラーをけん引するときには、一般の車両にも大型車両と同じ制約の多くが課せられます。

バックミラー

トレーラーが大きいと、ルームミラー越しに見る後方の視界をさえぎる場合は、車体の両側に適切な大きさのバックミラーを取り付けなければなりません。

ブレーキ

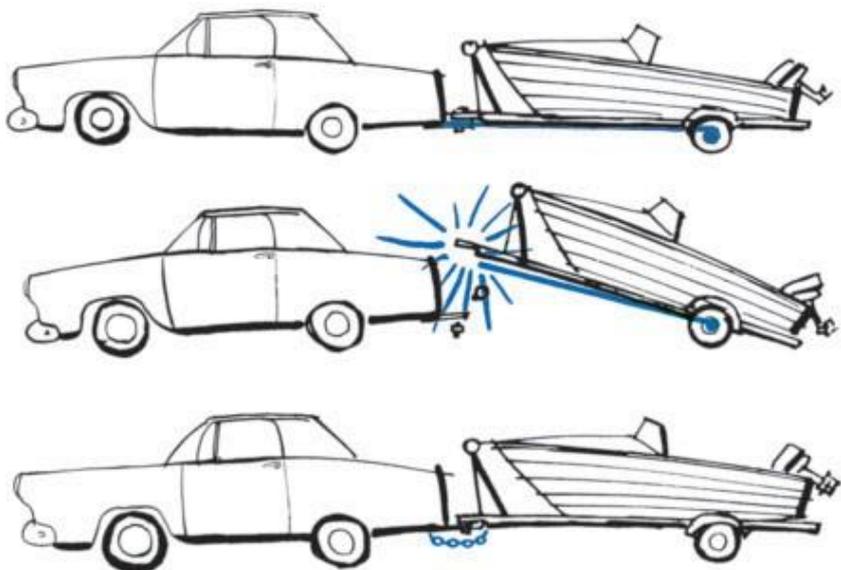
けん引するトレーラーが、けん引車両の半分以上の重量を持つ場合、または3,000ポンド（約1,360kg）以上の場合は、トレーラーにはブレーキと離脱防止装置を装備しなければなりません。

乗客

トレーラーには、人を乗せてはなりません。けん引中のハウストレーラーに乗ることは禁じられています。

安全チェーン

トレーラーには、安全チェーンが備えられています。安全チェーンは、けん引車とトレーラーのフレームに取り付け、トレーラーヒッチに接続してはいけません。

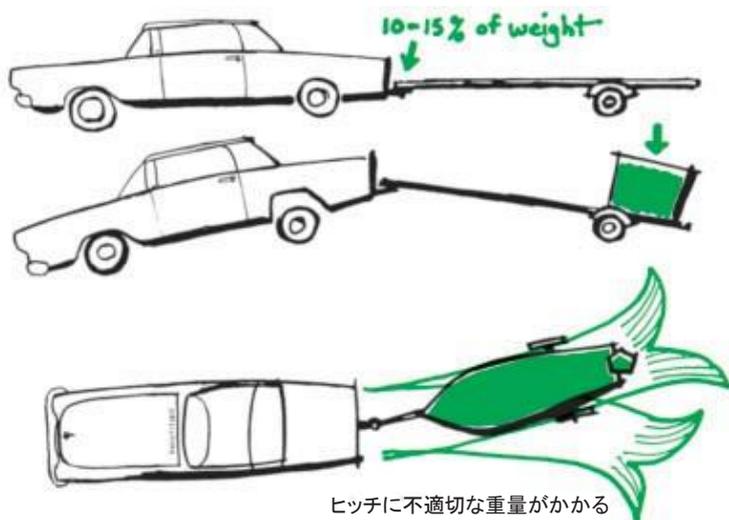


トレーラーヒッチ

けん引車が、けん引するトレーラーの大きさと種類に適合したトレーラーヒッチを備えていることを確認しましょう。大型のトレーラーには特殊なヒッチが必要です。どのようなトレーラーも、バンパーヒッチに頼ってけん引してはなりません。

トレーラーの積荷

トレーラーの積荷は適切なバランスに調整しましょう。トレーラーの重量の10パーセントから15パーセントが、トレーラーヒッチにかかります。重量が重すぎると、けん引車のハンドル操作が難しくなります。重量が軽すぎると、トレーラーが魚の尾のように左右に振れてしまいます。トレーラーには荷物を積みすぎないようにしましょう。



ヒッチに不適切な重量がかかる
と、トレーラーが魚の尾のように
横振れます。



トレーラーに荷を積みすぎな
いようにしましょう。

積荷はしっかり固定しましょう。

装備

トレーラーの装備を点検しましょう。

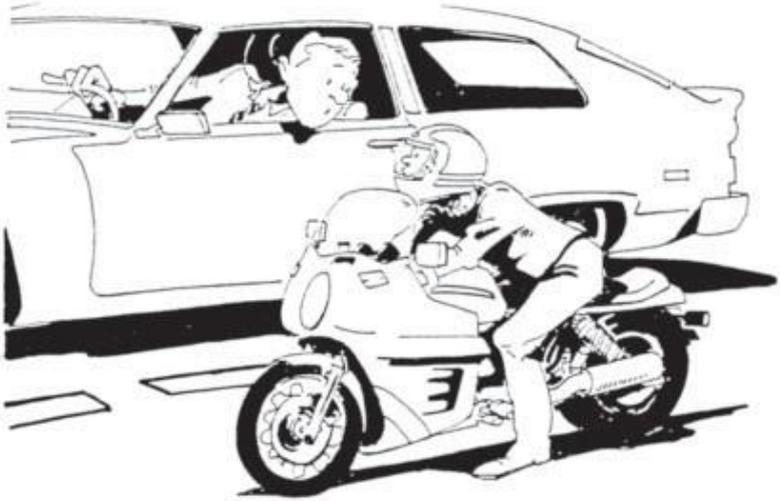
- 車輪は適切にマウントし、油をさし、フェンダーまたは泥除けでカバーします。
- 状態の良いタイヤに適切な空気圧を維持しましょう。
- テールランプ、ストップランプ、方向指示器、ナンバープレート、サイドマーカーランプ、反射板を装備しましょう。



オートバイと道路を共有する

オートバイに乗る人は増えているので、きっとあなたの友人や親戚、隣人にもオートバイ利用者があることでしょう。しかし、乗用車の運転者には、オートバイと道路を共有することに慣れていない人が多いようです。オートバイでの移動は、燃料費もあまりかからず、場所も取らず、とても楽しいものですから、多くの人に人気があります。一方でマイナス面もあります。オートバイの運転者は事故に遭った際に乗用車の運転者よりも負傷しやすいことです。調査によると、オートバイと乗用車の事故のうち3分の2以上が、乗用車の運転者がオートバイの前に割り込んだことにより起きています。オートバイと乗用車は、互いに危険を及ぼすことなく道路を共有しなければなりません。そのためにはオートバイについてより良く知り、オートバイの運転者の行動を理解する必要があります。

大きさ

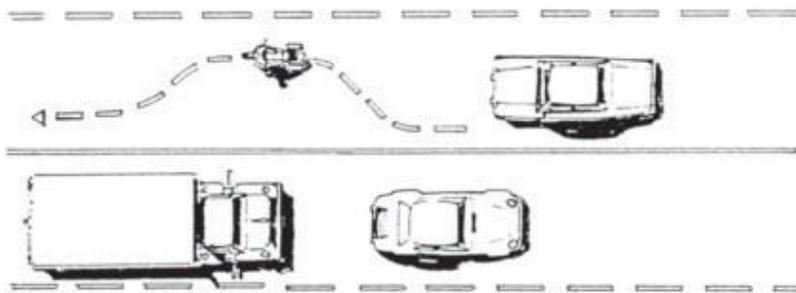


オートバイは細身で、車長も乗用車よりもずっと短いのが普通です。オートバイは外見が小さいため、実際よりもずっと遠くにいるように見え、また実際の速度よりも遅く見えることがあります。オートバイとの距離と速度を判断するのは難しいため、乗用車の運転者は、2度、3度と見直さなければなりません。また、サイズが小さいため、オートバイは交通の流れの中で他の車両よりも目立ちにくいものです。オートバイ運転者の中には、その小さなサイズを利用と機敏さを最大に活用しようとする人もいます。そうしたオートバイは、車の間を縫って走ったり、車の運転者から見えない死角に入ることもあります。オートバイが予期せぬ場所から現れることもあるので注意が必要です。



右左折を開始したり交差点に進入する前に、オートバイがいないかよく見て、オートバイの速度を確認しましょう。

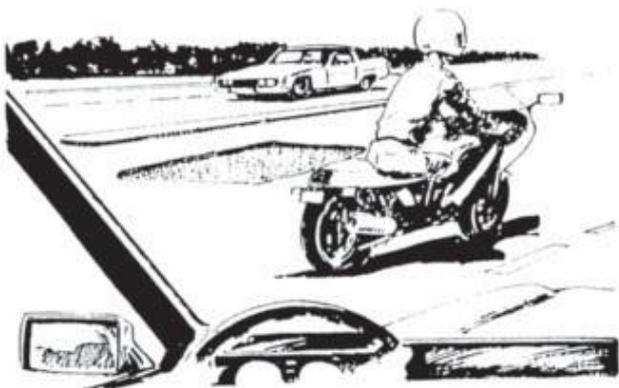
車線内の位置



オートバイは車体が小さいため、交通の状況に応じて車線内で位置を変えます。オートバイの運転者は、車線内で他の車から見える位置、また他の車が見える位置へと移動します。車線内の左側に寄って走行することにより、他の車や道路状況がよく見えるようになります。車線の左側に寄っていると、オートバイも他の車から見えやすくなります。しかし、交通の状況によっては、オートバイは車線内を移動します。車線の中央、

または右側を走行して渋滞を避けたり、他の車から自分が見えるようにすることがあります。

多くの場合、乗用車の運転者は、路面の穴や線路など、ちょっとした障害物を車が乗り越えるのは当然だと考えています。四輪車にとってはごく小さな問題も、オートバイにとっては大問題になることがあります。オートバイの運転者は、道路のそういった潜在的な危険を避けるため、車線内で



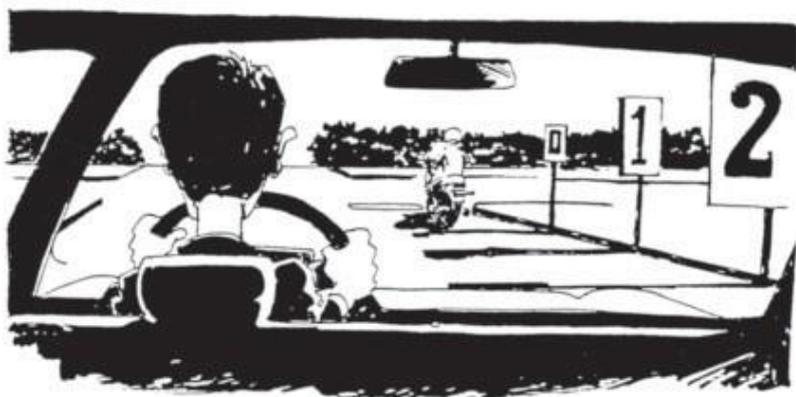
位置を変えます。こうした横への移動は、ときに唐突に起きることがあります。乗用車の運転者は、オートバイが位置や方向を変える急な動きに注意して走行する必要があります。オートバイとの車間距離と、交通の中での位置を尊重しましょう。オートバイの運転者は、走行中の車線の幅全体を使うことが認められています。同じ車線内でオートバイと並走するのは避けましょう。オートバイの運転者が危険な路面状況を避けることができなくなってしまうます。

交差点



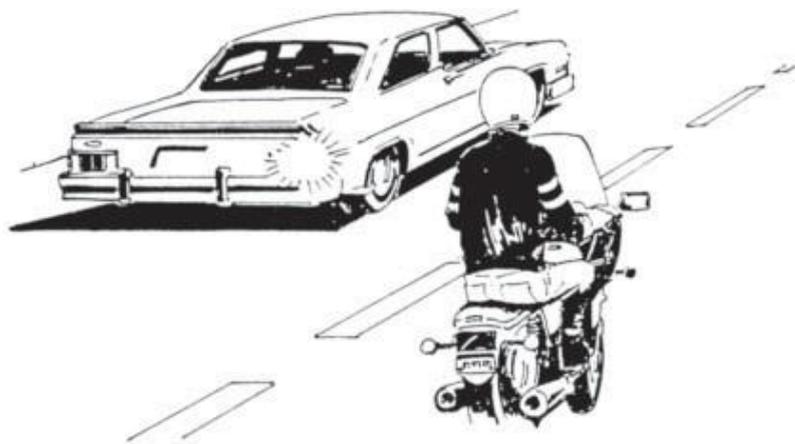
乗用車とオートバイの事故が最も起きやすいのは交差点内です。前述のように、乗用車の運転者がオートバイを見ずにオートバイの進路に進入することにより起こる事故がほとんどです。オートバイ運転者の意図を読み間違えることも、問題につながります。オートバイ運転者は、進行方向の交通状況に備えるため、車線内での位置を変えます。右折または左折のため、または路面の危険な状況を避けるため、車線の一方から反対側へと移動することがあります。オートバイ運転者が交差点や脇道への右左折などを間違いなく開始するまで、運転者の意図を推測するのは避けましょう。また、オートバイの方向指示器は曲がっても自動的に消えないため、ときに運転者がシグナルを消し忘れることがあります。オートバイの進路に進入する前に、オートバイ運転者が何をしようとしているかはっきり確認しましょう。

車間距離



オートバイの後ろを走るときは、少なくとも2秒分の車間距離を空けましょう。これにより、オートバイが緊急に必要な動作や停止をするだけの余裕が生まれます。オートバイ運転者は無防備である上、乗用車の運転者からは速度と距離が判断しづらいため、オートバイとの車間距離は多めに空けて、急ブレーキを踏む状況避けましょう。オートバイの運転者も乗用車の運転者も、停止するために十分な距離がなかったり、よく見て状況に反応することができないと、間違った判断をしまいがちで、事故につながります。前方の障害物を避けなければならなかったり、乗用車が近すぎる距離で追尾していると、オートバイの運転者が負傷する確率が高くなります。

追い越し



乗用車が他の車を追い越すときのルールは、オートバイの追い越しと似ています。オートバイが追い越そうとしているとき、乗用車はそれまでと同じ速度を保って車線にとどまるようにします。オートバイが可能な限り早く追い越しを終え、走行車線の適切な位置に戻るのを待ちましょう。オートバイを追い越すときは、車線の幅全体をオートバイが使えるようにしてください。決して同じ車線に割り込んではいけません。元の車線に早く戻りすぎると、オートバイの進路を邪魔して、オートバイが他の車の前や道路の外へ飛び出してしまうことになります。

オートバイの免許

オートバイの運転は乗用車とは異なり、特別な知識と技術を必要とします。オートバイにも特別な運転免許証が必要なのは当然といえるでしょう。ほとんどの州では、オートバイの運転免許用に、乗用車とは別の学科と実技試験を実施しています。学科と実技試験に合格すると、オートバイの運転が許可されます。また、オートバイも登録し、乗用車と同様の基準で保険をかけなければなりません。

つまり、オートバイも交通を共有する対等なパートナーであり、乗用車と同等の配慮をもって扱わなければならないのです。オートバイの意外な動作に注意し、道路を共有しましょう。オートバイの運転者は、もしかしたらすぐ隣りに住む人かもしれません。

第12章

歩行者の安全

調査結果の概要

- ・ ハワイで起きる死亡事故の犠牲者のうち、20パーセントが歩行者です。
- ・ それらの死亡者はほとんどが運転をしない人たちです。
- ・ 死亡者の約半数は、15歳未満または66歳以上です。
- ・ 死亡事故の90パーセント近くは道路上で、50パーセント以上は道路の横断中に起きています。
- ・ 道路外での事故は約10パーセントにすぎません。

上記の数字を見ても、道路で主導権を持つのは車両であることが明らかです。道路を渡る歩行者は、車から身体を守る手段を何一つ持っていません。歩行者の安全は、100パーセントが運転者の注意と行動にかかっているのです。

上記のデータは、また、子どもとお年寄りが事故に遭いやすいことも示しています。子どもは敏捷で視力も良い反面、交通をよく理解しておらず、車の危険性と破壊的な力を過小評価しがちです。お年寄りはしばしば、視力が弱く、反応速度も遅く、敏捷に動くことができないために負傷したり死亡事故に遭いやすくなっています。

あなたがこのような歩行者事故を起こす確率をゼロにする、または減らすために、**運転時にも歩行時にも**、以下のルールに従うことを習慣にしてください。

運転者としての責任

- ・ 横断歩道または道路を歩いている人が見えたとき、または道路の近くで遊んでいる子どもたちを見たときは常に減速し、停止する準備をしましょう。必要に応じ警笛を鳴らして道路上の歩行者に注意を呼びかけます。（これは法律で定められています）。
- ・ 道路上に目の見えない人（白い杖または盲導犬を伴っている人）がいたら、信号や交通状況にかかわらず、常に停止します。
- ・ 歩行者用の安全地帯には決して進入してはいけません。（法律で禁じられています）。
- ・ 歩行者を渡らせるために停止している車を追い越してはいけません。（法律で禁じられています）。
- ・ 学校、公園、児童遊園の周辺と住宅地区では、特に子どもたちに注意しましょう。通学路の横断歩道で安全確保をしている擁護員が「止まれ」の合図をしたら停止します。
- ・ 交差点の右左折時と脇道からの進入・退出時には歩行者の有無を確認しましょう。（これは法律で定められています）。
- ・ あなたや同乗者が車から降りる前に、接近する車がないか確認しましょう。可能な限り、車の流れに面した方ではなく路肩側から降車しましょう。

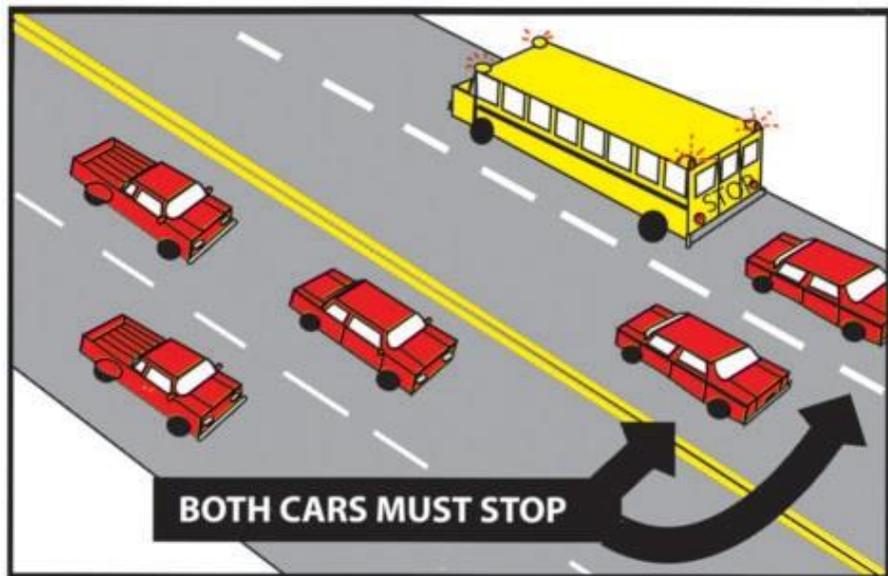
歩行者としての責任

- ・ 道路は横断歩道のある箇所でのみ渡りましょう。定められた箇所以外を渡る「ジェイウォーキング」は法律で禁止されています。
- ・ すべての交通法規と信号を守りましょう。（法律で定められています）。
- ・ 道路上を歩くときは、常に車に注意しましょう。道路に引かれているラインや信号は、安全を確実に保障するものではありません。
- ・ しばらく点灯していた青信号では渡りはじめず、次の青信号を待ちましょう。

- 車が接近しているときには決して道路や横断歩道に入ってははいけません。車は急停止することができないこともあります。（法律で禁じられています）。
- 道路を渡る前には、右左折してくる車がないか注意しましょう。
- 道路沿いを走ったり、道路を走って渡ってはなりません。
- 車の流れに向かって道路の左側を歩きましょう。
- 何かを訴求するなどの目的で、また車を守ったり駐車スペースを確保するために、車道の上を歩いたり、立ったりしてはなりません。（法律で禁じられています）。
- 道路の上または道路に沿って歩くときは、明るい色の服を着用しましょう。
- アルコールや薬物の影響下にあるときは、道路の近くを歩いてはいけません。
- 子どもたちが決して道路で遊ばないように気をつけましょう。

スクールバスのために停止する

スクールバスが自動車道で停止し、赤色のシグナルランプを点滅させているときは、スクールバスと同じ車線とそれに隣接するすべての車線の運転者は、スクールバスの手前で停止し、スクールバスが再び動き出すか、赤色のランプの点滅が消えるまで、停止し続けなければなりません。



しかし、中央分離帯で区切られた自動車道の反対車線を走行する車両は停止する必要がありません。中央分離帯のある自動車道とは、緑地帯その他の自動車の通行を目的としないスペースにより隔てられた2つの道路を指します。

スクールバスの運行時間に運転する運転者は、常に注意が必要です。朝、道路の脇で学童たちが待っていれば、その区域にスクールバスが来ることがわかります。バスを待つ子どもたちが道路に飛び出してくる可能性もあります。

第13章 自転車

運転者

道路や自動車道がますます混雑してくるにつれ、道路を自転車と共有することがより重要になっています。自転車は法律上「車両」とみなされ、他の種類の車両が有するすべての権利と責任を有します。しかし、自転車はしばしば他の車両よりも見えにくいいため、運転者は特別に注意を払う必要があります。また、自転車は思わぬ動作をすることもあり、他の交通と共に走行するための知識や技術が欠けていることもあります。自転車に乗る人の間でも、その技術には大きな開きがあります。運転者は以下に注意しなければなりません。

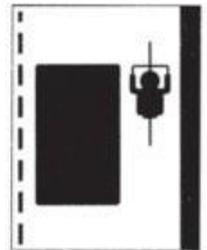
- 車道に進入する自転車。自転車は可能な限り道路の右端近くを走行するよう定められていますが、例外として車道に進入することもあります。左折の準備、他の自転車の追い越し、または路面の障害物を避けるなどがその理由です。一方通行の道路では、自転車は左側を走行することが許可されています。
- 反対方向に走行している自転車。車の流れと反対方向に走行するのは法律で禁じられていますが、経験の浅い自転車利用者の多くは逆走することがあります。自転車と車両の間で起こる事故の25パーセントはこのために生じています。運転者は、特に右左折のときには逆走している自転車に気をつけましょう。
- 自転車を追い抜くときには注意を。安全に追い抜くためには、自転車と車体の間に少なくとも3フィート（約90cm）の距離を空ければなりません。また、自転車の速度は思っているよりも速いことがあります。自転車を追い抜いた後でただちに減速して元の車線に戻ったために、自転車の走行に必要なスペースがなくなるという理由で非常に多くの事故が起きています。
- 自転車専用レーンを妨げてはいけません。特に交差点で右折するときには注意しましょう。自転車専用レーンを越えるときには、自転車に注意し、道を譲りましょう。すぐに右折する予定なら、そのすぐ手前で自転車を追越さないようにしましょう。視界に自転車がいないと思っても、右折するときには必ず自転車が後から来ていないかどうか確認する習慣をつけましょう。
- 車のドアを開ける前に周囲を確認しましょう。突然ドアを開けて、自転車を含む交通に障害を生じさせることは、交通法規違反となります。
- 自転車には「アロハ」精神で接しましょう。自転車が1台増えれば車が1台減ることになります。排出ガスも大幅に減り、あなたの目的地での駐車スペースに余裕ができるかもしれません。

自転車

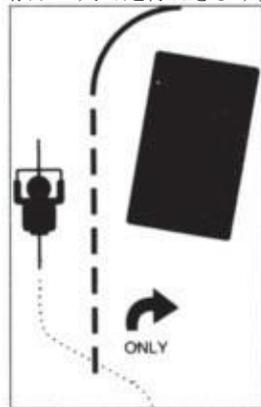
車の運転者と同様、自転車利用者もすべての交通標識、信号、その他の交通法規に従わねばなりません。道路マナーを守る姿勢は自転車利用者全体に敬意を集めることにもつながります。自転車利用者は以下にも注意しましょう。

交通法規

- 短い距離であっても、常に同じ方向の交通と共に走行しましょう。車の運転者は、逆走してくる速度の速い自転車に注意を払っていません。右折時には運転者も自転車利用者も左側からの交通に気を取られるあまり、右側にいる歩行者を確認するのを忘れることがあります。



- 交通の流れよりも遅い速度で走行するときは、可能な限り道路の右端に寄りましょう。一方通行の道路では、左側を走行することが認められています。
- 左折時、道路上の障害物を避けるとき、他の車両と同じ速度で走行するとき、または自転車と車両が同じ車線を共有するには狭すぎるときには、自転車は自動車走行用の車線に移動して走行できます。
- 道路では、自転車は一列で走行しなければなりません。自転車専用レーンまたは自転車道では、広さが充分にあり他の交通の妨げにならない限り二列で走行できます。
- すべての交通標識と信号を守りましょう。交通違反をした自転車は、車の運転者と同様の罰則を科されます。
- 車線の標示に従いましょう。直進する場合は右折専用車線から出ましょう。
- 夜間に自転車に乗る場合は、ヘッドライトと後輪の反射板を装備しなければなりません。後方のライトとペダル反射板、明るい色の着衣も推奨されます。
- 自転車に専用の装備がない限り、二人乗りをしてはいけません。
- ビジネス地区では、自転車による歩道の走行は禁じられています。その他の地区では歩道を走行できますが、時速10マイル（16km）以内を保ち、歩行者を常に優先しなければなりません。



安全のヒント

- 常に自転車用ヘルメットを着用しましょう。ヘルメット着用は法律上定められてはいませんが、良い習慣です。それほど速度が出ていなくても、また近距離の移動でも、深刻な頭部損傷の危険があります。
- 予期できない動作をしないようにしましょう。駐車している車の前後から車線に急に飛び出すなど、車の運転者を驚かせるような動作は避けましょう。
- 左折したり自動車用車線に進入する前には後方を確認し、接近する車がないことを確かめます。右左折や停止などの意図を手信号で運転者に知らせましょう。
- 駐車車両のすぐそばを走行しないようにしましょう。突然ドアが開いても衝突しないよう、少なくとも3フィート（約90cm）のスペースを取りましょう。また、脇道から道路へ出てくる車にも注意しましょう。
- 走行中にヘッドフォンを着用してはいけません。周囲の交通状況に対処できるように耳を傾け、注意を注がなければなりません。道路の穴や舗装の裂け目、滑りやすい路面にも注意しましょう。
- 自転車を点検し、安全を期しましょう。自転車に乗る前には、ブレーキの効き、サドルとハンドルに緩みがないか、タイヤの空気圧と状態を確認しましょう。
- 車から見えやすくする工夫自転車に乗るときは明るい色の服を着用しましょう。たとえ目が合っても、車の運転者があなたを見たときと決めてかかっはけません。車の運転者から動作を引き出し、あなたの姿を見ていることを確認しましょう。
- 最適な方法で左折しましょう。経験を積んだ自転車利用者は、車両と同様に左折します。シグナルを出し、安全なときに左折車線の中央に寄り、左折を完了します。それほど経験がない人は、歩行者と同じ方法で渡ります。横断歩道まで乗っていき、自転車を押して横断歩道を渡り、そこからまた自転車に乗ります。
- 右側から車両を追い越してはいけません。運転者は右側から自転車が接近することを予期していません。交差点などで停止したときには、車線の自分の位置にとどまるほうが安全で、マナーにもかかっています。

標準運転免許試験問題

標準運転免許試験問題

- Ref.
Pg.
- 17
1. 運転免許の路上試験を受けるときには、
1. 自分で車両を用意しなければならない。
 2. 用意する車両は、安全に運行できる状態で、不具合があってはならない。
 3. 試験会場までは運転免許を有する人に同行してもらわなければならない。
 4. 上記すべて正しい。
- 20
2. 住所を変更したときは、郡の運転免許担当部署に
1. 書面で30日以内に通知する。
 2. 書面で10日以内に通知する。
 3. 10日以内に直接出向いて通知する。
 4. 電話で30日以内に通知する。
- 22
3. 氏名に変更があった場合は、郡の運転免許担当部署に直接出向き、
1. 60日以内に通知する。
 2. 20日以内に通知する。
 3. 10日以内に通知する。
 4. 30日以内に通知する。
- 22
4. 公道や自動車道を走行するときは、必ず
1. 求めに応じて免許証を提示しなければならない。
 2. 免許証を常に携帯しなければならない。
 3. 有効な免許証を有していなければならない。
 4. 上記すべて正しい。
- 17
5. 免許証の有効期限が過ぎた後は、
1. 90日間の猶予期間中は運転できる。
 2. 運転免許証を所持する人が同乗していれば運転できる。
 3. 運転はできないが、有効期限後1年間は通常の手続きに従って免許証を更新できる。
 4. 通勤時のみ運転できる。
- 25
6. 以下の場合、車両のヘッドライトはすべて正常に動作し、適切に調整されていなければならない。
1. 街なかで運転するとき。
 2. 常時。
 3. 高速道路を走行するとき。
 4. 他の車に接近するとき。
- 23
7. 以下のうち、個人用の車両に装備しても良いものはどれか。
1. 車両前面から見える赤色灯、または車外から見える青色灯。
 2. ベル、ホイッスルマフラー、サイレン。
 3. 郊外の道路でのみ、マフラーのカットアウトやバイパスが可。
 4. 上記のいずれも不正解。

- 24 8. 車両保安検査証の写しは
1. 車両内に保管しなければならない。
 2. 州の所得税申告の際にファイルする。
 3. 自宅の安全な場所に保管する。
 4. 郡の財務局から送付される。
- 24 9. 車両の状態に責任を持つのは
1. 法律上の所有者。
 2. 修理工。
 3. 車両の運転者と、登録されている法律上の所有者。
 4. 保険会社。
- 23 10. 排気系から漏れがあると、次の理由で危険である。
1. 耳が聞こえなくなる。
 2. 排気ガスの排出。
 3. 一酸化炭素中毒。
 4. エンジンの性能が下がる。
- 24 11. 車両登録を管轄する機関は
1. 郡の警察署。
 2. 郡の公共事業局。
 3. ハワイ州交通局。
 4. その他の郡の部署。
- 24 12. 登録されている車両の所有者が、登録証に記載されている住所から別の住所に移転したときは
1. 免許証の更新の際に郡の財務局に届け出る。
 2. 30日以内に郡の財務局に届け出る。
 3. 車を売るか下取りに出すときにのみ届け出が必要。
 4. 何もしなくてよい。
- 27 13. 運転をする上でもっとも重要な要素は
1. 車両。
 2. 道路状況（自動車道と交通状況）。
 3. 運転者（自分）。
 4. 1日の中での時間帯。
- 27 14. 終業直前に上司から小言を言われ、言い返さなかったが、不当な扱いだと思い、腹が立って仕方がないようなとき、車に乗ってからするべきなのは
1. そのことを考えずに済むようラジオを大音量でかける。
 2. 高速道路でスピードを上げて、ストレスを解消する。
 3. 運転を開始する前に数分間頭を冷やす。
 4. お気に入りのバーに寄って、数杯飲んでから帰宅する。

28

15. 運転中、他の運転者から車の性能や運転の腕を披露するように求める挑戦を受けたとき、取るべき行動は：
1. 競争したり能力を誇示したいという願望に抵抗する。
 2. あなたの能力やあなたの車の性能に対するあらゆる挑戦を拒絶する。
 3. 安全にレースに勝てることだけが確実なときだけ挑戦を受ける。
 4. 1と2の両方。

28

16. 健康状態により危険な運転を招かないよう、以下に気をつけるべきである。
1. 健康を保ち、定期的に健康診断を受ける。
 2. 服用している薬が運転能力に及ぼす影響について認識しておく。
 3. 自分の身体的能力の範囲内で運転する。
 4. 上記すべて正しい。

29

17. 赤信号が点灯しているが、交通整理をしている警官に進むように指示された場合は、
1. 一旦停止してから進む。
 2. 青信号を待つ。
 3. 指示された通りに入る。
 4. 右折する。

27

18. 以下のうち、運転にもっとも影響を及ぼすのはどれか。
1. 身長。
 2. 年齢。
 3. 運転に対する態度。
 4. 反応速度。

29

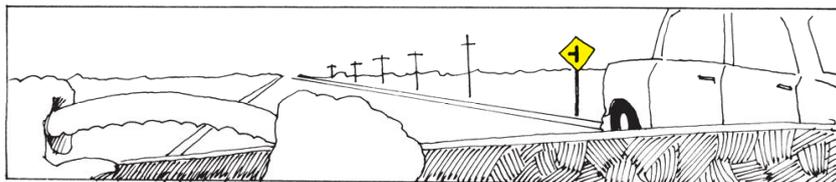
19. 交通標識と道路標示には
1. 常に従わねばならない。
 2. ガイドとしてのみ使用する。
 3. 道路に他の車がいるときのみ従う。
 4. 近くに警官がいるときのみ従う。

29

20. 細い道路を運転していて対向車が来たとき取るべき行動は以下のどれか。
1. 道路から完全に出て停止する。
 2. 対向車に道路の車両走行用の部分の少なくとも半分を空ける。
 3. 通行できるように対向車に路肩に寄ってもらう。
 4. ヘッドライトを点灯して、相手から自分が見えるようにする。

29

21. 車を追い越しているときに下記の標識が見えた場合、取るべき行動は以下のどれか。
1. 速度を上げ、できるだけ早く追い越しを終える。
 2. 右側から追い越す。
 3. 元の車線に戻り、合流地点を過ぎてから安全に追越す。
 4. 合流地点を過ぎるまで、追い越す車と並んで走る。

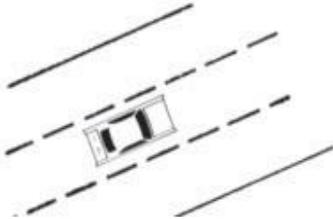


22. 2車線の道路で、左の図の低速車の後ろを走行しているときに取るべき行動は以下のどれか。
1. 車両を追い越さない。
 2. 他の車が来なければ左から追い越せる。
 3. 舗装された路肩を使って右から追い越せる。
 4. 上記のいずれも不正解。



70

23. 一方通行の道路を走行しているとき、下記の図の車両を追い越せるのは



1. 左の車線からのみ。
2. 右の車線からのみ。
3. 左右どちらの車線からでも追い越せる。
4. 追い越しには常に一番左の車線を使わねばならない。

32

24. 右左折または車線変更をする際には
1. 周囲に他の車が見えなくても、常にシグナルで意図を示す。
 2. 車がいるときのみシグナルを出す。
 3. 夜間のみシグナルを出す。
 4. 夜間で周囲に車がいるときのみシグナルを出す。

32

25. 踏切のシグナルが点滅しているとき、取るべき行動は以下のどれか。
1. 停止して列車の接近を確認する。
 2. 減速して列車の接近を確認する。
 3. 列車の接近を確認して速度を上げる。
 4. 対向車と同じ行動を取る。

32

26. 車両は、以下の速度を超える速度で走行してはならない。
1. 標示されている最大制限速度。
 2. 慎重な判断に基づき適切と思われる以上の速度。
 3. 道路の状況に対して安全な速度。
 4. 上記すべて正しい。

33

27. 車両を離れる時には、以下を行う必要がある。
1. エンジンを切る。
 2. イグニッションスイッチをロックの位置にしてキーを抜き取る。
 3. パーキングブレーキをかける。
 4. 上記すべて正しい。

33

28. 道路を走行中にサイレンが聞こえたとき、取るべき行動は以下のどれか。
1. 停止する。
 2. 右側に寄って停止する。
 3. 速度を上げて、進路を空ける。
 4. 減速する。

Ref.
Pg.
31

29. 道路を運転していると、緊急車両がサイレンを鳴らし、点滅灯をつけてすぐ後ろに接近してきた。道路は渋滞で、すぐに道を空けられない。このような場合に取りべき行動は以下のどれか。
1. 停止する。
 2. 警笛を鳴らす。
 3. 無理にでも隣りの車線に割り込む。
 4. 道が空けられるまで、ゆっくりと車を動かす。

32
&
33

30. 追い越しをしても良い場所は
1. カーブの途中や坂の途中。他の車が来る可能性が低いから。
 2. 自動車道の路肩。
 3. センターラインが黄色の実線で、前方の見通しが良い箇所。
 4. 上記のいずれも不可。

33

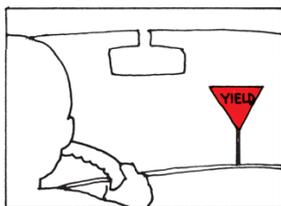
31. 中央分離帯のない道路で同じ車線または反対車線にいるスクールバスは
1. 決して追い越してはいけない。
 2. スクールバスの赤いランプが点滅しているときは追い越してもよい。
 3. スクールバスの赤いランプが点滅しているときは追い越してはならない。
 4. 低速であればいつでも追い越せる。

34

32. 標識も信号もない交差点へ、他の車と同時に進入したときに取りべき行動は以下のどれか。
1. 速度を上げて交差点を通り抜ける。
 2. 減速して右側の車両に道を譲る。
 3. 交差点に進入し、他の車両に停止してもらう。
 4. 警笛を鳴らして交差点を通過する。

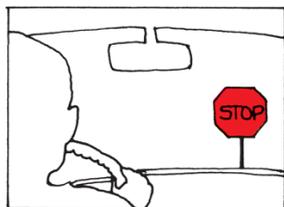
34

33. 以下の図に示す交差点に進入するときに取りべき行動は以下のどれか。
1. 停止する。
 2. 減速し、必要なら停止し、交差点にいる他のすべての車に先に行ってもらおう。
 3. 加速し、交差点を渡る。
 4. 標識は他の車に向けられているので、そのまま進む。



34

34. 以下の図に示す交差点に進入するときに取りべき行動は以下のどれか。
1. 減速して他の車に注意する。
 2. 完全に停止して、交差するすべての車を先に行かせる。
 3. 接近する車があるときのみ停止する。
 4. 左折する場合のみ停止する。



35. 交差点に接近中、自分の進行方向は青信号に変わったが、歩行者が赤信号を無視して渡っているとき、取るべき行動は以下のどれか。
1. 警笛を鳴らす。
 2. 加速して歩行者の前を通過する。
 3. 歩行者が安全に渡れるように停止する。
 4. 歩行者が今後、赤信号を無視して渡る前に考え直すように、歩行者のすぐ近くを走行して脅かす。
- 34 36. 脇道から道路に進入するときには
1. ゆっくり進入して、接近している他の車両や歩行者が避けられるようにする。
 2. 接近している他の車両や歩行者に警笛を鳴らして、入れるスペースを空けてもらう。
 3. 停止して、接近中の他の車両や歩行者がいないときのみ進入する。
 4. 歩道がなければ、歩行者は無視してよい。
- 34 37. 自分の車と他の車が標識も信号もない交差点に接近しているとき、優先権を持つのは
1. 左側の車両。
 2. 右側の車両。
 3. 速度の速い方の車両。
 4. 先に交差点に進入した車両。
- 34 38. 交差点で左折するとき、または脇道に左折で進入するときは
1. 他の車両が通行できるよう、右側を空けねばならない。
 2. 近くまで接近している対向車に道を譲らねばならない。
 3. 黄色の実線を越えてはならない。
 4. 後方から来る車両の進行を妨げてはならない。
- 46 39. 一時停止標識で他の車両の後ろで停止していて、交差点内に車がなくなったときには
1. 一時停止せずに交差点を通過してよい。
 2. 一時停止の標識または停止線で停止しなければならない。
 3. 他の交通がなければ、停止せずに徐行して交差点を通過できる。
 4. 先行車に続いて、再度停止せずに進んでよい。
- 31 40. 中央分離帯のある複数車線の自動車道を走行中、接近してくる緊急車両を見たり、警告音を聞いたときに取るべき行動は以下のどれか。
1. 緊急車両が使える他の車線が空いている場合は、無視してよい。
 2. 可能な限りただちに停止する。
 3. 減速し、緊急車両が通れるように十分なスペースを空けてから停止する。
 4. 加速し、緊急車両が通れるように十分なスペースを空ける。

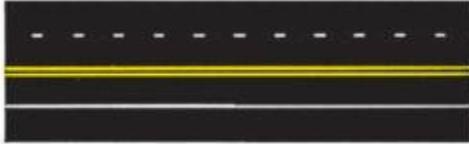
41. 2車線の道路または自動車道で、反対方向から緊急車両を示す警告灯をつけた車両が接近しているときに取るべき行動は以下のどれか。
1. 可能な限りただちに停止する。
 2. 減速し、できる限り右に寄って停止する。
 3. 緊急車両は反対方向に進行しているので無視してよい。
 4. 上記のいずれも不正解。
- 31 42. 2車線の道路で、緊急の警告灯をつけていない消防車が後方から接近している場合に取りべき行動は以下のどれか。
1. 平常通りに走行する。
 2. 可能な限りただちに停止する。
 3. 速度を上げて、進路を空ける。
 4. 減速し、できる限り右に寄って停止する。
- 35 43. 自動車道の標識や標示の中で、その標示内容に必ず従わねばならないのは次のうちどれか。
1. 規制標識。 3. 情報標識。
 2. 警戒標識。 4. 案内標識。
- 35 44. 自動車道の標識や標示の中で、警戒すべき状況についての情報を提供するの次のもどれか。
1. 規制標識。 3. 情報標識。
 2. 警戒標識。 4. 案内標識。
- 35 45. 黄色の破線で区切られた2車線の道路について、正しいのは以下のどれか。
1. 両側通行の道路である。 2. 一方通行の道路である。
 3. 補修中の道路である。
 4. 黄色の破線の左側を通行しなければならない。
- 35 46. 黄色の二重実線で区切られた自動車道を走行するとき、この二重実線は
1. 左折して脇道やドライブウェイへ入るとき、または脇道やドライブウェイから道路に進入するときのみ越えてもよい。
 2. 対向車がないときのみ、越えて追い越しをしてもよい。
 3. 決して越えてはならない。
 4. Uターンをするときのみ越えてもよい。
- 29 & 35 47. 下図の場面で走行中、他の車を追い越し始めていた場合に取りべき行動は以下のどれか。
1. 加速して、できる限り速く追い越す。
 2. 急ブレーキを踏む。
 3. 減速し、右車線の他の車の後ろに入る。
 4. 合流地点を過ぎるまで、左車線にとどまる。



48. 中央分離帯のある4車線の自動車道について、正しいのは以下のどれか。
1. 白線は、同じ方向に進行する車線を区切る。
 2. 白線は、反対方向に進行する車線を区切る。
 3. 黄色の線は、同じ方向に進行する車線を区切る。
 4. 上記のいずれも不正解。

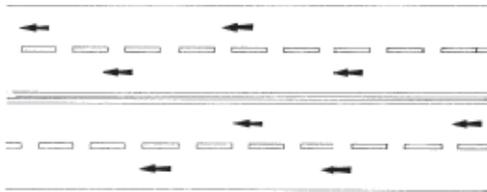
36

49. 中央分離帯のある4車線の自動車道の車線が白色の実線で区切られている場合、正しいのは以下のどれか。
1. 白色の実線は決して越えてはならない。
 2. 白色の実線はいつでも越えることができる。
 3. 白色の実線は、特殊な場合のみ、細心の注意を払って越えることができる。
 4. 白色の実線は反対方向に進行する車線を区切る。



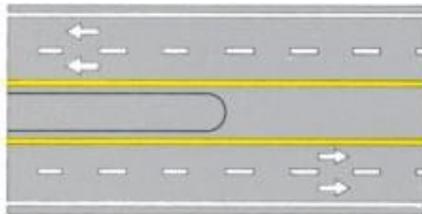
37

50. 4車線の自動車道で白色の二重実線は
1. 越えてはならない。
 2. 細心の注意を払って越えてもよい。
 3. 反対方向に進行する車線を区切る。
 4. 自動車道で使われることはない。



37

51. 車道外側線は、__または__の実線で、自動車用車線の端を示し、安全を期するために設けられている。
1. 黄色または白色。
 2. 赤色または白色。
 3. オレンジ色または白色。
 4. 緑色、または白色。



Ref.
Pg.
38

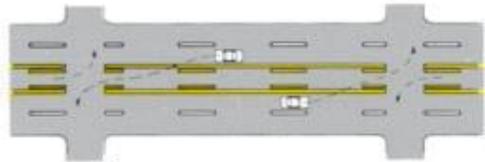
52. 停止線は白色の実線で、以下の地点の手前で車線を横断して引かれ、車両が停止すべき地点を明確に示す。
1. カーブや坂。
 2. 教会や学校。
 3. 交差点や横断歩道。
 4. 高速道路の入り口と消防署。

38

53. 横断歩道は、2本の白色の実線で車線を横断して引かれている。運転者は以下を理解しなければならない。
1. これらの横断歩道では、車両は歩行者よりも優先される。
 2. 歩行者が横断歩道にいるときは、車ではなく歩行者が優先権を持つ。
 3. 横断歩道では誰にも優先権はない。
 4. 歩行者は他のあらゆる交通を妨げないようにする責任を持つ。

38

54. 複数の車線がある自動車道で、下図に示すようにセンターラインが黄色の実線と黄色の破線の組み合わせであった場合、正しいのは以下のどれか。
1. この車線は追い越し専用である。
 2. この車線は双方向からの左折のためだけに使われる。
 3. この車線は歩行者の安全地帯である。
 4. この車線はトラックとバス専用である。



39

55. され、道路の中にある障害物を避けて進行するよう誘導するものである。運転者は以下を理解しなければならない。
1. 白色の障害物標示は、右左どちら側も通過できる。
 2. 黄色の障害物標示は右左どちら側も通過できる。
 3. 1と2の両方。
 4. 上記のいずれも不正解。

39

56. 下図の標示が意味するのは以下のどれか。
1. どちらの車線の車両も直進または右折ができる。
 2. 左車線の車両は直進しなければならず、右車線の車両は直進または右折ができる。
 3. これらの標示は勧告目的で規制ではない。
 4. 左車線の車両は直進または左折でき、右車線の車両は右折しなければならない。



57. 赤信号が点灯しているときには
1. 停止線で停止する。
 2. 停止線がない場合、横断歩道の手前で停止する。
 3. 停止線も横断歩道もない場合は交差点の手前で停止する。
 4. 上記すべて正しい。

41

58. 標識で禁じられている場合を除き、赤信号で停止した車両が右折できるのは以下のうちの場合か。
1. 他の交通と歩行者を優先させた後、右折できる。
 2. 赤信号での右折は違反である。
 3. いつでも右折できる。
 4. 警笛を鳴らした後にのみ右折できる。

41

59. 標識で禁じられている場合を除き、赤信号で停止した車両が左折できるのは以下のうちの場合か。
1. 他の交通や歩行者がいなるとき。
 2. 決して左折はできない。
 3. ハワイ州では赤信号では右折のみ許可されている。
 4. 他の交通や歩行者を優先させた後、一方通行の道路から他の一方通行の道路へ左折で進入する場合のみ左折可能。

41

60. 点滅していない黄色の交通信号が意味するのは以下のどれか。
1. 加速して、信号が変わる前に交差点を通過するべきであることを示す。
 2. すぐに赤信号に変わることを示す。
 3. 避けられる場合は、交差点に進入すべきでないことを示す。
 4. 2と3の両方。

42

61. 丸型の青信号が意味するのは以下のどれか。
1. その信号に面している交通に常に優先権があることを示す。
 2. 標識で禁じられている場合を除き、直進または左右折ができることを示す。
 3. 既に交差点にいる他の車両や歩行者は、進入する車両に道を譲らねばならないことを示す。
 4. 2と3の両方。

42

62. 矢印式信号は、特定の車線からの右左折を制御するためにしばしば使用される。赤い矢印は
1. 交通信号には決して使用されない。
 2. その車線の交通にとって、赤色の信号灯と同様の意味を持つ。
 3. その矢印が指し示す方向へ進むことができることを示す。
 4. その矢印が指し示す方向に進む交通は停止しなければならないことを示す。

42

63. 矢印式信号は、特定の車線からの右左折を制御するためにしばしば使用される。黄色の矢印信号は
1. 交通信号には決して使用されない。
 2. その車線の交通にとって黄色の信号灯と同様の意味を持つ。
 3. その矢印が指し示す方向へ進むことができることを示す。
 4. 青色の矢印がまもなく標示されることを示す。

42

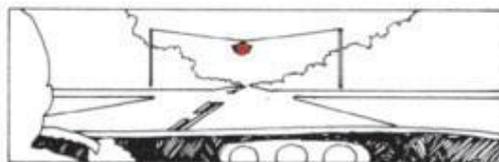
64. 矢印式信号は、特定の車線からの右左折を制御するためにしばしば使用される。青色の矢印は
1. 一方通行の道路にしか使用されない。
 2. 丸型の青信号と同じ意味だが、矢印が指し示す方向にのみ進行できることを示す。
 3. 別の青信号と共に標示された場合のみ進行できることを示す。
 4. 空港への方向を示す。

45

65. 赤色の点滅信号は
1. 赤信号と同じ意味を示す。
 2. 一時停止の標識と同じ意味である。
 3. 徐行標識と同じ意味である。
 4. 警戒標識と同じ意味である。

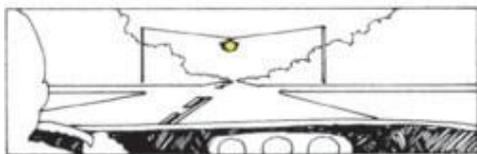
45

66. 下図に示す交差点に接近中、図のように赤色の信号が点滅しているとき、取るべき行動は以下のどれか。
1. 一旦完全に停止して、交通を確認し、安全なときに進入する。
 2. 減速し、優先権のある車両に道を譲る。
 3. 左折する場合のみ停止する。
 4. 停止できるように準備する。



45

67. 下図に示す、点滅する黄色信号が意味するのは以下のどれか。
1. 道路の終点を示す。
 2. 停止しなければならないことを示す。
 3. 注意して進入せよという意味である。
 4. 交差する交通がある場合に停止しなければならないことを示す。



45

68. 車線の上に点灯標示される赤色の「X」が意味するのは以下のどれか。
1. その車線が利用できることを示す。
 2. その車線が利用できないことを示す。
 3. その車線が反対方向からの交通用であることを示す。
 4. 2と3の両方。

Ref.
Pg.
42

69. 車線の上に点灯標示される青色の矢印が意味するのは以下のどれか。
1. その車線が利用できることを示す。
 2. その車線が利用できないことを示す。
 3. その車線が反対方向からの交通用であることを示す。
 4. 2と3の両方。

45

70. 車線の上に点灯標示される黄色の「X」が意味するのは以下のどれか。
1. その車線が間もなく反対方向からの通行となるため、その車線から出なければならないことを示す。
 2. その車線が利用できることを示す。
 3. その車線が左折専用であることを示す。
 4. その車線は利用できるが注意が必要であることを示す。

45

71. 歩行者用信号は「WALK (すすめ)」および「DON' T WALK (止まれ)」という文字、歩く人と手のひらのシンボルから成る。「DON' T WALK」という文字または手のひらのシンボルが点灯しているときは
1. 歩行者は信号に面する道路の横断を開始してはならない。
 2. 信号に面した交差点を既に渡っている歩行者は、もっとも近い歩道、緩衝帯、安全地帯までそのまま進むことができる。
 3. 信号に面した交差点を既に渡っている歩行者は、もっとも近い歩道まで走らねばならない。
 4. 1と2の両方。

47



72. 下図の「減速 (REDUCED SPEED AHEAD)」標識が意味するのは
1. 制限速度がより低い区域に入るまでは、現在の速度を保たなければならない。
 2. すぐに減速を開始するべきである。
 3. 渋滞の原因になるので、減速するのは危険である。
 4. この標識はノロノロ運転をする運転者のためのものである。

47

73. 「Reduced Speed 35 MPH (35マイルに減速)」の標識が意味するのは以下のどれか。
1. この標識のある地点から制限速度が時速35マイルの区間が始まる。
 2. 時速35マイルの区間は次の速度制限標識がある地点から始まる。
 3. 新しい速度の区間はまだ相当先なので減速するには十分な時間がある。
 4. この標識は「良い」運転者に嫌がらせをするためのものである。

47



74. 「Do not pass (追い越し禁止)」の標識が意味するのは以下のどれか。
1. この標識が掲示されている区間では、他の車を追い越してはならない。
 2. すばやく追い越せる場合には、低速車を追い越してもよい。
 3. この道路を良く知っている場合には、他の車を追い越してもよい。
 4. 夜間、対向車から見えるようヘッドライトを点灯していれば、追い越してもよい。

Ref.
Pg.
48



75. 左図の標識が意味するのは
1. Uターン禁止。
 2. Uターン可。
 3. つづら折りあり。
 4. 左背向屈折あり。

48



76. 左図の標識が意味するのは
1. 右折禁止。
 2. 右折可。
 3. 右折前に一時停止。
 4. 急カーブあり。

48



77. 左図の標識が意味するのは
1. 停止せよ。
 2. 進入禁止。
 3. 踏切。
 4. 徐行。

50



78. 左図の標識が意味するのは
1. 車線用信号。
 2. 車線閉鎖。
 3. 踏切あり。
 4. 信号機あり。

49



79. 左図の標識が意味するのは
1. 一方通行。
 2. 中央分離帯あり。
 3. 二方向通行。
 4. 左側を通行。

49



80. 左図の標識が意味するのは
1. 一方通行。
 2. 中央分離帯終了。
 3. 二方向通行。
 4. 右側を通行。

49



81. 左図の標識が意味するのは
1. トラック専用。
 2. トラック進入注意。
 3. 勾配あり。
 4. トラックに優先権あり。

49



82. 左図の標識が意味するのは
1. すべりやすい。
 2. 酒酔い運転者に注意。
 3. カーブ危険。
 4. 道路に突起あり。

49



83. 左図の標識が意味するのは
1. 学校あり。
 2. 通学用横断歩道あり。
 3. 歩行者横断歩道あり。
 4. 工事中。

Ref.
Pg.
49



84. 左図の標識が意味するのは
1. 狭い橋あり。
 2. 車線数減少または幅員減少。
 3. 工業地区。
 4. 高速道路入り口。

50



85. 左図の標識が意味するのは
1. 図書館あり。
 2. 通学用横断歩道あり。
 3. 歩行者横断歩道あり。
 4. 子ども注意。

50



- 86.左図の標識が意味するのは
1. スクールゾーン。
 2. 図書館前横断歩道あり。
 3. 歩行者横断歩道あり。
 4. 子ども注意。

57

- 87.アルコール飲料の影響下で運転する運転者は
1. お酒を飲むか否かにかかわらず、すべての運転者の問題である。
 2. お酒を飲む人だけの問題である。
 3. ハワイ州では問題ではない。
 4. 警察の取締りに関する問題である。

57

- 88.仕事帰りに数杯お酒を飲んで帰宅するのは
1. 渋滞を避けられるので好ましい。
 2. 1日のストレスが解消でき、より安全な運転ができるため好ましい。
 3. 危険な運転をする可能性があるため避けるべきである。
 4. 誰にとっても特に影響はない。

57

- 89.アルコール飲料の影響の出方は
1. 食事をした後、より速く影響が出る。
 2. 空腹時にはより速く影響が出る。
 3. どんな場合もいつも同じである。
 4. 2杯以上飲まなければ影響しない。

57

- 90.アルコールが血中に入った後、その影響は
1. 冷たいシャワーを浴びると軽減できる。
 2. ブラックコーヒーを飲むと軽減できる。
 3. 1と2の両方。
 4. 影響を軽減する方法はない。

58

91. 警官に止められ、酒酔い運転で検挙され、血中アルコール濃度を測定するテストを受けなければならないと告げられた場合、運転者について正しいのは以下のどれか。
1. 飲んでいなかったことが証明できればテストを受けなくてもよい。
 2. テストを受けなければ、免許を失う可能性がある。
 3. 交通法規を破っていない場合は、テストを受けなくてもよい。
 4. 何もしなくてよい。

Ref.
Pg.
58

92. 酒酔い運転（driving under the influence of alcohol）で検挙され、血中アルコール濃度測定検査を受けるのを拒否した場合には
1. 酒酔い運転で有罪になった場合のみ1年間の免許停止となる。
 2. 交通法規に違反していた場合のみ1年間の免許停止となる。
 3. 検査を受けるのを拒否すると1年間の免許停止となる。
 4. 免許を停止されることはない。

58

93. 公道上の車両の中でアルコール飲料を飲んでよいのは
1. 運転者でなければ誰でも飲んでよい。
 2. 後部座席に座っている場合のみ。
 3. ピックアップトラックの荷台に座っている場合のみ。
 4. 公道でアルコール飲料を飲むのは法律違反である。

58

94. 薬物が安全に運転する能力の妨げとなる場合があるのは以下の場合か。
1. 医師から処方された処方薬の場合のみ。
 2. アルコールと同時に摂取した場合のみ。
 3. 夜間に走行する場合のみ。
 4. 薬物は安全に運転する能力の妨げになることがあるため、医師から薬の処方を受けたら、運転能力に影響するかどうかを尋ねるのが重要である。

58

95. 薬を服用しながらアルコール飲料を飲むのは
1. 別々に服用するよりも影響が軽いため、どんな場合にも安全である。
 2. 別々に服用するよりも影響が大きい。
 3. 病気の治療に役立つ。
 4. 運転技術向上に役立つ。

57

96. アルコールが反応速度や判断力に与える影響は
1. ビールだけ飲んでいる場合には軽くなる。
 2. ワインだけ飲んでいる場合には軽くなる。
 3. ウイスキーなどの強い酒を飲むと大きくなる。
 4. 血中アルコール濃度による。

59

97. 運転中、車線変更、路肩からの発進、降車などの前に首を回して後方の交通を確認するのは
1. 悪い運転習慣である。
 2. 良い運転習慣である。
 3. 不必要である。
 4. バックミラーがあれば不必要である。

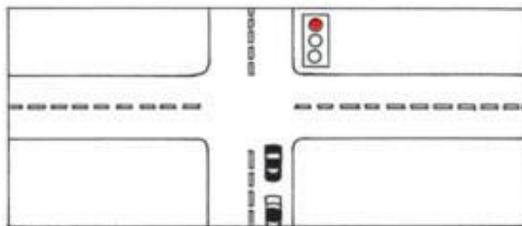
59

98. 運転中、車線変更、路肩からの発進、降車などの前に首を回して後方の交通を確認しないのは
1. バックミラーで確認している限り構わない。
 2. 悪い運転習慣である。
 3. 多くの交通事故の原因となっている。
 4. 2と3の両方。

99. 運転時、右左折や車線変更、または路肩からの発進の意図を方向指示器のシグナルで示すのは
1. 車が来ている場合にのみ必要。
 2. 良い運転習慣であり、法律で定められている。
 3. その行動を取る前ではなく、行動を取りながら出す必要がある。
 4. ゆっくりと発進または走行する場合は不要。
100. 中央分離帯のある4車線の道路を走行しており、急いでいるとき、2台の車両が並んで自分の前にいる場合、取るべき行動は以下のどれか。
1. 左車線の車両のすぐ後ろに接近して、ヘッドライトを点滅させる。
 2. 右車線の車両のすぐ後ろに接近する。
 3. いずれかの車線で、少なくとも2秒間の車間距離を空けて走行する。
 4. 車線をこまめに変えながら、両方の車のすぐ後ろに接近して走行する。
101. 下図に示す交差点に接近し、右折する予定で、すぐ後ろに別の車がいる場合、取るべき行動は以下のどれか。
1. 方向指示器のシグナルを出し、減速して右折する。
 2. 方向指示器のシグナルを出し、一旦完全に停止し、交差点に歩行者や他の車両がいなくなってから右折する。
 3. 方向指示器のシグナルを出し、完全に停止して、青信号を待ってから右折する。
 4. 減速して右折する。

69

41
&
59



102. 渋滞の中を運転するときには
1. 他の車が割り込まないように前の車との間を詰めて運転する。
 2. 前の車との間を詰め、注意して運転する。
 3. 1と2の両方。
 4. 少なくとも2秒間の車間距離を空けて走行する。
103. 他の車両の後ろを走行しているとき、その車の運転者が片手でハンドルを握り、同乗者と話しているのに気づいた場合に分かることは以下のどれか。
1. その車との間に通常よりも長い車間距離を取るべきである。
 2. その運転者は不注意運転により、安全性を損なっている。
 3. このような悪い習慣をつけるのは避けるべきである。
 4. 上記すべて正しい。

67

59
&
60

104. 不注意運転の例とは以下のどれか。
1. 運転しながらぼんやり考えごとをしたり、道路脇にある何かに気を取られること。
 2. 運転中、同乗者とアイコンタクトをしながら会話すること。
 3. 前を走る車のみすべての注意を向けていること。
 4. 上記すべて正しい。
- 60 105. 傲慢な運転者は
1. 意識的に急ぎ、他の車と競争しようとする。
 2. 交通法規や、他の運転者や歩行者の優先権にほとんど従わなかったり、無視する。
 3. 道路で見かけたら避けるべきである。
 4. 上記すべて正しい。
- 61 106. 防衛運転とは、以下のような運転技術である。
1. 危険な状況を特定し、事故を避けるために行動する。
 2. 運転の下手な運転者を避けるため、そのような運転者の車の前に出るようにする。
 3. 事故から身を守るため、前の車にぴったり接近して運転する。
 4. 事故から身を守るため、渋滞に巻き込まれないよう速度を上げて走行する。
- 61 107. 防衛運転を実行するには
1. 周囲の交通状況の変化に常に注意する。
 2. 自分の車よりもずっと先を見て、適切な車間距離を保つ。
 3. 予想外の事態が起きた場合に取れる代替行動を準備しておく（常に逃げ道を確認する）。
 4. 上記すべて正しい。
- 61 108. 運転に必要な情報は、主に
1. 目で見ることにより得られる。
 2. 自分との対話により得られる。
 3. 他の交通と同じ行動を取ることにより得られる。
 4. ラジオにより得られる。
- 61 109. 車両の速度が上がると
1. 視界も良くなる。
 2. 視界が狭くなる。
 3. 交差する交通が見えやすくなる。
 4. 速度は視界に影響しない。
- 62 110. 運転者としての心身の状態は
1. 運転上はあまり重要ではない。
 2. 安全運転する上で非常に重要な要素である。
 3. 運転能力にはまったく影響しない。
 4. 1と3の両方。

111. 安全な運行の妨げになる可能性のある車両の不具合に気づいたとき、取るべき行動は以下のどれか。
1. 可能な限り迅速に不具合を直す。
 2. お金に余裕ができたなら不具合を直す。
 3. 低速で運転するようにする。
 4. 不具合を修理するまで誰も乗せないようにする。
- 62 112. これまで一度も運転したことの無い車を友人から借りて運転するとき、取るべき行動は以下のどれか。
1. どの車も似たようなものなので、すぐ運転を始める。
 2. 友人に、その車に慣れていないことを気づかれないようにする。
 3. 友人に恥をかかせないように、明らかな不具合があっても無視する。
 4. 数分間かけて、その車の操作方法や機器の場所に慣れておく。
- 62 113. 慣れない場所に車を運転して行くときは
1. 道路標識を頼りにすることができる。
 2. 事前に計画を立てるべきである。
 3. 目的地について大体の見当がついていればよい。
 4. 常に最短距離のルートを選ぶべきである。
- 62 114. 車両のインストルメントパネルに装備されている警告灯について、以下のうち正しいのはどれか。
1. エンジンが始動する前、イグニッションスイッチをオンにすると、すべての警告灯が点灯する。
 2. エンジンが始動するまでどの警告灯も点灯しない。
 3. いずれの警告灯も、不具合がない限り決して点灯しない。
 4. ヘッドライトを点灯したときのみ、警告灯が点灯する。
- 63 115. 車両に装備されているブレーキ警告灯は、
1. パーキングブレーキを解除すると点灯する。
 2. フットブレーキを踏んでも点灯しない。
 3. 決して点灯しないはずである。
 4. ブレーキライトが正常に作動していることを示す。
- 63 116. シートベルトは生命を守るベルトである。従って
1. 運転中は、同乗者も含め、車内の全員が常に着用しなければならない。
 2. 高速で走行する場合のみ着用すべきである。
 3. ゆるめに着用すべきである。
 4. 車両の前部座席に座ったときのみ着用すべきである。
- 63 117. シートベルトに調整が必要な理由は
1. ゆるめに着用するため。
 2. 腰骨と下腹部の上にぴったりと装着するため。
 3. シートの下に隠れているため。
 4. シートベルト警告灯やブザーが作動するのを防ぐため。

118. 小さな子どもを車に乗せるときは、
1. 力の強い大人がしっかり抱いていれば安全である。
 2. 前部座席または後部座席の床の上に立たせていれば安全である。
 3. 子どもは身体が小さいため事故に遭っても負傷することはない。
 4. 決して座席の上に立たせてはならない。

119. 仕事に遅刻して急いでいるとき、車をバックさせて道路に出る前にすることは
1. 警笛を鳴らす。
 2. 車の周辺に子どもやその他の障害物がないかどうか確認する。
 3. ペットがどくようにエンジンを空ふかしする。
 4. 道に他の車がないかどうか、車に乗る前に確認する。

120. 車寄せから前進で道路に出るときには
1. 歩道を横切る前に、一旦完全に停止しなければならない。
 2. 歩道を横切る前に減速しなければならない。
 3. 歩道にいる歩行者よりも、車両の方が優先権を持つ。
 4. 警笛を鳴らせば、停止することなく歩道を横切ることができる。

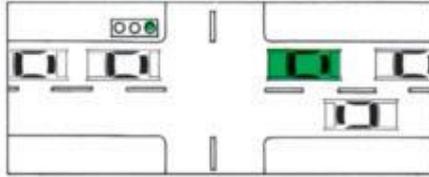
121. 複数の車線がある自動車道で車線変更をするとき、方向指示器でシグナルを出さなければならないときは以下のうちどれか。
1. 車線を変える直前。
 2. 車線を実際に変えるときのみ。
 3. 車線変更を始める少なくとも50フィート(15メートル) 手前。
 4. 車線変更を始める少なくとも100フィート(30メートル) 手前。

122. 4車線の自動車道を走行中、自分の車の前を低速車が走っていて、普通の交通量がある場合、車線を変更する前にしなければならないのは以下のどれか。
1. 車線変更をする少なくとも100フィート(30メートル) 手前でその意図をシグナルで示す。
 2. 死角に他の車両がないかどうか確認する。
 3. 隣の車線に十分なスペースがあるかどうか確認する (他の車の間の2秒間の車間距離の間に割り込んではいない)。
 4. 上記すべて正しい。

123. 前の車との距離が短すぎることにより、多くの交通事故が起きている。このような事故を防ぐための適切な車間距離は以下のうちどれか。
1. 割り込みができない程度に車間を詰める。
 2. 先行車と自分の車の間に少なくとも2秒間のスペースを保つ。
 3. 100フィート (約30メートル)。
 4. 75フィート (約23メートル)。

124. 運転中、雨が降ってきたときに取るべき行動は以下のどれか。
1. 他の車よりも速く走行する。
 2. 少なくとも制限速度で走行する。
 3. 天候の状況に合わせて減速する。
 4. 前の車にぴったり接近して運転する。

125. 急なカーブと急傾斜が続く山道を運転するときには
1. 対向車のために道路の舗装面の少なくとも半分を常に空ける。
 2. 長い坂を下るときは低速ギアを使い、速度を抑える。
 3. 道路の右端近くを走行する。
 4. 上記すべて正しい。
126. 路上の駐車場所に停止したばかりの車に接近するとき取るべき行動は以下のどれか。
1. その車の運転者がドアを開けるものと予期する。
 2. 加速する。
 3. 急ブレーキを踏む。
 4. その車の運転者は自分が通り過ぎるまでドアを開けないだろうと推測する。
127. 交差点で停止すると、交差点の反対側の交通が渋滞で止まっているのが見えた。青信号に変わったとき取るべき行動は以下のどれか。
1. 交差点に進入し、できるだけ遠くまで行く。
 2. 交差点の反対側に車1台分が完全に収まるスペースが空くまで進入するのを待つ。
 3. 警笛を鳴らす。
 4. 交差点に車体を少し乗り入れる。



128. 交通法規では、右左折や車線変更を開始する少なくとも__フィート前にシグナルを出すよう定められている。
1. 50フィート (約15m)。
 2. 75フィート (約23m)。
 3. 100フィート (約30m)。
 4. 25フィート (約8m)。
129. ハザード警告シグナル (4ウェイフラッシャー) は、他の車の運転者に対し、自分の車が道路上のハザード (危険物) となる場所に停車していることを知らせるためのものである。このシグナルを使うべきときは以下のどれか。
1. トンネル内を走行するとき。
 2. 大重量のトラックやバスが上り坂を走行するとき。
 3. 路肩で緊急の修理を行うとき。
 4. 2と3の両方。
130. 右左折または車線変更のシグナルを出すとき取るべき行動は以下のどれか。
1. 右左折や車線変更を実際に行うときのみシグナルを出す。
 2. 右左折や車線変更時を意図したときには常にシグナルで示す。
 3. 100フィート (約30メートル) 手前でシグナルを出せば、右左折または車線変更をする権利が得られる。
 4. 上記すべて正しい。

131. オートバイを追い越すときには：
1. オートバイのために車線の右側の部分を空けておく。
 2. オートバイのために、他の乗用車と同様に車線のすべてを空ける。
 3. オートバイがぎりぎり通れるだけのスペースを空けて左に寄る。
 4. オートバイの運転者に追い越しの意図を伝えない。

132. 重量の大きな車両が泥道から道路に進入してきたとき、とるべき行動は以下のどれか。
1. その付近に接近したら減速する。
 2. 他の車の後に、少なくとも倍の車間距離を空ける。
 3. 雨が降り出すと、その区間は非常にすべりやすくなることに注意する。
 4. 上記すべて正しい。

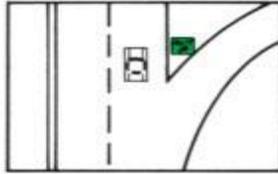
133. ハイドロプレーニング現象は、豪雨などの中でタイヤが路面の水の上を「滑走」してしまう現象を指す。ハイドロプレーニング現象を防ぐには
1. タイヤのトレッドの溝に十分な深さがあるか確認しておく。
 2. タイヤの空気圧が適切かどうか確認しておく。
 3. 雨天時は減速して走行する。
 4. 上記すべて正しい。

134. 夜間に走行中、他の車が接近してきたとき、ヘッドライトは
1. ハイビームにするべきである。 2. ロービームにするべきである。
 3. 消して、パーキングライトを使うべきである。
 4. ハイビームでもロービームでもよい。

135. 高速道路のランプウェイに入ったとき、取るべき行動は以下のどれか。
1. ランプウェイの終わりまで進み、停止して、接近する交通を確認し、シグナルを出し、近くの車線に進入する。
 2. 停止し、近くの車線に車がないことを確認し、ランプウェイ内で加速し、シグナルを出して近くの車線に進入する。
 3. 近くの車線の交通を確認し、接近する車に速度を合わせ、シグナルを出して近くの車線に進入する。
 4. 高速道路に入る前には必ず停止する。

136. 高速道路の出口に標示されている出口用の速度が意味するのは以下のどれか。
1. 高速道路を出る前にその速度まで減速する。
 2. 高速道路の出口ランプウェイ内でその速度に減速する。
 3. 出口ランプウェイ内ではその速度未満で走行してはならない。
 4. 出口ランプウェイ内のどの箇所でもその速度を超える速度で走行してはならない。

137. 下りようと思っていた高速道路の出口を通り過ぎてしまった場合取るべき行動は以下のどれか。
1. 路肩でバックして出口ランプウェイに進入する。
 2. 路肩でUターンし、路肩を走行して出口に向かう。
 3. 植え込みの芝生を横切って出口へ向かう。
 4. 次の出口まで進む。



138. 走行中にタイヤが破裂してしまった場合、取るべき行動は以下のどれか。
1. 急ブレーキを踏む。
 2. ハンドルをしっかり握り、路肩に寄せて停止する。
 3. そのまま進む。
 4. ハザードランプを点灯する。

139. 走行中、車輪が滑って縁石の外に脱輪してしまった場合、取るべき行動は以下のどれか。
1. 急ハンドルを切って車両を舗装面に戻す。
 2. 加速して、ゆっくりと車両を舗装面に戻す。
 3. 急ブレーキを踏んで停止する。
 4. ブレーキを軽く踏みながら減速し、安全な速度になってからハンドルを切り、舗装面に戻る。

140. 交通量の多い道路で、アクセルペダルが固着して戻らなくなった場合取るべき行動は以下のどれか。
1. 警笛を鳴らす。
 2. 急ブレーキを踏む。
 3. ハザード警告シグナルを点灯する。
 4. ハンドルがロックされないように気をつけてイグニッションスイッチを切る。

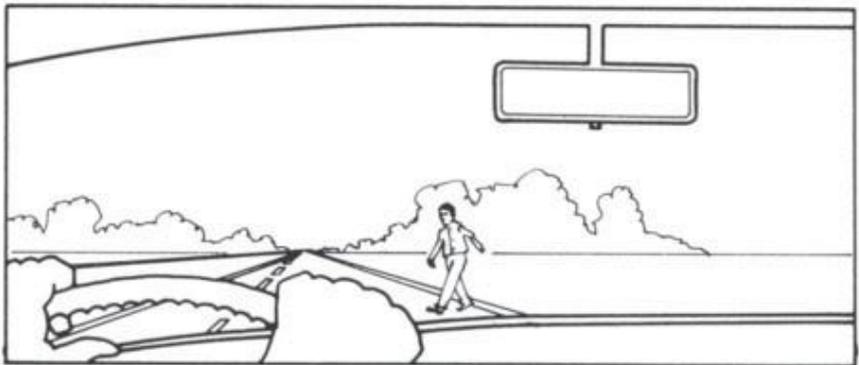
141. 走行中、突然パワーステアリングが効かなくなってしまった場合取るべき行動は以下のどれか。
1. 警笛を鳴らしイグニッションスイッチを切る。
 2. ハザード警告シグナルを点灯し、衝撃に備える。
 3. しっかりハンドルを握り、減速して安全な場所に車を寄せて停止する。
 4. 急ブレーキを踏む。

142. 重量の大きなトラックやバスとの間には他の車との間よりも長い車間距離を取るべきである。その理由は
1. トラックは乗用車よりも制動距離が短いため。
 2. トラックは操作のために乗用車よりも大きなスペースを必要とするため。
 3. トラックは乗用車よりも制動距離が長いため。
 4. 2と3の両方。

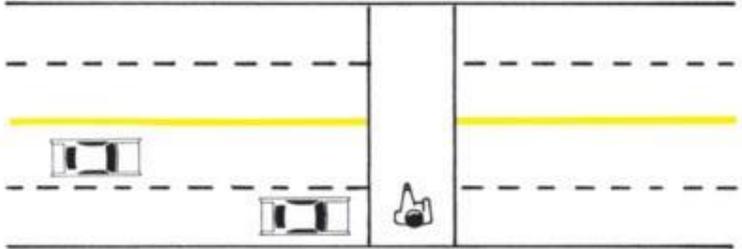
- Ref.
Pg.
87
143. ハワイ州で重量の大きなトラックを運転する際の要件は
1. 少なくとも21歳でなければならない。
 2. 車両のカテゴリーに合った有効な免許証を保持する。
 3. 特に資格は不要。
 4. トラック用の道路でのみ運転できる。
- 87
144. 自動車道で重量の大きなトラックまたはバスを運転するときには
1. 他の車よりも大きな責任を有し、道路の他の利用者に対し適切な配慮をする必要がある。
 2. 他の車両よりも車体が大きいいため、運転がより有利になる。
 3. 車体の小さな車両は道を空けてくれるものと考えてよい。
 4. 責任を持つのは車両と積荷に対してだけである。
- 87
145. 重量の大きなトラックやバスのすぐ後ろを走行するときに特に注意が必要な理由は以下のどれか。
1. 大型トラックやバスの運転者からは、後方の車両が見えない可能性があるため。
 2. トラックやバスにより前方の視界がさえぎられるため。
 3. 1と2の両方。
 4. 上記のいずれも不正解。
- 88
146. 大型トラックの近くで車線変更をしたり交差点に接近する場合、他の車両の運転者や道路の利用者が注意すべき事柄は
1. 大型車両は停止に他の車両よりも長い距離を要すること。
 2. 大型車両は他の車両よりも短い距離で停止すること。
 3. 大型車両がより大きな音を立てること。
 4. 大型車両が速度を上げること。
- 88
147. 上り坂を走行中、大型トラックに後方から接近したときに注意すべきなのは以下のどれか。
1. 大型トラックは標示されている制限速度よりも低速で走行している可能性があること。
 2. トラックを安全に追い越せない可能性があること。
 3. 交通法規に違反せずに追い越せない可能性があること。
 4. 上記すべて正しい。
- 88
148. 下り坂を走行中、後方から大型車両が接近してきた場合に取りべき行動は以下のどれか。
1. 大型車両は下り坂では常に速度を上げるものなので、気にしない。
 2. 自分は優先権があるので、自分の車両が見えなかったとしてもトラックの運転者の責任であると考える。
 3. 大型車両に道を空けなければならない可能性を考慮する。
 4. 道路の右側を走行し、減速する。
- 88
149. 大型車両を追い越すとき、小型車両の運転者が予期すべきことは以下のどれか。
1. 大きな音。
 2. 過剰な排気ガス。
 3. 大型車両が起こす突風。
 4. 車両の部品が落下すること。

- Ref.
Pg.
89
150. ルームミラー越しに見る後方の視界をさえぎるほど大型のトレーラーをけん引する場合に必要なとされる事柄は以下のどれか。
1. 運転席側の車体横にバックミラーを取り付ける。
 2. 運転席と反対側の車体横にバックミラーを取り付ける。
 3. 車体の両側にバックミラーを取り付ける。
 4. 右折のたびに、同乗する人に確認してもらう。
- 89**
151. 総重量がけん引車両の車重の半分を超える、または3,000ポンド（約1,360kg）以上のトレーラーをけん引する場合、そのトレーラーが装備していなければならないのは以下のうちどれか。
1. ブレーキ。
 2. 離脱防止装置。
 3. ハブキャップ。
 4. ブレーキと離脱防止装置。
- 89**
152. トレーラーまたはハウストレーラーをけん引するときに、常に守らなければならないのは以下のうちどれか。
1. トレーラーには必ず誰かが乗って、積荷を固定しておく。
 2. トレーラーには成人のみ乗車を許可する。
 3. トレーラーには何人も乗車を許可しない。
 4. ハウストレーラーには乗車を許可してもよいが、その他のトレーラーには乗車を許可しない。
- 89**
153. トレーラーをけん引するときに守らねばならないのは
1. トレーラーがしっかりとトレーラーヒッチに取り付けた安全チェーンを備えていること。
 2. トレーラーがしっかりと車両のバンパーに取り付けた安全チェーンを備えていること。
 3. トレーラーがしっかりとけん引車のフレームに取り付けた安全チェーンを備えていること。
 4. トレーラーヒッチがフェイルセーフのラッチを備えていること。
- 90**
154. 積載物のあるトレーラーをけん引するときは、積載量の適切なバランスが重要である。トレーラー総重量の約__パーセントから__パーセントがトレーラーヒッチにかかるのが適切である。
- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 5/10 | 3. 15/20. |
| 2. 10/15. | 4 最大25 |
- 90**
155. トレーラーをけん引するときには、以下が必要である。
1. 車輪は適切にマウントし、油をさし、フェンダーまたは泥除けでカバーすること。
 2. タイヤは適正な空気圧を維持すること。
 3. テールランプ、ストップランプ、方向指示器、ナンバープレート、サイドマーカーランプ、反射板を備えること。
 4. 上記すべて正しい。
- 54**
156. 交通事故にかかわったときに取るべき行動は以下のどれか。
1. ただちに停止する。
 2. 負傷者を救護する。
 3. 警察に連絡する。
 4. 上記すべて正しい。

157. 事故が起き、あなたの車両が交通の妨げとなっているときに取るべき行動は以下のどれか。
1. 可能な場合は、車を走行車線の外に出す。
 2. どんな場合にも車を動かしてはならない。
 3. 警察が到着するまで待つてから車を動かす。
 4. 上記のいずれも不正解。
- 54
158. 事故が起き、他の人が負傷をしているときに取るべき行動は以下のどれか。
1. 負傷者をただちに事故現場から移動させる。
 2. 負傷者は常にその場にそのままにしておく。
 3. 不必要に負傷者を動かさず、身体を温かく保ち、応急措置を施す。
 4. 負傷者に近寄らない。
- 54
159. 交通事故が発生し、事故現場が接近する車からよく見えない場合にすべきことは以下のどれか。
1. 接近する車に警告する人を立てる。
 2. 接近する車には、それぞれに自力で注意してもらう。
 3. 警察にすべて任せる。
 4. 道路を離れる。
- 54
160. 路上に駐車していた車両にうっかり衝突してしまい、その車両の持ち主に連絡が取れないときに取るべき行動は以下のどれか。
1. 出来る限りのことはしたと考える。
 2. 警察が来るまでその場にとどまる。
 3. 自分の氏名と状況を記したメモを残しておく。
 4. そのまま立ち去る。
- 97
161. 下図のように、歩行者があなたの車両の前で道路を渡り始めているとき、取るべき行動は以下のどれか。
1. 警笛を鳴らす。
 2. 減速する。
 3. 加速して歩行者の前を通過する。
 4. 歩行者が安全に渡れるように停止する。

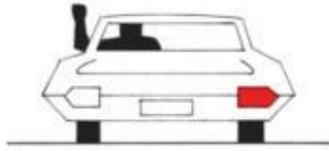


162. 複数の車線を持つ自動車道で、下図のように横断歩道の手前で停止している車両に気づいたとき、取るべき行動は
1. その車両を右側から追い越す。
 2. その車両を左側から追い越す。
 3. 車両を追い越さない。
 4. 追い越しの前に警笛を鳴らす。

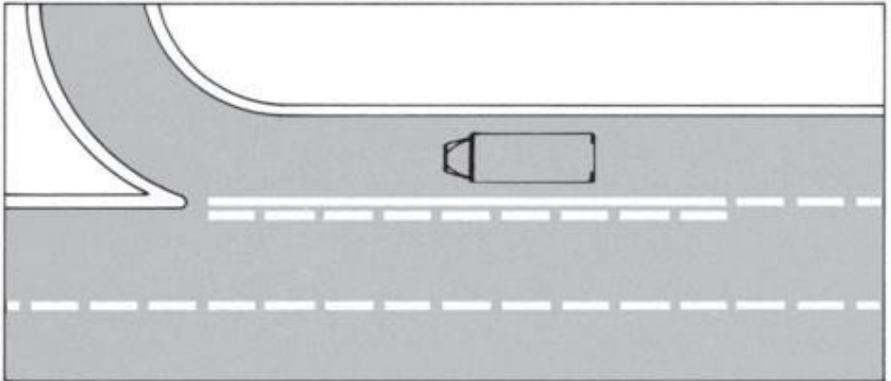


98. 163. 歩行者は以下を理解しなければならない。
1. 横断歩道を渡っているときは、常に自分に優先権があることを車両に向かって主張するべきである。
 2. 車が接近しているときには決して道路や横断歩道に入るべきではない。
 3. 停止するのは運転者の責任なので、横断歩道にはいつでも立ち入ってよい。
 4. 横断歩道は、便利な場所にあるときのみ利用すればよい。
98. 164. 歩行者は以下を理解しなければならない。
1. 道路を渡る前には、右左折してくる車がないかどうか注意するべきである。
 2. 道路沿いや道路を渡るときに走ってはいけない。
 3. 車の流れに向かい、道路の左側を歩くべきである。
 4. 上記すべて正しい。
99. 165. 運転者は、自転車について以下を理解しなければならない。
1. 自転車利用者には車両の運転者と同等の権利がある。
 2. 自転車には運転者が考える2倍のスペースが必要である。
 3. 自転車専用レーンを車両が横切るときは自転車に優先権があること。
 4. 上記すべて正しい。
99. 166. 自転車利用者は
1. 自転車の性質上当てはまらないものを除き、交通標識、信号、その他の交通法規に従わなければならない。
 2. ビジネス地区では歩道を走行しなければならない。
 3. 車線の中央を走行しなければならない。
 4. 上記すべて正しい。
99. 167. 自転車利用者は
1. 道路上で並んで走ってもよい。
 2. 禁止されている区域を除き自転車道では並んで走ってよい。
 3. 歩行者に対して優先権を持つ。
 4. 車両に接続して走行してもよい。

168. 自転車利用者は：
1. 自転車に専用の設備がない限り、二人乗りをしてはいけない。
 2. どんな場所でも歩道を走行してはならない。
 3. 夜間に走行してはならない。
 4. ビジネス地区では車道を走行してはならない。
30. 169. 下図の運転者が行っている手信号の意味は以下のどれか。
1. 停止する。
 2. 左折する。
 3. 右折する。
 4. 減速する。



36. 170. 下図のトラックは白色の実線の内側を走行している。このトラックは
1. この実線をいつでも越えてよい。
 2. この実線を越えて高速道路に進入してよい。
 3. この実線を越えてはならない。
 4. 間違った車線を走行している。



46. 171. 全方向に一時停止標識のある交差点に接近したときは、
1. 停止し、交差点内のすべての車に道を譲らなければならない。
 2. 交差する道に車がいなければ、停止せず進んでよい。
 3. 右折する場合は停止しなくてよい。
 4. 2と3はいずれも正しい。

- 66** 172. ハワイ州では、無人の車両に
1. 運転者や他の成人の同乗者が子どもを放置することは禁じられている。
 2. 子どもを5分以上放置することは禁じられている。
 3. 9歳未満の子どもを放置することは禁じられている。
 4. 上記すべて正しい。
- 60** 173. 運転者が携帯電話やその他のモバイルデバイスを運転中に使うもっとも安全な方法は以下のどれか。
1. 両手でハンドル操作ができるようハンズフリーの機器を使うことである。ただし、18歳未満の場合を除く。
 2. いつでも簡単に使えるように携帯電話やiPodを手近に置いておく。
 3. 電話に出る前に番号を確認する。
 4. 上記のいずれも不正解。
- 97** 174. 白い杖を持った歩行者、または介護犬を連れた歩行者が道路上にいた場合、運転者は以下を理解しなければならない。
1. 白い杖を使っている歩行者は盲人または視覚障がい者である。
 2. 介護犬と共にいる歩行者は盲人、視覚障がい者、またはその他の障がいを持つ人である。
 3. 上記の歩行者を含め、すべての盲人または視覚障がい者である歩行者がいた場合は停止しなければならない。
 4. 上記すべて正しい。
- 63** 175. シートベルトは生命を守るベルトである。従って
1. 車両を運転中、または同乗する時には常に着用しなければならない。
 2. 高速で走行する場合のみ着用する。
 3. ゆるめに着用する。
 4. 車両の前部座席に座ったときのみ着用する。
- 30** 176. 障がい者用駐車スペースに駐車できるのは以下のどれか。
1. 障がい者を乗せているすべての車両。
 2. 障がいを持つ人が使用する車両であることを示すブラカードを掲示しているすべての車両。
 3. 障がいを持つ人が使用する車両であることを示すブラカードを掲示し、その障がいを持つ人を乗せているすべての車両。
 4. 他の駐車スペースが空いていない場合には、どの車両でも駐車してよい。
- 30** 177. 障がい者用駐車スペースの隣に設けられたアクセス用通路の使用目的は以下のどれか。
1. 緊急車両の駐車場所。
 2. 障がい者用駐車スペースに駐車した車が、車椅子用の昇降リフトやスロープ、その他の機器を使用するための場所。
 3. オートバイ、原付自転車、自転車の駐車場所。
 4. 乗り降りのために一時的に車両が停車できる場所。

メモ

メモ

メモ